

緑と水の森林ファンド公募事業報告集

Vol. 10



少年少女里山マイスター養成講座 NPO法人 徳島県森の案内人ネットワーク (徳島県)

はじめに

昭和 63 年に 3 月に「緑と水の森林基金」が創設されてから、31 年余の歳月が経過しました。平成 23 年 7 月には、機構の組織が社団法人から公益社団法人に変更となったことに伴い「緑と水の森林基金」は「緑の水の森林ファンド」に名称を変更し、ファンドの運用収入を活用して森林資源の整備や水源かん養等の課題を中心に、「国民参加の森林づくり運動」推進のため幅広い事業を展開してまいりました。

平成 24 年 12 月「国際森林デー」の制定、平成 25 年 11 月「国連持続可能な開発のための教育 10 年 (ESD)」世界会議等の意義を念頭に、森林の重要性に対する理解の推進を図るとともに、森の幼稚園など新たな森林の利用や森林環境教育の推進を具体的に図っていくことが重要となっています。さらに、東日本大震災では海岸林が多大な被害を受け、森林復興への支援が引き続き求められています。

このような中で、当事業は、「国民参加の森林づくり」の一層の推進のための普及啓発、森林ボランティア活動への支援、森林環境教育を通じた次世代の育成などの課題を重点に、実施主体により中央事業、都道府県事業、公募事業の 3 つに区分し実施してまいりました。

本報告書は、このうち公共事業（平成 30 年度）の成果を報告集として取りまとめたもので、事業内容は多種多様な課題にわたっております。ご高覧いただき皆様の活動の一助としてご活用いただければ幸いです。

終わりに、本冊子のとりまとめに当たりまして、ご協力いただきました皆様方に心から御礼申し上げます。

令和 2 年 2 月

公益社団法人 国土緑化推進機構

緑と水の森林基金・ファンド 刊行物一覧

「緑と水の森林基金」事業事例集	21世紀へ引き継ぐ森林づくり	平成2年版	(1992.4)
「緑と水の森林基金」事業事例集	21世紀へ引き継ぐ森林づくり	平成3・4年版	(1994.8)
「緑と水の森林基金」事業事例集	21世紀へ引き継ぐ森林づくり	平成5・6年版	(1996.3)

緑と水の森林基金	公募事業	調査研究成果選集	VOL1	緑と水のサイエンス	(1996.8)
緑と水の森林基金	公募事業	調査研究成果選集	VOL2	緑と水のサイエンス	(2001.7)
緑と水の森林基金	公募事業	調査研究成果選集	VOL3	緑と水のサイエンス	(2004.6)
緑と水の森林基金	公募事業	調査研究成果選集	VOL4	緑と水のサイエンス	(2007.8)
緑と水の森林基金	公募事業	調査研究成果選集	VOL5	緑と水のサイエンス	(2009.5)
緑と水の森林基金	公募事業	調査研究成果選集	VOL6	緑と水のサイエンス	(2010.4)

緑と水の森林基金	緑と水の森林基金公募事業報告集	VOL1	(2011. 3)
緑と水の森林基金	緑と水の森林基金公募事業報告集	VOL2	(2012. 3)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド公募事業報告集	VOL3	(2012. 12)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド公募事業報告集	VOL4	(2013. 12)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド公募事業報告集	VOL5	(2015. 3)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド公募事業報告集	VOL6	(2016. 2)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド公募事業報告集	VOL7	(2017. 2)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド公募事業報告集	VOL8	(2018. 2)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド公募事業報告集	VOL9	(2019. 2)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド公募事業報告集	VOL10	(2020. 2)

緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集	VOL1	(2013. 3)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集	VOL2	(2013. 12)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集	VOL3	(2014. 12)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集	VOL4	(2016. 2)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集	VOL5	(2017. 2)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集	VOL6	(2018. 2)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集	VOL7	(2019. 2)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集	VOL8	(2020. 2)

目次

普及啓発

「森のようちえん」啓発及び森林公園活性化事業／NPO法人 こどもサポートふらの	8
第4回全国木のまちサミット2018in つべつ／第4回 全国木のまちサミット実行委員会	9
少年・少女グループへの緑を通じた環境教育推進事業／青森県緑の少幼年団連盟	11
眺望山自然休養林を活用した健康増進活動／沖館地域緑の募金推進協力会	12
里山整備に若い力を～全校マツタケ山づくり～／岩手県立 大野高等学校	13
～森のめぐみ・子どもたちへのメッセージ～「どんぐりからうつわまで」出前講座開設事業 ／大野木工生産グループ	14
～かえでの木の命を伝える～「かえでの木物語絵本」作成催事業 ／「かえでの木」絵本づくりプロジェクト	15
SDGs 水源の森でアクション！～水づくりは未来づくり～／特定非営利活動法人 水守の郷・七ヶ宿	16
自然にふれよう／NPO法人 SCR	18
フォレストサポート・2018／ガールスカウト山形県連盟	19
地元保育園。小学生を含むファミリー向け森遊びプログラム／一般社団法人 岳温泉観光協会	20
木のおもちゃ広場の開催／子育てネットワークまもり	21
地域材による木工技術の普及と木材利用の拡大事業／特定非営利活動法人 やみぞの森	22
サシバの里「野遊びようちえん」／特定非営利活動法人 オオタカ保護基金	23
森に親しむ啓発活動／ぐんま山と森林推進協議会	24
森はともだち 楽しくまなぼう 森友 楽校／ぐんま森林インストラクター会	25
環境の未来と夢を子供たちとともに／特定非営利活動法人 ジョイライフさやま	26
匠の技の実感体験による木育・森育の面的拡大事業／木の家ネット・埼玉	28
子どもと森・緑・水をつなぐための環境教育リーダー養成講座（第3回） ／特定非営利活動法人 観照ボランティア協会	29
森林整備の推進に向けた効果的な普及啓発促進事業／一般社団法人 全国林業改良普及協会	30
森林認証材の普及・拡大と持続可能な森林経営の実現／一般社団法人 緑の循環認証会議	31
森林の環境保全機能等を巡る国内外の動向に関する啓蒙普及活動／一般社団法人 産業環境管理協会	33
医師と歩く森林セラピーロード ／International Society of Nature and Forest Medicine (INFOM)	34
八王子市の保育園で行う八王子産材を使ったお箸作りを通じた森林環境教育 ／特定非営利活動法人 森のライフスタイル研究所	35
森林ボランティアの新規参加の促進と指導者層の育成事業 ／特定非営利活動法人 森づくりフォーラム	36
森林社会学会創設のための連続講座運営 事業／「森づくり政策」市民研究会	37
木で作って木を知るプログラム／一般社団法人 TOBUSA	38
都市部における若者による森林環境教育の実践／特定非営利活動法人 こがねい環境ネットワーク	40
地域に根ざした木の建築研修会／木と建築で創造する共生社会実践研究会	41
「木のいえデザイン×耐久性シンポジウム」の開催／一般社団法人 木のいえ一番振興協会	42
木の壁が支える強く・美しく・安らぐ木造住宅普及と技術者育成の取り組み～壁-1グランプリ～ ／壁-1グランプリ実行委員会	43
「水が繋ぐ地域と世代」促進事業／（一社）全国森の循環推進協議会	45

木造文化遺産補修用材の持続的な確保について～文化財所有者側と森林所有者、 伝統建築関係者との連携を考える～／（一社）文化遺産を未来につなぐ森づくり会議	46
命の水を育む銀杏峰を癒しの森に／里山銀杏峰を愛する会	47
森フェスINぎふ山県／NPO法人 山県楽しいプロジェクト	48
「表現の森で遊ぶ」五感で森を感じるプログラム／特定非営利活動法人 まあむ	49
森から始まる、みんなで作る木製遊具作り／公益社団法人 静岡県林業会議所	50
地産材を活用した木工作品の公募展／特定非営利活動法人 伊豆学研究会	51
梨の木の森を楽しみ学ぶ森林環境教育／梨の木里山づくりの会	52
小学校授業での森林体験学習／特定非営利活動法人 水とみどりを愛する会	53
「はじめての山仕事ガイド」制作・啓発事業／一般社団法人 おいでん・さんそん	54
もりであ～そぼ！／一般社団法人 森の風	55
ユネスコエコパークの森 林道ウォーキング／一般社団法人 三重県森林協会	56
地域産木材利用促進普及啓発事業／特定非営利活動法人 京都森林・木材塾	57
未利用バイオマス資源化と整備促進／藪の傍	58
地域の森と地域産木材の魅力を伝える「木材コーディネーター」養成事業／NPO法人 サウンドウッズ	60
とみきたひつじクラブ／登美ヶ丘北中学校区地域教育協議会	62
第14回森のようちえん全国交流フォーラム in とっとり	
／森のようちえん全国交流フォーラム in とっとり実行委員会	63
とっとりからグリーンウェイブの風を！ in 倉吉	
／「とっとりからグリーンウェイブの風を！in 倉吉」実行委員会	66
里山保全の普及啓発事業／NPO法人 倭文の郷	67
おかやま木育活動（木工・自然クラフト体験・森林環境学習）／おかやま木育クラブ	68
木育グランピング／木育普及委員会	69
少年少女里山マイスター養成講座／特定非営利活動法人 徳島県森の案内人ネットワーク	70
「とくしま木づかいフェア 2018」の開催／とくしま木づかい県民会議	71
とくしま木造建築学校・配信コンテンツ作成事業／とくしま木造建築学校運営協議会	72
森林の公益的機能の理解を深めるためのシンポジウムと現地見学会／四国の森づくりネットワーク	73
学校林を活用した緑の少年団活動の事例発表による森林ESDの推進と、アラスカ写真家の講演会開催	
／緑の少年団愛媛県連盟	74
五感で森に親しみ森に学ぶ乳幼児期からの体験型森林環境教育事業	
／ふくつ子どもステーション すてっふ	76
森林と市民を結ぶ全国の集いから10年 福岡・九州のこれからの森づくりを考える	
／ふくおか森づくりネットワーク	77
竹林整備で高齢者に生きがいと健康を！／糸島くるくるマーケット実行委員会	78
森林と都市を繋ぐ「新・木造の家」設計コンペ／特定非営利活動法人 森林をつくろう	79
森と水を学ぶ面白塾／九州森林インストラクター会	80
第23回九州森林フォーラム in 福岡市～森林環境税で変わる!?森林管理と森の暮らし～	
／NPO法人 九州森林ネットワーク	81
森林ボランティア体験を通じて森を知る事業／スマイリー	83
女性目線の森林体験PARTⅡ事業／特定非営利活動法人 鹿児島ボランティアバンク	84
「森づくり・人づくり」事業／特定非営利活動法人 みどりの風かんかん	85
「平成30年度森林ボランティアの日活動 in 川内」／鹿児島県森林ボランティア連絡会	86
森を身近に感じる体験プログラム／おやゆび姫	87

調査研究

森で行う園外保育と外部講師の実施する森林環境教育の連携に関する調査

／一般社団法人 全国森林レクリエーション協会……………90

再造林の確実な実施に向けた苗木生産面からの検討―熊本県を事例に―

／一般財団法人 林業経済研究所……………92

「働き方改革実行計画」に合わせた、森林空間を活用したメンタルヘルス対策推進の仕組みづくり・

プログラム開発・効果検証／木村理砂 (Momo 統合医療研究所)……………94

中小林業地と都市側国産材需要層とのマッチングに関する調査研究／認定NPO 法人 FoE Japan……………96

「中等教育における森林 ESD 推進のための環境教育指導者ネットワークづくりに関する調査研究」

／特定非営利活動法人 国際理解教育センター……………99

「持続可能な地域づくりにおける幼児を対象とした森林環境教育の意義と役割に関する研究」

／公益財団法人キープ協会 / 都留文科大学 増田直広……………100

2019 全国木の駅センサス 調査結果要約／兄弟木の駅会議 代表 丹羽健司……………103

森林環境教育プログラムの開発に係る調査研究／公益社団法人 島根県緑化推進委員会……………106

適切な再造林のための下刈り省力化研究事業／諸県の下刈りを楽にする会……………108

学校・地方自治体等による森林環境教育の実施体制に関する研究

／代表者 奥山 洋一郎 (鹿児島大学農学系)……………110

活動基盤整備

尚綱の森を創る「里山再生プロジェクト」／学校法人 尚綱学院……………114

留学生と日本の大学生を対象とした森林環境教育プログラム

／特定非営利活動法人 Peace Field Japan……………116

「子ども樹木博士」実施団体の拡大・ネットワーク化の推進／子ども樹木博士認定活動推進協議会……………118

「森から学ぶ」森林を活用した環境教育 (森林 ESD) の推進／公益財団法人 Save Earth Foundation……………119

学生と地域住民の両方を対象とした総合的な環境学習・ESDのフィールドとしての「ソフィアの森」の整備

／上智大学大学院 地球環境研究科……………120

木と森の子育て実践とその支援を担う KIZUKI ママ・パパの養成

／NPO 法人 木づかい子育てネットワーク……………121

冒険の森再生プロジェクト / 認定NPO 法人 えんがわ……………123

うじゅうの森 子育て・森育て 東屋プロジェクト／NPO 法人 子育て支援センター ちびっこはうす……………124

伐木造材の安全講習会と森林資源活用のしくみを考えるワークショップ

／特定非営利活動法人 まめってえ鬼無里……………125

身近な森や里山など地域の自然環境を活用した「森のようちえん にじっこ」を立ち上げ運営する。

森林 ESD の講座、指導者養成講座の実施／森と自然の楽校 きいわ……………126

ぎふ森のようちえんリレー交流会

／ぎふ森のようちえんリレー交流会実行委員会 いび森のようちえん こだぬき……………127

村おこし活動を支援・協働し、森林ボランティアのリーダー養成を図る

／奈良県森林ボランティア連絡協議会……………129

森林環境教育推進拠点整備事業／特定非営利活動法人 もりのこえん……………130

徳島県森林づくりリーダー養成講座／とくしま森林づくり県民会議……………131

平成 30 年度 森林ボランティアリーダー養成講座／情報交流館ネットワーク	132
市民参加型の森林環境保護活動の指導者養成とネットワーク構築／きめら樹 Oita	133
宮崎県みどりの少年団総合研修大会／宮崎県みどりの少年団連盟	134
座学と体験を通じた子どもリーダー養成事業／特定非営利活動法人 たんぼぼ	135

国際交流

国際セミナー「森林減少ゼロと SDGs 一実現に向けての課題と取組み」及び NGO, 企業、専門家会合の開催 ／一般財団法人 地球・人間環境フォーラム	138
--	-----

普 及 啓 発

「森のようちえん」啓発及び森林公園活性化事業

NPO 法人 こどもサポートふらの

〒071-0706 北海道空知郡中富良野町西2線北19号

1. 活動の概要

まだこの地域で一般的な周知が進んでいないESDの観点からみた「森のようちえん」の有用性について、映画を通して理解を促し、町内森林公園で実際に活動している「森のようちえん」についても、より多くの地域住民に周知し、森林公園の活用についても関心を高めることを目的に事業を実施。

鎌倉で自主保育・野外保育を行う「なかよし会」の活動を追ったドキュメンタリー映画「さあのはらへいこう」を上映、また実際に中富良野町の北星山森林公園で活動している自主保育グループ「森のようちえん 森のたね」の活動についての報告をし、昼食時にはメンバーの子どもたちが手作りした味噌を使った豚汁を用意し、参加者との意見交換を行った。

上映会を通じて、「森のようちえん」の活動について参加者の理解を促し、その一週間後に体験会を実施。前述の自主保育グループ「森のようちえん 森のたね」の活動拠点である北星山森林公園に足を運んでもらい、実際に「森のようちえん」活動を親子で体験してもらった。

2. 活動の成果

参加してくださった親子が、その後、実際に森のようちえん活動に定期的に参加するようになり、活動人数が増え、活動に関する問い合わせや、気軽に声をかけていただく機会が増え、認知の広がりを実感している。

今回、自分たちの周りにいる身近な子育て中の親子の参加をイメージしながら準備をしていたが、実際には子育て世代だけではなく、おじいちゃん、おばあちゃん世代の関心も高く、上映会には子育てを一段落終えた年配の方の参加も多く、世代を超えて、関心を持っていただけたことを実感。

今後の活動に、今回参加してくださった年配の方を中心に、積極的に参加を呼びかけるなどして、世代間交流の取り組みも行うことで、より、地域住民を巻き込む方策を探っていきたいと考えている。

3. 参加者の声

自然の中で子育てをすることの必要性、重要性を改めて感じる事ができた。

子ども時代に自然の中で思い存分遊ぶことは、大人になったときにも大切な感性として生きてくるのだと感じます。

地元北星山でこんな素敵な活動をしていることを初めて知りました。子どもたちのために、もっともっと活用する人が増えるといいなと思いました。

実績報告とりまとめ表

実施時期		月 日	月 日	計	備考
事業量 又は 事業内容	上映会	8/26 朝・昼・夜	9/2	3回上映	
	報告会 体験会	8/26 朝・昼・夜		4回実施 1回実施	
参加者数	県内	116人	55人	171人	
	県外	0人	0人	0人	
	計	116人	55人	171人	
実施場所		北海道 空知郡中富良野町			

第4回全国木のまちサミット 2018in つべつ

第4回 全国木のまちサミット実行委員会

〒092-0292 北海道網走郡津別町字幸町41

1. 活動の概要

全国の木材利用などに取組む自治体が、相互交流・情報交換を行い全国において木材利用促進と国産材自給率の向上を加速化することを目的として、有識者と林野庁による講演、林業・林産業関係者と国産材利用者による課題別事例発表を開催。北海道命名150年であり、北海道未来事業として実施した。

1日目（10月11日）は、林野庁、北海道関係者を始め、同サミット呼びかけ自治体及びオホーツク地域の首長などを含め27市町村と道内外の林業関係者ら約300名が参加し、会場（中央公民館）は満員となった。

道内初開催となった同サミットは、実行委員長である佐藤津別町長の歓迎挨拶で幕を開け、長野麻子・林野庁木材利用課長、鈴木道和・北海道森林環境局長の来賓挨拶に続いて、宮脇慈・林野庁木材利用課課長補佐が基調講演し、涌井史郎・東京都市大学特別教授が記念講演を行った。

その後、林業の担い手対策、ICTの活用や木質バイオマス利用、都市の木造・木質化に関する事例発表を行い、北海道150年事業とし、伝統文化のアイヌ古式舞踊を披露した。最後に「われら木のまち宣言」を採択し、内外にアピールし閉幕した。

2日目（10月11日）は、町内にある木材加工販売施設・木質バイオマス利用施設・地域材利用施設の現地視察を実施した。参加者50名

2. 活動の成果

同サミットの成果として、森林環境税の創設を契機に都市部における国産材利用の働きかけを強化することなどを内容とする「われら木のまち」宣言を採択し、参加者が意思統一され、広くアピールすることができた。

また、地方自治体の公共建築物等木材利用促進法を活用した公共施設の木造化推進、地域材流通量の増加、国産材自給率の向上、木材の付加価値知識提供による波及効果が期待される。

3. 参加者の声

○国産材の利用推進について考えさせられた。

○涌井先生の講演は、理解しやすかった。林業に自信を持ちたい。

○地球環境規模の人と森林の関わりを知り、田舎の役割も重要なことを教わった。

○課題別事例発表

・地元（津別町）に住んでいるが、丸玉木材の企業理念を知ることができてよかった。

・担い手（若者）が林業に目を向けて

・林業もICT化どんどん進むと良い。

・山元の町（川上）と都市（消費）が林業を通じて結びつくことは大切なことだ。

実績報告とりまとめ表

実施時期		10月11日	10月12日	計	備考
事業量 又は 事業内容	サミット会議 現地視察	サミット会議 ・講演(2本) ・事例発表(4本) ・アイ古式舞踊披露 ・サミット宣言	現地視察 ・丸玉木材㈱ ・認定こども園 ・公営住宅 ・TSK00L		
参加者数	県内 県外 計	260人 38人 298人	20人 30人 50人	280人 68人 348人	
実施場所		北海道 津別町 津別町中央公民館			

少年・少女グループへの緑を通じた環境教育推進事業

青森県緑の少幼年団連盟

〒030-0813 青森県青森市松原 1-16-25

1. 活動の概要

県内6地区の緑の少幼年団育成強化を図るため、生態系・森林活用機能等の野外教室や交流会を実施し、次代を担う青少年達に環境教育の場として森林公園や地域の里山を活用し、森林・緑に対する理解を深め、生物多様性の保全や地球温暖化防止の意識を育む。

2. 活動の成果

県内6地区の内6地区で開催した。

子供たちに森林の役割について地域の森林公園等を活用し、地球温暖化防止や県土の保全、水資源のかん養、木材生産等について体験学習しながら啓発する事が出来た。

3. 参加者の声

- ・自然観察が面白かった。丸太を頑張って切って疲れた。
- ・森の働きについて知った。
- ・木の枝をノコで落として楽しかった。
- ・木登り体験が良かった。
- ・みんなでゲームをして楽しかった。

実績報告とりまとめ表

実施時期		7月24日～ 7月31日	8月26日	9月29日	計	備考
事業量	箇所	4箇所	1箇所	1箇所	6箇所	
参加者数	県内	241人	18人	29人	288人	
	県外	0人	0人	0人	0人	
	計	241人	18人	29人	288人	
実施場所		八戸市・むつ市・つがる市・おいらせ町・鱈ヶ沢町・平内町・西目屋村				

眺望山自然休養林を活用した健康増進活動

沖館地域緑の募金推進協力会

〒038-0002 青森県青森市沖館三丁目2-17

1. 活動の概要

青森市郊外にある眺望山自然休養林を活用して、森林が持つ心理的なリラクゼーション効果について地域市民、小学校児童を対象に森林セラピー体験活動を実施し、ストレスからくる病気やいじめの予防につなげて市民生活の健康や明るい街づくりに役立てることを目的に実施した。当日は、森林セラピストを総括指導者とし、ヨーガ講師、森林インストラクターを配置して、はじめに青森市森林博物館においてオリエンテーションを実施した。また、森林セラピストによる「森林の健康保養効果について」の講話並びに血圧測定、ストレス度チェックを行った。

その後、バスで眺望山自然休養林西口コース入り口に移動し、森林セラピストの指導の下、ストレッチで体をほぐし出発。山頂までの1.5時間、途中、せせらぎでマイナスイオンを浴びながら水の流れに耳を澄まし、青森ヒバに囲まれてマットに寝ころび瞑想をするなどでリラックスしながら山頂着。山頂広場ではヨーガ講師による指導でしばしの間深呼吸や心身のリフレッシュ。昼食休憩後、東口コースを森林インストラクターによる青森ヒバや眺望山にまつわる歴史などの解説を挟みながら下山。また上下山の途中では、オオバクロモジ、山椒の葉で香りを楽しみ、山菜ミズ（ウワバミソウ）をかじって味を楽しんだ。

バスで森林博物館に戻った後、黒文字茶を飲み、森林浴後の血圧測定、ストレス度チェックを実施するとともに森林セラピストの終了面接、意見交換、そしてアンケートを行った。

2. 活動の成果

ストレス度チェックを取り入れた森林浴体験会の企画は初めてであったが、当協力会会員、ヒノキアスナロ緑の少年団、同育成会及び一般市民の参加を得て実行することが出来た。今回の実施に当たっては、青森県内在住の森林セラピスト、ヨーガ講師及び青森森林インストラクター会の協力を得たほか、当協力会会員もスタッフに配置して実施した。また、実施準備としてスタッフ、森林セラピストによるコース状況、安全点検等事前調査を行い事故もなく実施できた。

さらに、オリエンテーションにおいて、「緑と水の森林ファンド助成事業であること、当協力会はヒノキアスナロ緑の少年団とタイアップした街頭募金や当会独自に町会家庭募金を主事業にしている」旨を説明して参加者の理解を深めた。

参加者からは森林に接する機会がもっとほしい旨の希望が多く寄せられた。

3. 参加者の声

参加者からは「・初めての参加で楽しかった。・とても良かった、是非また参加したい。・心も身もリラックスできた、空気も風もさわやかで心が癒された。・適度な運動とヨーガで気持ちのいい時間を過ごすことが出来た。・いろいろな話が聞けて良かった。」等の感想が寄せられた。

実績報告とりまとめ表

実施時期		月 日	計	備 考
事業量又は 事業内容	ストレス度チェックを 取り入れた森林浴	9月8日		1日のみの実施
参加者数	県 内	31人	31人	
	県 外	0人	0人	
	計	31人	31人	
実施場所		青森県青森市 青森市森林博物館、眺望山自然休養林		

里山整備に若い力を～全校マツタケ山づくり～

岩手県立大野高等学校

〒028-8802 岩手県九戸郡洋野町大野 58-12-55

1. 活動の概要

自然環境の復活や保全を目的として、全校生徒で地域の里山を整備することにより、マツタケの発生する里山の環境づくりを行い、青少年を対象とする森林環境教育の促進を目的としている。学校の北方約1.5kmに位置する久慈平岳（標高706.3m）の山麓に広がる約1haの里山を地元の方から借り受け、久慈地方森林組合の方々から助言・指導をいただきながら、適度に枝打ちをし、堆積した落ち葉を除去するなどの整備を進めて15年目（準備段階1年含む）となる。

2. 活動の成果

6月の里山整備は悪天候により中止となったが、10月の収穫祭への取り組みや、5月の里山づくり講演の聴講をとおして、これまで先人が守ってきた豊かな自然とその恵みについて見つめ直し、自然と共生する人間の生活を考える重要な機会となった。

これらの経験をとおして地域社会の一員としての自覚が高まり、郷土愛が喚起されるとともに、自己肯定感や自己有用感が醸成できた。

3. 参加者の声

- ・マツタケが育つためには多くの方が協力して、良い環境を守り育てる支えがあることがわかった
- ・マツタケの生育のために切った間伐材を植菌して、有効活用するアイデアは良いと思った
- ・事業を通じて、マツタケが育つ里山は人の手で維持されてきたことが分かった

実績報告とりまとめ表

実施時期		10月4日	12月18日	5月7日	5月23日	計	備考
事業量 又は 事業内容		収穫祭 (マツタケ狩り)	シイタケ・ナメコ栽培 (原木天 地返)	シイタケ・ナメコ栽培 (原木天 地返)	里山づくり講演会		当初予定されたいた6/28の里山整備は悪天候により中止
参加者数	県内	120人	13人	13人	89人	146人	
	県外	1人	0人	0人	0人	1人	
	計	121人	13人	13人	89人	147人	
実施場所		岩手県九戸郡洋野町					

～森のめぐみ・子どもたちへのメッセージ～ 「どんぐりからうつわまで」出前講座開催事業

大野木工生産グループ

〒028-8802 岩手県九戸郡洋野町大野 58-12-33

1. 活動の概要

- ・全国の子どもたちに地域の山林資源を活かした木工食器をとおした、自然資源とモノづくりへの関心を高める森林環境教育や情操教育の活動を推進した。

2. 活動の成果

- ・これまで関連性が注目されなかった、「森づくり」と「モノづくり」を融合した総合的な教育の実効性や役割が全国的な幼児教育関係者や保護者等の共通認識で実現されたことは大きな成果である。本講座を通じて、こどもたちの森林環境とモノづくりへの関心が高まっており、地元小学校では大野木工の歴史や理念をテーマとした学習が始まった。また、東北サミットや30年度岩手県食育推進大会での活動の成果発表の機会を得るなど、活動の評価が広まっており、引き続き活動を推進したい。

3. 参加者の声

- ・この出前教室は初めて開催。職人さんたち自ら子どもたちの前で一つ一つ手作りで木の器を仕上げたり、森の樹木とモノづくりの関係をよくわかるように説明したり、子どもたちも職員も感動そのものだった。こうした活動を初めて知ったが、ぜひ毎年続けたい。（盛岡市 保育園長）
- ・森のなかでの、どんぐりからうつわまでのプログラム実践は、大人の私たちにとっても森林資源とモノづくりのつながりを再認識する機会だった。ただモノを作るだけでなく、器の背景にある自然や暮らしを伝える活動から本モノづくりの心を感じます。ぜひ大野木工の地を訪ねてみたいです。（東京都府中市 主婦）

実績報告とりまとめ表

実施時期	30年9月1日～元年6月30日	元年6月9日	30年11月3日～11月4日	計	備考
事業量	～どんぐりからうつわまで～出前教室等 新田こぼと園 他10回	～森とうつわと楽しい暮らし～ 春の体感フォーラム 1回	「大野木工と活動パネル展」 ・パネル展示展 2日 ・ワークショップ 1日		
参加者数	県内 227人 県外 1,405人 計 1,632人	県内 76人 県外 0人 計 76人	県内 977人 県外 1人 計 977人	県内 1,280人 県外 1,405人 計 2,685人	
実施場所	○岩手県盛岡市 他 ・大新保育園 ・大野小学校 ○宮城県仙台市 ・新田こぼと園 ・森のこども園 ・仙台保育園 ○東京都世田谷区 他 ・かたるば保育園 ・府中の森公園	岩手県滝沢市 岩手県滝沢森林公園	岩手県洋野町 ・大野体育館特設会場		

～かえでの木の命を伝える～
「かえでの木物語絵本」作成催事業

「かえでの木」絵本づくりプロジェクト
〒028-8802 岩手県九戸郡洋野町大野 58-12-33

1. 活動の概要

- ・園舎移築のため保育園の園庭で60数年間子どもたちを見守り続けた「かえでの木」の命の証しを「絵本」につづり子どもたちに伝え続けることで、森林環境と暮らしの関わりを学習させるツールとするものである。

2. 活動の成果

- ・子どもたちに身近にある樹木の命を通して、森林資源と暮らしの関わりを学習させる総合的な教育の機会となった。
- ・「かえでの木の絵本」を通して、子どもや保護者、保育や教育現場に森と暮らしの共存意識が高揚され、森林資源や自然環境への関心が助長された。
- ・さらに、完成された「絵本」を広く仙台地区をはじめとする保育園等に配布活用を図りながら、併せて大野木工グループの出前教室の学習ツールとして活用することで、その学習効果の波及拡大が図られる。

3. 参加者の声

- ・当園の庭園で数十年子どもたちを見守った「かえでの木」を使っの「木工給食器」の導入から、「かえでの木」の命を伝える「絵本づくり」への活動は、正に夢のような展開である。子どもたちも保護者や職員もこうした活動を通して、子どもの豊かな感性を育てる観点から大きな刺激と再認識の機会となった。プロジェクトの皆さんに心から感謝いたします。（仙台市 保育園長）
- ・「絵本づくり」のお手伝いをさせて戴きながら、子どもたちの目の輝きがどんどん増してくるのを肌で感じた。将来教員を目指す私にとって、こうした体感教育の大切さを実感させられた貴重な機会ともなった。この絵本の波及効果をずっと注目していきたい。

（仙台市 ボランティア学生）

実績報告とりまとめ表

実施時期	30年8月13日～ 元年6月30日	30年3月29日	元年6月20日～	計	備考
事業量	○絵本製作活動 ・検討会等 6回 ・製作作業 周年	○絵本発表&反応調査 1回	○絵本の配付と学習 普及活動 ・仙台市内保育園他 80冊		
参加者数	県内 10人 県外 87人 計 97人	県内 一人 県外 54人 計 54人	県内 1,400人 県外 3,600人 計 5,000人	県内 1,410人 県外 3,741人 計 5,151人	
実施場所	○仙台こども to 造 形研究室 ○仙台保育園	○仙台保育園	○新田こぼと園他 ○宮城教育大・岩手 県立大 ○洋野町他県内保 育園、図書館等		

SDGs 水源の森でアクション！～水づくりは未来づくり～

特定非営利活動法人 水守の郷・七ヶ宿

〒989-0532 宮城県刈田郡七ヶ宿町字根添 26 番地 1

1. 活動の概要

宮城県民 183 万人の水瓶七ヶ宿湖を有する七ヶ宿町の当法人が管理する山林 1.6ha をフィールドに四季を活かし通年で行う森林・林業体験プログラムを毎月第 3 日曜日定例で実施した。森は持続可能な資源であり多様なサービスを私たちに提供してくれる。毎回テーマ設定して四季の森を生かしたプログラム、旬を生かして行う野外炊飯は森のエネルギーを利用する。バックアップ作業と共に参加者も森を協働で整備し汗をかく。森林ボランティアの日となる 9 月は森の音楽祭を毎年実施している。出演者と共に多くの観客が集まり森で音楽を楽しんだ。7 月 8 月と二回にわたり恒例となる沢登りでは湖と森の関係性を体感する。10 月は草木染め、11 月は晩秋の森でツリークライミング、12 月は雪囲い作りの後、きりたんぼ鍋を堪能した。お正月にちなんで 1 月は餅つきの後、竹ヒゴと和紙を使って凧作り、初めて作った凧は大空に元気に舞い上がりました。2 月は「山がっこ」で使用する味噌を仕込みました。お昼はオリジナルのピザを焼き、3 月は新年度に向けて森の遊園地に滑り台やブランコを設置しお昼には竹パンを初めて焼いて美味しく出来上がりました。女性たちはつるかごを上手に編んで見事完成。4 月は花壇を畑として整備したけのご飯を、5 月は理事長入院等があり「山がっこ」はやむを得ず中止としウッドデッキを拡張今年度の施設整備に充てた。昨年度作成したリーフレット、今年度リニューアルしたホームページの影響もあり 6 月、「山がっこ」を待ちわびていた参加者がたくさん集まった。生憎の雨だったが初の火起こし体験から、竹の中で炊く炊き込みご飯、間伐材でつくるストラップと参加者は雨を忘れて元気に森を感じて帰った。

2. 活動の成果

パンフレットの効果が徐々に広がっていることに加え、今年度、ホームページを「山がっこ」中心の内容に改編した効果が出始めている。参加者が固定化し数に波が出始めた時期でもあったので今後の参加者増加に期待が持てる。次年度以降も、森の魅力を伝える！日本の山を元気にする！精神の元、「また行きたい水守の郷」となるように、生態系サービス（SDGs 達成につながる価値）が存分に味わってもらえるメニュー作りに力を注ぎこの活動を活気あるものにしていきたい。

3. 参加者の声

- ・ 枯れ木や土の中で見つける小さな生き物たちすべてが新鮮。この虫なんて言うの？気持ち悪い！と言いつつも興味津々の子供たちに、森の生物多様性を感じてもらえた。
- ・ 子供たちが、これまで体験したことがないことに触れたことで、多様な感動を子供たちに与えていたことがわかった。
- ・ 森が涼しい、雨が降ってるのに雨が落ちてこない？森は不思議な発見がいっぱいでした。感動をありがとう。
- ・ 一日動き回って疲れているはずなのに、「まだ帰りたくない」という子供たちに「いろんな体験をすることができて参加してよかった」と感謝の言葉をちょうだいした。

実績報告とりまとめ表

月日	事業内容	参加者	計	備 考
7月15日	沢登り、水源に触れる、流しソーメン	14人	20人	竹を割る、削る
8月19日	沢登り、水源に触れる、流しソーメン	8人	13人	竹を割る、削る
9月16日	森の音楽祭	130人	143人	林床整備、製材木道補修
10月21日	森の散策と草木染め、栗ご飯	10人	16人	火起こし、草木染
11月18日	ツリークライミング	11人	20人	ツリークライミング
12月16日	雪囲い作りときりたんぽ鍋	2人	8人	きりたんぽ作り
1月20日	餅つき、凧作り凧あげ	7人	12人	凧作り、餅つき
2月17日	味噌仕込み、手作りピザ焼き	8人	12人	ピザづくり
3月17日	森の遊園地づくり、つる籠、竹パン	9人	14人	竹を切る、竹を割る
4月21日	施設整備（畑づくり等）たけのこご飯	2人	7人	山菜取り
5月19日	施設整備（デッキ補修等）	0人	6人	
6月16日	竹飯盒で炊き込みご飯、杉ストラップ	17人	24人	火を起こす、竹を切る他
参加者数	県内	218人	295人	
	県外	0人	0人	
	計	218人	295人	
実施場所	宮城県 七ヶ宿町			

自然にふれよう

NPO 法人 SCR

〒 981-3341 宮城県富谷市成田 7 丁目 23 番地 21

1. 活動の概要

森林作業体験を行い、地域の森林・林業について理解を深め、山の恵みに感謝するとともに、美しく豊かな自然を守り、次の世代に引き継ぐことの必要性について学ぶことを目的とする。

内容は「森のはたらき」についての講話を聴き、実際に間伐する木をロープで引き木を倒す間伐作業体験や枝の片づけ作業体験、馬搬見学では実際に馬が木を運ぶ様子を見学しました。ツリークライミングでは、一人で木に登りきる喜びと木とのふれあい、自然を身近に感じることを体感してもらいました。

2. 活動の成果

- ・地域の森林や水・緑に対する意識を高め、森林と環境の関係を学んでもらう機会となった。
- ・木に登るといった活動を通じて、木を思いやる心、自然を大切に作る心を育てる一歩となった
- ・子ども達が自主的に参加、積極性や協調性を育むことができた。
- ・親子の会話や子ども達への応援などで、親子のコミュニケーションを深めることができた。
- ・今後も様々な体験を通し、森林や環境についての認識や理解を深め、子ども達に伝えていきたい。

3. 参加者の声

- ・ツリークライミングは難しかったけど、楽しかった。
- ・馬が重い木を引く姿に感動しました。
- ・とても良い体験ができ、子ども達にも良い体験をさせてあげられて大満足でした
- ・馬をこんなに間近で見て、かわいかった

実績報告とりまとめ表

実施時期		8月11日	計	備考
事業量又は 事業内容	自然にふれよう	森の話 間伐作業体験 馬搬見学 ツリークライミング		
参加者数	県内	35人	35人	
	県外	0人	0人	
	計	35人	35人	
実施場所		宮城県 富谷市		

フォレストサポート・2018

ガールスカウト山形県連盟

〒990-0031 山形県山形市十日町 1-6-6

山形県保健福祉センター 4F

1. 活動の概要

目的：2015年に植樹をした「ガールスカウトの森」の下刈りや葛の根駆除等の育樹活動をし、森をささえ、育てる森づくりに取り組む。また、森や木にふれる森林体験学習を通じ、より森林を理解し環境問題への理解を深める。

内容：育樹活動（葛の根駆除・下刈り・補植）

森林体験学習（きのこの菌打ち・クラフト・バードウォッチング）

2. 活動の成果

- ・育樹活動により地域（山形市）の里山の保全に寄与できた。木が大きく育つために、これからも育樹活動を続けていく。
- ・インストラクターの指導による森林体験学習は、新たな発見や沢山の学びがあり、森林への理解がより深まった。森林の大切さを知り、地球規模での環境問題に取り組む。
- ・自然を五感で感じた事によって、自然のよさや自然を大切にす気持ちが生まれ、健全な人格形成に寄与できた。これからも、活動の中に「自然とともに」を活かしていく。
- ・それぞれが「自然を守るために私にできること」を考えた。生活・活動の中で実践する。
- ・県合同団での活動は、団同士の交流があり仲間意識が高まり、次の活動の基盤になった。

3. 参加者の声

- ・前に葛の根処理をしたので葛が少なく、今回は探すのが大変だった。次も頑張る。
- ・葛の根が依然より減ってきているのが実感できた。
- ・ナラの原木にでんどうドリルで穴をあけるのはこわかったけど、楽しかった。
- ・森林体験学習で鳥が好きになった。楊枝作りもむずかしかったけど楽しかった。
- ・森のことがいろいろ知れて楽しかった。
- ・子ども達が一生懸命葛の根を探し、きちんと行程を理解して行っていたので手際がよかった。何度も繰り返しやるのが大切だと思った（成人）
- ・鳥を見つけられなかったが、初めて双眼鏡の使い方を学んだ。また生かしたい（成人）
- ・「きのこの役割」「双眼鏡の使い方」「野鳥の生態といきものつながりは人のつながり」のお話は、考えさせられた。（成人）

実績報告とりまとめ表

実施時期	10月29日	11月 11日		12月26日	計	備考
事業量 又は 事業内容	現地踏査	<育樹活動> ・葛の根駆除 ・下刈り ・補植活動 (5本植え付け	<森林体験学習> ・きのこの菌打ち ・クラフト (黒モジの木で楊 枝作り) ・バードウォッチング	報告書整理		
参加者数	県内	6人	50人	6人	62人	
	県外	0人	0人	0人	0人	
	計	6人	50人	6人	62人	
実施場所	山形県 山形市 みはらしの丘市有地 悠創の丘					

地元保育園。小学生を含むファミリー向け森遊びプログラム

一般社団法人 岳温泉観光協会
〒964-0074 福島県二本松市岳温泉 1-16

1. 活動の概要

地元保育園児や小学生を含むファミリー向けに安達太良山麓の自然環境を知って貰い、その大切さや豊かさを実感して貰う環境教育のための調査及びイベントを実施しました。環境調査では何か所かに設置したセンサーカメラで周辺に住む小動物の映像を撮影することに成功しました。イベントでは地元の家族連れの方々に多く参加頂き、大変好評でした。

2. 活動の成果

■ 2018年9月26日 センサーカメラ及び巣箱の設置

観光協会の職員3名でニホンリス及び鳥獣小動物用の巣箱を設置。

巣箱に入る鳥獣小動物を撮影するためにセンサーカメラを3か月ほど設置。

結果として鳥、ノウサギ、ニホンリスの撮影に成功。

夜間、日中共に活動していることが撮影から判明。

ノウサギは冬になっても色が茶色であることが分かった。

ニホンリスはクルミの木を中心に活動していることが判明。

特に見られる場所についても偏りがあることが分かりました。

■ 2019年3月24日 岳温泉ネイチャーゲームイベント

福島県内でネイチャーゲームイベントを数多く実施している福島県シェアリングネイチャー協会様に協力頂く。

大人と子供合わせて24名がイベントに参加。

岳温泉、二本松市内だけでなく県内各地から多くの方にご参加頂いた。

プログラム内容の詳細に関しては別紙チラシを参照。

福島県シェアリングネイチャー協会のスタッフの方は安達太良山麓の自然環境に合わせた内容にカスタマイズして貰ったので、参加者の方々に安達太良山特有の自然を学んで頂いた。

撮影した映像や設置した巣箱なども活用頂き、安達太良山に住んでいる小動物の紹介を行った。

参加していた子供たちは初対面だったにも関わらず仲良くゲームに参加している様子だった。

各ゲームは非常に知己に富んでおり、自然とは何かを考えさせるものだった。

思わず夢中になって取り組んでしまう内容で、子供たちも満足そうな表情をしていました。

3. 参加者の声

- ・非常に楽しく自然を学ぶことが出来て良い機会だった。
- ・普段子供たちに自然に触れる機会を提供出来ていなかったのが今回のようなイベントがあると非常にありがたい。
- ・大人としても学ぶ点が多くあったので是非また開催をして貰いたい。
- ・知らない子供たちと遊ぶ機会はなかなかないので、こういったイベントは是非今後もして頂きたい。

実績報告とりまとめ表

実施時期		9月26日	3月24日	計	備考
事業量又は 事業内容		巣箱及びセンサー カメラ取付	岳温泉ネイチャー ゲーム		
参加者数	県内	3人	24人	27人	
	県外	0人	0人	0人	
	計	3人	24人	27人	
実施場所		福島県 二本松市 岳温泉			

木のおもちゃ広場の開催

子育てネットワーク ままもり

〒302-0118 茨城県守谷市立沢 197-63

1. 活動の概要

「木のおもちゃ広場」事業を通して次の5点の推進を事業の目的とします。

- ①身近な場所で自然素材と触れ合える「木のおもちゃ広場」の提案
- ②多世代コミュニケーションの場づくり
- ③乳幼児のいるご家庭の休日の過ごし方の提案
- ④木育推進
- ⑤他団体との連携

2. 活動の成果

ショッピングモールという子育て世帯にとってより身近な場所で開催することで、気軽に木のおもちゃに親しんでもらう機会を作り、匂い、音、手触りを五感で感じ、その素晴らしさを実感していただく事が出来ました。

木のおもちゃ広場への入場は、必ず親子（または祖父母と孫）でというように、大人の方と一緒にいらっしゃいますが、これは単に保護者としての目的だけでなく、親子で一緒に遊ぶ（積み木を組み立てたり、音や手触りの違いを共有する）事による親子コミュニケーションの場であってほしいとコンセプトにより、子供だけの入場は不可ですが、会場内では、たくさんの親子が協力しあい、大作を作り上げたり、木のおもちゃに触れあう場面が多くみられました。

また、シニアの皆さまから、大学生まで多世代に渡り見守りスタッフとして関わっていただくことで、木のおもちゃを通じ、遊びにきた子育て世帯との多世代交流を推進することが出来ました。

3. 参加者の声

- ・昨年参加して、とても楽しかった。また開催してほしい
- ・たくさんの木のおもちゃにふれあえて、大人まで癒され、温もりがあって良かった
- ・これからも子供のうちから、自然素材での玩具にたくさん触れる機会を作っていきたい
- ・赤ちゃんから小学校のお兄ちゃんまで集中して遊べました。

実績報告とりまとめ表

実施時期		6月7日	6月8日	6月9日	計	備考
事業量 又は 事業内容	木のおも ちゃ広場 の開催	午前：準備 13時 ～17時	10時 ～17時	10時 ～17時		
参加者数	計	130人	930人	940人	2,000人	来場者の多くはつくば市、県南地域在住者ですが、県北や県外からの来場者も2割ほどいました。
実施場所	茨城県 つくば市 イーアスつくば					

地域材による木工技術の普及と木材利用の拡大事業

特定非営利活動法人 やみぞの森

〒310-0011 茨城県水戸市三の丸1-3-2 茨城県林業会館4F

1. 活動の概要

- (1) 木工技術の普及を目的として、地域材を活用したDIY塾を毎月1回、年間12回開催した。初心者のため各種道具の説明から始め、刃の砥ぎ方、道具の使い方、手入れの仕方、電動工具の使い方、製材の仕方、仕口の加工と調整方法などを、専門技術者が指導した。
- (2) 一般を対象にした研修会「森林の環境整備視察研修会」を水戸市森林公園で開催し、水戸市の担当者から森林公園の概要と整備状況について説明を受けた後、園内を視察した。
- (3) エコプロ2017へ出展し、森林整備や環境教育など自然環境保全のため実施している様々な活動を情報発信し、森の自然素材によるオーナメント作りのワークショップも実施した。

2. 活動の成果

- (1) 木工技術の習得のため、専門技術者より基本から順序を踏んで指導を受けた結果、参加者全員が自身でテーブル、小椅子、棚などを作れるまでになった。このような木工技術の普及は、地域を活性化し、地域材の利用拡大も期待でき、継続する意義は大きいと考えられる。
- (2) 水戸市森林公園の総面積は143haと広大で2地区から構成され、開放的な整備と自然保護的な整備の両タイプを視察できたことは大変参考になり、今後に生かすことが期待される。
- (3) パネル展示だけでは分からない実物見本を見て触ってもらう実体験と共に、木の実など自然素材によるワークショップを行い、森林を身近に感じてもらう効果が認められた。

3. 参加者の声

- ・DIY塾を始めてから、生活の中で「今度はこれを木でつくろう」などと考えるようになった。
- ・DIY塾ではプロの技術者から指導してもらえるので、女性でも安心して作業できて良い。
- ・研修会では、園内を視察しながら分かりやすく説明してもらい、大変参考になった。
- ・松ぼっくりや木の実を使ったオーナメントは素敵、クリスマス用に家に飾るのが楽しみ。

実績報告とりまとめ表

実施時期		7/8～6/9	10/21	12/7～12/9	5/31	計
事業量						
参加者数	県内	123人	114人	約3,000人	21人	3,258人
	県外	12人	0人	約159,217人	0人	159,229人
	計	135人	114人	162,217人	21人	162,487人
実施場所		茨城県：笠間市、つくば市、水戸市 東京都：江東区				

サシバの里の「野遊びようちえん」

特定非営利活動法人 オオタカ保護基金

〒320-0027 栃木県宇都宮市塙田2-5-1 共生ビル2階

1. 活動の概要

活動の目的は、絶滅危惧種のタカ・サシバが生息する栃木県市貝町の自然豊かな里山で、都市近郊の未就学児の親子が野遊びや里の暮らしを通して、楽しく森林や生態系を学ぶことである。

7月～翌年3月までの9か月間に、「サシバの里自然学校」において、日帰りの「野遊びようちえん」を13回開催した。合計で延べ147人（大人66人、子ども81人）が参加した。各回の内容は、以下の通りである。7月5日（木）夏のいきものを探しに行こう、7月19日（木）命をいただきます。あゆのつかみ取り、9月20日（木）稲刈りに挑戦だ、10月4日（木）新米ご飯をマイカマドで炊いてみよう、10月18日（木）秋の里山のパーティー、11月1日（木）カチカチ火打ち石で焼き芋に挑戦、11月15日（木）バームクーヘンを作ってみよう、12月20日（木）森のめぐみでリースづくり、1月10日（木）ぺったんぺったんおもちつき大会、1月24日（木）山の粘土で造形あそび、2月7日（木）まるで縄文人！？焼き火で粘土焼き、2月21日（木）マイ味噌づくり、3月21日（木）修了式

2. 活動の成果

参加した未就学児の親子は、田んぼや雑木林で泥だらけになって生きものを捕まえたり、リースを作ったり、楽しそうだった。また、稲刈りや味噌づくりなど様々な里の暮らし体験では、一生懸命取り組んでいた姿が印象に残った。これらを通して、里山の自然の豊かさや楽しさを実感できたと思う。このような体験は日常ではなかなかできないので、今後も「野遊びほいくえん」を継続的に行って行きたい。

3. 参加者の声

- ・我が子がここでの自然遊びを経験しているので、他の場所に行っても自ら自然の中で遊べるようになりました。
- ・子ども以上に親も本気で遊べ、リフレッシュできました。
- ・子どもののびのび遊ぶ姿を見たり、他のお母さんたちと子育ての話などでできてゆったりした時間過ごせました。
- ・初めて生きた鮎を掴んで、串で刺しました。命をいただいている実感があり大切に食べようと思いました。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月5日	7月19日	9月20日	10月4日	10月18日	11月1日	11月15日	12月20日	1月10日	1月24日	2月7日	2月21日	3月21日	計	
参加者数	県内	6人	5人	6人	13人	7人	13人	18人	7人	12人	12人	17人	12人	19人	147人
	県外	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	計	6人	5人	6人	13人	7人	13人	18人	7人	12人	12人	17人	12人	19人	147人
実施場所	栃木県市貝町 「サシバの里自然学校」														

森に親しむ啓発活動

ぐんま山と森林推進協議会
 〒 379-2153 群馬県前橋市上大島町 182-20
 事務局 〒 371-8570 群馬県前橋市大手町 1-1-1

1. 活動の概要

ぐんま山と森林推進協議会では、山や森林に親しみ、学び、その恵みに感謝し、それらを守る取組を推進している。今年度は、森林に親しむ機会を増やすため森林林業関係イベントを一覧にした「ぐんま山と森林イベント一覧チラシ秋冬号」を2万部作成し県内各地で配布した。また、群馬の森林・林業や「やま」との関わりについての写真を募集する「第9回美しいぐんまの山と森林フォトコンテスト」を開催した。

2. 活動の成果

「ぐんま山と森林イベント一覧チラシ秋冬号」については24団体から掲載の応募があり、62のイベントを掲載した。県民からは配布場所等の問合せや、毎回このチラシの発行を楽しみにしているとの声もあり、広く県民に山や森林に親しむ機会を提供することができた。

「第9回美しいぐんまの山と森林フォトコンテスト」では、284作品、73名から応募があった。群馬県庁にて開催する写真展では例年約2,500名の来場が見込まれ、群馬の森林・林業や山についてのPRに繋がった。

3. 参加者の声

- ・ぐんま山と森林イベント一覧チラシ秋冬号
 毎回このチラシの発行を楽しみにしている。
 このチラシを見てイベントに参加してくれた方もいて掲載効果があった。(実施団体より)
- ・第9回美しいぐんまの山と森林フォトコンテスト
 群馬にこんな素晴らしい森林があったのですね。今度行ってみたいと思います。
 過去の作品も見られて良かった。もう少し長期間開催していれば、友人にも紹介したい。

実績報告とりまとめ表

実施時期	H30.8	募集期限：H30.1.1.30 表彰式：H31.2.7 写真展：H31.2.7から13	計	備考
事業量 又は 事業内容	イベント一覧チラシ秋冬号の発行 チラシ発行部数：2万部	フォトコンテストの開催 チラシ発行部数：6千部		
参加者数	県内 県外 計	応募団体数：24団体 掲載イベント数：62	2,573人	
実施場所	群馬県前橋市大手町 1-1-1			

森はともだち 楽しくまなぼう 森友 楽校

ぐんま森林インストラクター会

〒378-0415 群馬県利根郡片品村鎌田 4090

1. 活動の概要

森林教室・自然観察会、森づくり体験、ゲーム等を通じて、自然と親しみ、環境保全や人格形成に理解を深めてもらうと共に、普及啓発や森林環境教育を行なう。

2. 活動の成果

自然観察等を行うことにより自然のすばらしさを実感し、その維持、保全の必要性を認識した。森林整備などの実作業を取り入れ、幅広い森林環境教育を行なう。

3. 参加者の声

- ・樹木や草花などの名前や特徴を分かりやすく説明していただき、たいへん勉強になりました。
- ・普段なにげなく歩いていましたが、植物に興味がわいてきました。
- ・地形の成立ち、自然保護など、知らなかったことを教えて頂きました。

実績報告とりまとめ表

実施時期		30年 7月21日	9月1日	9月22日	10月6日	12月1日	31年 2月16日	令和元年 5月25日	計	備考
事業量										
参加者数	県内	25人	14人	28人	30人	28人	33人	22人	180人	
	県外	1人	3人	0人	1人	0人	3人	0人	8人	
	計	26人	17人	28人	31人	28人	36人	22人	188人	
実施場所	群馬県 尾瀬沼	榛名富士 ・沼の原	谷川岳山 麓・湯檜 曾川沿い	沼田市 玉原高原	前橋市 嶺公園	草津町 天狗山	前橋市・ サン デンフォ レスト			

環境の未来と夢を子供たちとともに

特定非営利活動法人 ジョイライフさやま
〒350-1308 埼玉県狭山市中央1-43-11

1. 活動の概要

狭山市の中央を流れる一級河川入間川は武蔵野の自然林が残り大地に恵みを与え、市民に潤いと憩いが得られる環境を作り出しています。しかし、地域に於ける生活様式や開発行為は健全な水環境を阻害し、直接間接的に大きな負荷を与え、水環境を悪化させ、生態系も悪化させています。河川敷に於いては不法投棄、置き去りゴミ、倒木放置が多く見られ藪化し、外来種のハリエンジュが蔦と共にはびこり在来種は破壊されています。

この現状を良好に保つため継続して整備を行うことが必要です。子供たち市民と一緒に環境整備保全に取り組み、関心をもって貰う、事業として自然を生かした、体験型環境学習を行っていく事が自然を守る方法と考えて活動します。

生き物調べによる水質調査、外来種から守る在来種の自然保全、不法に投棄される置き去りゴミ、河川に捨てられ漂流するプラスチックごみの採取など環境を阻害するごみを、カヤック乗り体験から得られる学習など体験を通して環境学習を行い子供たちの故郷創生、河川敷整備による市民参加の憩いの場を目指す公園作りなどテーマである「環境の未来と夢を子供たちとともに」を創出し時代を担う子供たちに繋げる事業を目指します。

2. 活動の成果

- (1) 河川敷樹林の整備により不法投棄の撲滅、良好な景観の維持保全に繋がる。
- (2) 整備による外来植物の繁茂を抑え在来植物の減少を未然に防ぐことが出来る保全と成る。
- (3) 環境学習により自然環境の大切さを実感し、自然を大切に思う心が養われる。
- (4) 生き物調査により入間川の生態系が分かり、水質判断による川の清流度分かる。
- (5) 海に負けない川や樹林との戯れと生き物とのふれあいが堪能できた。
- (6) 誰もが川や自然に愛着を持ち故郷を実感できる狭山の自然を守る絆が生まれた。
- (7) 川辺環境が共有資産として広く市民に認識され、訪れる市民の散策の場所として利用される。

3. 参加者の声

- ・散策に訪れる市民の声として樹林整備により良好な景観に喜びのお礼を頂けた。
- ・ごみの匂いで臭い時があり近寄りたくなかったが今は良くなった。
- ・うっそうとした繁みが犯罪にも繋がることで心配をしていたが見通しが良くなり安心して散策できる。
- ・樹林や河川での環境学習に参加して故郷の自然を大切にすることのすばらしさ、時代を担う子供たちにつながる事業として続けてほしい。

実績報告とりまとめ表

実施時期		月 日	月 日	計	備 考
事業量 又は 事業内容	樹林整備	7月から	12月まで	8回	用意後雨で中止
	〃	3月から	6月まで	5回	
	環境学習	8月19日	8月19日	1回	
	稲刈体験	9月23日	9月23日	1回	
	環境学習	4月28日	4月28日	1回	
	田植体験	6月9日	6月9日	1回	
参加者数	樹林整備	64人	64人	64人	申込人数
	樹林整備	40人	40人	40人	
	環境学習	106人		106人	
	稲刈体験	72人		72人	
	環境学習	63人		63人	
	田植体験	86人			
	計	431人		345人	
実施場所		埼玉県 狭山市			

匠の技の実感体験による木育・森育の面的拡大事業

木の家ネット・埼玉

〒358-0002 埼玉県入間市東町 5-3-11-301

1. 活動の概要

- 木組みのジャングルジム「くむんだー」を通して、町に住む人たちに山のこと、木のこと、木造技術のこと伝える。
また、「くむんだー」の組立・解体を実際に体験することで、子供たちにもものづくりの楽しさを体感してもらいたい。

2. 活動の成果

- 木造建築あるいは住宅を専門的に伝えることはなかなか難しいが、木組みの仕組みを「くむんだー」を通して体感してもらうことで、理屈でなく経験として理解してもらえることをこの活動を通じて実感できる。また、「くむんだー」は木育の領域とも連携しやすく、建築領域とは異なる分野との交流を深めることができ、従来とは異なったアプローチによって木の家づくりや街づくりについての啓発にもつなげられる可能性を期待できる。
- 「くむんだー」を体験した子供たちに「ものづくり」の面白さが伝わってくれば、これこそが「ものづくり」の人材育成の第一歩と考えられる。

3. 参加者の声

- 日頃見たことの無いほど夢中になっているわが子の姿に驚いた。
- 「くむんだー」と清水の舞台の仕組みが同じ仕組みであることが分かった、とともに日本の大工さんの技術のすごさが知ることができた。
- 木の遊具を協力し合って、組立てたり解体するのは楽しい。またやりたい。

実績報告とりまとめ表

実施時期	2018/7/14～2019/4/20（延べ15日）		備考
事業量 又は 事業内容	県内のイベント会場（13会場・15日）において、木組みのジャングルジム「くむんだー」による木育・森育の啓発活動		
参加者数	県内	子供 727人（+保護者想定 1,090人） 計 1,817人	詳細は報告書による
	県外	0人	
計		子供 727人（+保護者想定 1,090人） 計 1,817人	
実施場所	埼玉県内 ふじみ野・川越・岩槻・ときがわ・入間・新座・飯能・鴻巣・朝霞・越谷		

子どもと森・緑・水をつなぐための環境教育リーダー養成講座（第3回）

特定非営利活動法人 観照ボランティア協会
〒270-1132 千葉県我孫子市湖北台 6-10-2

1. 活動の概要

3月2日（土曜日）、9日（土曜日）に環境先進国北欧で開発されたメソッドにより、子どもたちに森林及び持続可能な環境の重要性をわかりやすく伝えられる人材養成を目的とした「環境教育リーダー養成講座」を開催。

開催場所は東京都の中心にある新宿御苑で、講師は森のムッレ教室リーダーであり、サステナブル・アカデミー・ジャパン代表の2人が担当。

講座の1日目10時からの1時間はレクチャールームで、国土緑化推進機構沖修司専務理事による「森と自然を活用した保育・幼児教育」をテーマにした特別講演を実施。

リーダー養成講座の1日目は新宿御苑でのフィールドワーク、2日目は受講生によるワークショップ、またレクチャールームでエコシステムの基礎、自然活動と子どもの成長、さらに持続可能な開発目標（SDGs）についての講義を2日間に渡って実施した。

2. 活動の成果

開催場所として利用許可を得た新宿御苑は、樹木も多く、環境教育として最適なフィールドで、この環境の下、樹木や生き物の観察、子どもたちへの伝え方の講義を行い、2日目のフィールドでのワークショップは、どのチームも積極的で、パフォーマンスに知恵とアイデアが盛り込まれ、子どもに伝えようとする意欲にあふれていた。

3. 参加者の声

参加者からは次のような感想が寄せられている。「植物の名前から、自然の循環の話まで教えていただき、とても濃い充実した時間を過ごすことができました。なぜエコなのか、自然を大切にすることを考えさせていただけの2日間でした」

「子どもの興味を引く方法などを踏まえながらの実践的な内容で、とても楽しい講座だった。初日（2日）しか参加できなかったのは、とても残念で、また機会があればぜひ参加したい」

「幼児に伝えるだけにとどまらず、周囲のすべての人に対して伝えていきたい」との感想もあり、子どもたちに森・緑・水に目を向けさせ、自然界の仕組みを理解させ、エコへの関心へつなげることが十分に期待できると講座になっていたと考えている。

また、特別講演の内容に対しても関心が高く、特に「森のようちえん」の情報に対して、講演後に多くの質問や相談が寄せられた。

実績報告とりまとめ表

実施時期		3月2日	3月9日	計	備考
事業量 又は 事業内容		レクチャールームでの特別講演及び新宿御苑での自然観察、及び地球のエコシステム基礎講義	新宿御苑での受講生によるワークショップ及びエコシステム、SDGsをテーマにグループディスカッション		
参加者数	県内	17人	14人	31人	
	県外	9人	7人	16人	
	計	26人	21人	47人	
実施場所		東京都新宿区内藤町 11			

森林整備の推進に向けた効果的な普及啓発促進事業

一般社団法人 全国林業改良普及協会
〒107-0052 東京都港区赤坂 1-9-13 三会堂ビル

1. 活励の概要

林業関係者を含む国民各層による森林整備の推進に向けて、森林所有者、市民等に対する普及啓発活動の効果的な実施を促進する研修を行い、森林整備等の推進における普及活動の重要性など、広く国民の理解が得られるようにする。

2. 活動の成果

有識者から「木育」を中心に据えた、地域材の利活用や木質環境整備をすることで、観光事業も含めた地方活性化と森林整備の意欲の高まりが期待できた。また、普及活動事例の小規模森林所有者と林業事業者のマッチングやドローン利用、獣害防止のために捕獲したシカの有効利用は、経営の安定化と人材不足の解消を促す取組事例の情報提供があり、全国各地で実施可能な森林整備の推進に大きく貢献すると期待される。

オープンプログラムを実施したことで、これまで以上に森林整備の推進に対して、広く国民の理解が得られることが期待される。

3. 参加者の声

- ・特別講演のおもちゃ美術館の木育と観光事業とのつながりは、新鮮で地元でも講演開いて頂き、地元の新たなシンボルを作っていきたい。
- ・「森林所有者と林業事業者とのマッチング」は全国どの地域でもニーズが高いので、地元でも実施していきたいと思う。
- ・有害獣であるシカを食肉用として高付加価値を付け流通販売できれば地元の経済も貢献できるジビエの流行もあり、シカ害対策として、面白い。

実績報告とりまとめ表

実施時期		月日	計	備考
事業量 又は 事業内容	全国から林業関係者及び一般市民を募り学識経験者などの活動事例発表など	11月28日	1回	
参加者数	県内	4人	4人	
	県外	127人	127人	
	計	131人	131人	
実施場所		東京都 千代田区		

森林認証材の普及・拡大と持続可能な森林経営の実現

一般社団法人 緑の循環認証会議

〒100-0014 東京都千代田区永田町2-4-3 永田町ビル4階

1. 活動の概要

東京オリ・パラの木材調達基準が示され競技会場の建設等にも認証材が使用されたことにより、認証材に対する市民・消費者の関心はこれまで以上に高まってきており、これを契機に、昨年引き続き森林認証フォーラムを開催して、普及・啓発のためのパンフレットや認証取得のための手引書を配布し、森林認証制度の普及・定着をより確かなものとなるよう努めた。

また、国際認証制度として出発したSGEC/PEFCジャパンの認証制度の国際化が円滑に進められるよう資するとともに、市民・消費者や認証関係者に認証制度についての世界の動きを説明し、森林認証制度への理解を深めその普及に努めるため、昨年引き続きPEFC本部からベン・ガニバークCEOを招聘すると共に、日本と木材及びその関連製品の取引で関係を強めた。いオーストラリア等海外関係各国の認証制度の現状、問題点、対応策等について幅広く意見交換を行った。

2. 活動の成果

今年度の活動を通じて、全国各地において森林認証制度に対する関心も高まり、認証森林や認証COC企業が増加し、昨年度にも増してSGEC/PEFCの森林認証制度の普及・定着に資することができた。

東京オリ・パラの競技施設で森林認証材が使用されたこと等を契機として、SGEC/PEFCの森林認証制度を含めた認証制度の普及率をさらに高め、認証材のサプライチェーンの構築による認証材市場の振興を目指すとともに、2025年に開催が決定した大阪万博に向けても新たな取り組みを行う考えである。

また、世界における森林認証制度の動向を適格に把握し、国際制度としてのSGEC/PEFC森林認証制度の完成度を高め、更には、地域住民や先住民族等の合意のもとに運用される制度を目指した活動を展開していくこととする。

3. 参加者の声

東京オリ・パラの資材調達について、「森林認証」の文字がマスコミ等で取り上げられ、その効果もあって森林認証が広まり、全国各地で森林やCOCの認証取得に向けた取り組みを行う動きが活発化してきた。

戦後造成された1千万ヘクタールの人工林の持続可能な森林経営の実現が喫緊の課題として認識される中で、これを推進する有効な手段として国内人工林から生産された紙類等COC認証品の開発、普及、広報が必要との声が聞かれた。

実績報告とりまとめ表

実施時期		2018年 7月3日	2019年 6月24日	2019年 6月25日	備考
事業量 又は 事業内容	森林認証 セミナー	40名			(一社) 緑の循環認証会議主催
	森林認証 フォーラム		150名	10名	<ul style="list-style-type: none"> ・(一社) 緑の循環認証会議主催 ・オーストラリア認証機関及び日本国内ブランドオーナー2社から事例発表等 ・現地視察(ふじのくに地球環境史ミュージアム外)
参加者数	都内	35名	120名	8名	
	都外	5名	30名	2名	
	計	40名	150名	10名	
実施場所		東京都 港区	東京都 港区	静岡県 富士宮市、 浜松市	

森林の環境保全機能等を巡る国内外の動向に関する啓蒙普及活動

一般社団法人 産業環境管理協会

〒101-0044 東京都千代田区鍛冶町 2-2-1

1. 活動の概要

森林の有する多面的機能発揮の推進及びSDGs（目標15及び目標6を中心に）の目標達成に寄与することを目的に、国内外のバイオ・森林を巡る動向をテーマに有識者（大学、行政、NPO）を招聘しシンポジウムを開催しました。

2. 活動の成果

シンポジウムでは、東京大学の五十嵐圭日子准教授より、EUのバイオエコミノーへの取り組み（戦略）及びバイオエコミノー推進によるSDGsの達成について、林野庁の塚田直子室長より、世界の森林の現状及びREDD+、森林保全を巡る課題について、CDPの岸岡藍プロジェクトマネージャーより、水セキュリティ及びフォレストの質問書、投資家の動向を内容とする講演を頂き、講演終了後に質疑・意見交換を行いました。

バイオエコノミーの最前線とよいい講演内容とともに、SDGsの目標15（生態系・森林）及び目標6（水）に直結する森林吸収源対策や生物多様性保全等に関する国際動向、さらに投資家の意向（開示レベル・内容の変化等）を踏まえたCDPの質問書の傾向等への理解を深めることができる内容でした。

3. 参加者の声

参加者へのアンケートを行い、講演内容について「大変よかった・よかった」という回答が約91%と、参加者のほとんどが有益であったとしています。

今後取りあげてほしいシンポジウムのテーマ・内容は「温暖化による影響と適応策」、「吸収源関連」、「生物多様性」、「自然資本」、「SDGs」を希望する意見が多くあり、森林及び水については、多岐に渡る分野に関心があることが分かりました。

また、SDGsの目標15（生態系・森林）の達成のために参考にしているもの・達成に必要なと考えるものについては、「社員教育」、「循環型社会の実現」、「森林認証制度、木材の活用、サプライチェーンのCSR調達」、「人々の意識の向上、そのための施策」等の意見がありました。

実績報告とりまとめ表

実施時期		4月23日	計	備考
事業量		(半日)		
参加者数	県内	55人	55人	
	県外	29人	29人	
	計	84人	84人	
実施場所		東京都 千代田区		

医師と歩く森林セラピーロード

International Society of Nature and Forest Medicine(INFOM)
〒156-0051 東京都世田谷区宮坂 3-19-4

1. 活動の概要

本事業は、森林率90%前後の市町村の中で、優れた森林を有し、森林空間内滞在によるストレス緩和が、都市部と比べ有意になされると実験・証明された“森林セラピー基地®”の中から10ヶ所を選び森林医学に精通した医師同行で開催した事業である。医師は、森林内行動前後に各参加者が計測したストレス度を含む検査の講評及び森林の持つ予防医学的効果の講話、講演、ガイドは、森林全般の有用性、地元文化との接点等を解説し、森と木と人との共助を促した。

2. 活動の成果

本事業は、終了後のアンケート調査によると、参加者の90%強が、優れた森林の持つ多面的機能や、景観美に対する驚きや感動、五感を駆使する行動での森との親和、森林内で簡単に出来るマインドフルネスによる活力アップを体感し、満足と記した。今回は、将来森林関係の職につく森林大学校生と、大学の森林再生学ゼミの学生が約30%、外国人参加者が20%を占め、今後の人間環境としての森林の重要性が若齢者や国際的に周知され、森林の保全管理、森林サービスや木材使用の必須性が正確に伝搬され、彼らの活動の一助となると期待できた。

3. 参加者の声

イベント全体についての評価は、大変満足、満足の合計が男性95%女性98%、個別評価でも、森の大切さの実感が男性95%、女性100%、セラピスト（ガイド）の対応が、男性98%、女性100%、医師の評価が男性97%女性98%であった。すなわち、森、人共に高評価された。今後もINFOM、各基地共に本方向性をもって、最新の医・科学的情報提示やアクティビティの向上に努められる可能性が大である、満足度の高い感想を得た。

実績報告とりまとめ表

実施時期	事業量	参加者数			実施場所	備考（ロード名）
		県内	県外	計		
2018年 9月16日(日)	4 時間	10	0	10	長野県上松町	赤沢自然休養林セラピーロード
2018年 9月28日(金)	3.5 時間	21	0	21	兵庫県宍粟市	「フォレストステーション波賀」内ロード
2018年10月 7日(日)	4 時間	23	3	26	長野県山ノ内町	志賀高原サンシャイントレイルコース
2018年11月17日(土)	4.5 時間	0	2	2	岐阜県本巣市	NEO 桜交流ランド四季彩の道
2018年12月 9日(日)	3.5 時間	3	0	3	高知県梶原町	久保谷セラピーロード
2019年 2月 3日(日)	5 時間	15	0	15	宮崎県日南市	蜂之巣公園
2019年 3月21日(祝)	4 時間	10	0	10	兵庫県宍粟市	国見の森セラピーロード
2019年 4月 7日(日)	5.5 時間	4	8	12	東京都奥多摩町	登計トレイル及び氷川溪谷
2019年 5月19日(日)	8 時間	0	37	37	群馬県上野村	中之沢源流域自然散策路
2019年 6月29日(土)	4 時間	20	0	20	岩手県岩手町	子抱コース・嵐山コース
参加者数合計		106	50	156		

八王子市の保育園で行う 八王子産材を使ったお箸作りを通じた森林環境教育

特定非営利活動法人 森のライフスタイル研究所
〒102-0084 東京都千代田区二番町 9-3 THE BASE 麹町

1. 活動の概要

- 八王子市の保育園 10 園において地域材を材料にした箸づくり学習会を行うとともに、森や緑と触れ合うこと大切さなどを啓発し、多角的な視点から森林 ESD の推進を図ります。

2. 活動の成果

- 次代を担う子どもたちに、地域の森林や里山を知ってもらい、地域材とふれあい、木をまなび、木と生きることを体感してもらうこと（＝木育／森林 ESD）で、子どもが当事者として、持続可能な地域づくりに主体的に関わるチカラを育てていくことができたと思われまます。
- 次代を担う子どもたちに向けて活動を行うことで、『八王子で暮らし続けるには、森林や里山の継続的な利用が必要である』という認識をもつ人材の基盤づくりができ、具体的には、実施園のなかで 2 園が里山整備にも参画して下さるようになりました。
- 八王子市子どものしあわせ課と連携し、市内の保育園を巻き込みながら事業を行えたことで、「教育分野」とのネットワーク型の活動が実現しました。
- 保育園を巻き込むことで、園児だけでなく先生たちへの理解啓発につながり、厚みのある成果拡大が期待できます。また、帰宅した園児を通じて、親御さんへも活動趣旨の伝達ができ、八王子の里山整備ボランティアへの参加にもつながっています。

3. 参加者の声

- 森について勉強になり、なおかつ、毎日使うものを自分たちの手で作る機会を与えてくださり、ありがたいです。森の説明が子どもたちにもわかりやすかったです。
- カンナをはじめて使いました。1 本目はうまくできなかったけど、2 本目は上手にできました。
- はちおうじにも沢山の森林があることを子どもたちも我々、保育士も勉強になりました。

実績報告とりまとめ表

実施時期		平成 31 年 10 月～平成 31 年 4 月	備考
事業量 又は 事業内容		<ul style="list-style-type: none"> はちおうじのヒノキで自分のお箸をつくる活動 森の学習会（上記事業と併催） 	
参加者数	県内	320 名	
	県外	0 名	
	計	3020 名	
実施場所		八王子市内の保育園や施設等 10 箇所	

森林ボランティアの新規参加の促進と指導者層の育成事業

特定非営利活動法人 森づくりフォーラム

〒113-0033 東京都文京区本郷 2-25-14 第一ライトビル 405 号

1. 活動の概要

森林ボランティア団体の会員の高齢化・固定化・新規参加者の不足などの課題を踏まえて、森林ボランティア新規参加の促進と指導者層の育成を目的に、東京都の西多摩地域で活動する7つの森づくり団体と協力し、森づくり活動初心者を対象としたプログラム「初心者のための森づくり体験会」を計8回実施した。それぞれの団体のフィールドや特徴を活かし、間伐などの森林整備体験のほか、自然観察や安全講習などを行い、森の魅力を存分に伝えるプログラムとなった。

2. 活動の成果

2017年度に引き続き第2弾となる森づくり体験会であったが、2017年度と比べ3倍の参加者数となった。複数のプログラムに参加し、森づくり活動を継続する意思が強い人も多く、森林ボランティアの新規参加の促進につながっている。また、2017年度の参加者が今回は団体の指導者として関わっており、森づくり体験会を継続する意味も実感できた。3つのプログラムでは小学生以上を対象とし、子どもへの自然体験の提供にもつながった。10～50代の方の参加も多く、これからの森づくり活動を担う年代へのアプローチもできたと感じている。協力団体からは、初心者进行を教えるという経験は今後活かすことができるという意見もあり、森づくり団体への支援にもつながっている。今後は、森づくり体験会のスケールを拡大していきたい。新規参加者を呼び込みながら指導者層を育成できるような事業を行っていく。

3. 参加者の声

森づくり体験会の参加者からは、森づくりは大変だったけど楽しかった、全く知らなかった森のことが良く分かった、丁寧にわかりやすく教えてもらいとても勉強になった、自然の中で体を動かして気持ち良かったなど、ポジティブな意見がほとんどであった。小学生からは木を切るのが楽しかったなど、大人も子どもも普段できない経験ができて満足、という意見が多かった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	2018年10月8日	2019年1月～5月	2019年6月24日	計	備考
事業量 又は 事業内容	初心者のための森づくり体験会特別回	初心者のための森づくり体験会 2019	初心者のための森づくり体験会 2019 報告会		
参加者数	都内	14人	162人	8人	184人
	都外	3人	23人	0人	56人
	計	17人	185人	8人	210人
実施場所	東京都西多摩地域の森林				

森林社会学会創設のための連続講座運営 事業

「森づくり政策」市民研究会

〒113-0033 東京都文京区本郷 2-25-14 第1 ライトビル 405 号
特定非営利活動法人 森づくりフォーラム内

1. 活動の概要

「森づくり政策」市民研究会では、森林社会学創設を目的として2015年から実施している連続講座を継続的に開催している。2018年度は通常の講座を1回、ジビエ食を組み込んだ体験型講座を1回、森林環境税をテーマにした拡大版を1回開催した。

- (1) 連続講座シンポジウム「I ターン移住者先駆者が考える地域経済のこれから」

講演：小森 胤樹 聞き手：相川 高信

- (2) 連続講座シンポジウム「鹿と猪はこう食す！知りたい森と獣害のこと」

講演：石崎 英治 聞き手・司会：赤池 円

- (3) 連続講座シンポジウム（拡大版）

「どう使われる？ どう活かす？ 森林環境税と市民参加の森づくり」

講演：内山 節、柴田 晋吾、永井 壮茂、小寺 徹

コメンテーター：山崎 靖代 聞き手：鹿住 貴之

2. 活動の成果

森林社会学創設に向けた講座を3回行い、その間に検討会議も行った。また今年度は獣害に関する回においてジビエ食体験も組み込んで実施し、参加者間での交流も深まったとの好評を得た。継続して運営しているシリーズ講座「森から人へ、人から森へ」は様々な形式で実施し、これまでに計15回を開催し、延べ650名に参加いただいた。森林に関わる各テーマで実施を重ねてきたことで、各界で活躍する研究者・実践者とのネットワークが広がり、リピート参加者も増え、今後の講座や森林社会学会に関する意見や提案を多くいただくようになった。また意見交換や懇親の場を通じて、参加者間のつながりや、異分野で活躍する人同士のネットワーク構築にも寄与している。

3. 参加者の声

- ・今日の講演を地域づくりに活かしたいと思う内容でした。ぜひ、我が市の行政にも聞いてもらいたいと思いました。
- ・次世代へ継ぐべき事をできることからしてみたいと思いました。
- ・山づくりに更に力を入れていくべき所に足を運んで活動したいと思いました。
- ・獣害のこと、ジビエのこと、森や里山の歴史まで、多岐に渡るお話、大変興味深く、楽しくメモをとりました。食と言葉の関係性、印象に残りました。
- ・自然に対する、考え方がかわってきていて、今、少しずつ価値を認め、動きは始めているという感じられた。

実績報告とりまとめ表

実施時期		11月3日	4月6日	6月2日	計
事業量	3回	1回	1回	3回	3回
参加者数	都内	16人	23人	45人	84人
	都外	12人	7人	30人	49人
	計	28人	30人	75人	133人
実施場所		東京都文京区 シビックセンター 区民会議室ほか			

木で作って木を知るプログラム

一般社団法人 TOBUSA

〒123-0862 東京都足立区皿沼二丁目23番7-505号 フォルティーンヌ皿沼

1. 活動の概要

(1) 展示 木という器 (展示)

日本は「木の文化」の国と言われ、豊かな森林に囲まれ「木の文化」を育んできました。

長い時間の中、生活の一部を担ってきた素材「木」をテーマに、「器」にフォーカスを当てた展示を企画しました。

表現形式は立体、平面を問いません。木材で出来た器は当然として、木と異素材を合わせた複合材による器や表現、木の器を対象とした絵画、写真等の平面表現等も含めた展示。

現代における生活を木の文化を通し、多様な形が未来の文化を担う可能性を提示しました。

(2) 幼稚園ワークショップ 幼稚園の木といっしょに

毎日通う幼稚園に生えていた木を使い、ベンチを作りました。生えていた木が材料に変わり自分たちの手で加工し、それが道具へ変わる瞬間を、子供たちと過ごす時間を作るワークショップを実施。

(3) 群馬県上野村における地域活性化プロジェクト

豊かな山林に囲まれた上野村。この山間部の地域における文化的木質プロジェクトを立てられないかと、調査を実施。

(4) 木と人が出会う場作りワークショップ

多くの人が木に触れ、素材を感じられる場づくり。木材供給の専門家と教育、文化の専門家による木質の可能性や情報開示を推し進めるためのスタートプログラム。

2. 活動の成果

展示 展示者として東京藝術大学現職の教員を始め、様々な専門分野の作家が参加。

木を使った様々なタイプの表現により、デザインとしても美術、芸術、教育としても幅広く可能性の種を含んだ展示空間を展開出来た。

来場者からの期待の声も多く、展開の幅は産業全般に広がる可能性を見い出せた。

幼稚園ワークショップ

幼稚園の自由登園という時間で行ったので、ワークショップの形式も異年齢を対象としたものとししました。「木」が一斉授業を越えた新しいワークショップの形を容易にしてくれるワークショップ事例を作りたいと考えていたので、貴重な一回目になったと考えています。

群馬県上野村における地域活性化プロジェクト

地元森林組合などへの視察、意見交換などを実施。地域の木質文化施設なども視察。

木と人が触れ合う場づくりワークショップ

材木商、デザイナー、教育者、アーティスト、建築家、等々が手を組み多くの人が木材に触れる機会を創出するための地盤作りを進めた。

3. 参加者の声

展示 美術関係者や大手メーカーのデザイナーなども多数来場、既存の木材活用のマーケットに無い切り口を感心しながら鑑賞していく様子が見られた。

教育関係者（各自治体の教育委員等）からは、教育現場での素材体験などの減少を危惧する声が聞かれ、本展示などから教育現場へ落とし込む事の出来る可能性を見出していた様子であった。

幼稚園ワークショップ

参加の子どもたちは丸太に触れて加工する中の自由な楽しみを通して、完成した椅子は今

後も日常的に接する物として親近感を持つことが出来た様子であった。

園の先生方は今回の実施を受け、園内に本企画の内容の掲示と制作経過の展示の機会を独自に企画して行っていただいた。丸太を加工する迫力と、大人数で一つの物にかける手仕事、木という素材への純粋な愛着に繋がっていた様子であった。

地域活性化プロジェクト

地元森林組合等、視察、意見交換の結果、木材の利用に文化的可能性ある事などが見てとれた、専門的なアドバイスを求める声が聞こえた。

木と人が触れ合う場づくりワークショップ

単純な木材の流通からでは無く、新たな取り組みとして木の魅力を伝えていく歩みを感じられた。

実績報告とりまとめ表

実施時期		10月27日 12月8日 2月23日	10月27日	5月3日～ 5日	8月28日 6月21日	計	備考
事業量 又は 事業内容		幼稚園ワークショップ	上野村における地域活性化プロジェクト	新宿オープン木という器展示	木と人が触れ合う場づくりワークショップ		
参加者数	県内	225人	11人	350人	9人	450人	
	県外	0人	0人	250人	0人	200人	
	計	225人	11人	600人	9人	845人	
実施場所		東京都	群馬県	東京都	千葉県		

都市部における若者による森林環境教育の実践

特定非営利活動法人 こがねい環境ネットワーク
〒184-0011 東京都小金井市東町 2-28-8

1. 活動の概要

都市部住民などに向けた森林環境教育を、大学生を中心とする若者が実践することにより、森林環境教育を担う人材育成と普及啓発を同時に推進することを目的とし、活動を展開した。

教育を学ぶ大学生や森林保全活動に携わる中学生や高校生などの若者が社会教育実践の一環として、間伐材から生まれた積み木や組手什などを用いた講座やワークショップを企画運営したほか、イベント時における展示教材などの制作を通して、都市で暮らす市民にとって身近に感じにくい森の環境や林業の現状などを知ってもらうための森林環境教育を実践した。

2. 活動の成果

講座参加者の主なターゲットを親子や子どもに設定し、次世代に向けてより高い環境意識を持つ子育て世代を中心に好評であった。間伐材によって作られた積み木や組手什は企画に携わった若者にとっても目新しい素材で、自らが森林環境教育実践の有効性やその手法を学ぶことができた。

今後は、引き続きこれらの素材を使った企画を進めながら、既存の手法に捉われない実践を探求し、若者の教育実践のスキルを向上させる機会を増やすとともに、森林環境教育として地域住民への啓発の拡大を図る。

3. 参加者の声

- ・森林の間伐作業の重要性を知ることができ、その後の使われ方が大事だと学べた。
- ・子どもに木を触れさせることができ、親子で楽しい時間を過ごせた。
- ・組手什を初めて知った。
- ・このようなイベントを増やして欲しい。

実績報告とりまとめ表

実施時期		月日	計	備考
事業量 又は 事業内容	イベント 6回・研 修1回を 実施した。	イベント (1)「積み木で何が できるかな」(2)こがねい環 境フォーラム 2018「30000 このつみきとあそぼう」(3) 「若葉まつり」(4)「第 55回クリーン野川作戦 in 小金井」(5)6/2 (5)「こまエコまつり」(6) 「はじめての家具職人3」、 研修 (7)「組手什体験」	(1)11/2～4 (2)12/1～2 (3)5/11～12 (4)5/25 (5)6/2 (6)6/30 (7)3/29	11日間
参加者数	計	(1)120人 (2)265人 (3)635人 (4)163人 (5)175人 (6)19人 (7)8人	1,385人	
実施場所	東京都 小金井市 (1) (2) (4) (6) (7)、 東京都 狛江市 (5)、神奈川県 相模原市 (3)			

地域に根差した木の建築研修会

木と建築で創造する共生社会実践研究会

〒103-0004 東京都中央区東日本橋 3-8-1 東日本橋コーポラス1F

1. 活動の概要

大型木造建築の設計者に「地域に根ざした」木の建築のあり方への理解を促し、真に持続的な地域経営に資する木造設計者を育成することを目的として、特に組織（大手）設計事務所に所属する設計者を主なターゲットに、持続可能な地域経営に資する木造建築のあり方について理論・実践の両面から学ぶための研修会及び現地見学会を計5回（うち現地見学会1回）開催した。なお、5回のうち4回については日本建築士会CPDプログラムに登録して実施した。

2. 活動の成果

今回の活動を通じて、多くの設計者に対し、素材としての木の良さや特徴を活かすことに留まらず、木を使うことが林業・木材産業の振興や教育、文化など様々な面で持続的な地域経営に貢献するものであることへの理解が広がった。今後も自己資金により活動を継続し、地域に根ざした木の建築のノウハウの蓄積と自立的・持続的な木材利用の推進に貢献していきたい。

3. 参加者の声

- ・ 建築に木を使うことが真に山（地域の森林）のためになるようにするため、建築設計者や木材の供給者が一緒に考えるべきことがあると分かった。
- ・ 建築の発注者、施工者、木材の供給者、山元の林業事業者の間をつなぎウィンウィンの関係を築くことが重要であるが、設計者に多くを求められても限界があり、木材コーディネータをうまく活用することが大事だと分かった。ただし、費用負担が課題である。
- ・ 異なる組織事務所の設計者との交流が生まれ、新たな視点や知恵を得ることができた。
- ・ この研修会で得たヒント（ノウハウ）を、今後の設計に出来るだけ生かしていきたい。
- ・ この研修会を（助成金がなくても）今後も続けてほしい。

実績報告とりまとめ表

実施時期	9月21日	11月17日	12月15日	1月25日	4月27日	計	備考
事業量又は 事業内容	現地 見学会	研修会 (座学)	研修会 (座学)	研修会 (座学)	研修会 (座学)		
参加者数	県内	人	人	人	人	人	
	県外	人	人	人	人	人	
	計	20人	17人	28人	33人	28人	126人
実施場所	現地見学会：富山県 魚津市・富山市 研修会（座学）：東京都 文京区、中央区						

「木のいえデザイン×耐久性シンポジウム」の開催

一般社団法人 木のいえ一番協会

〒150-0045 東京都渋谷区神泉町 22-2 神泉風来ビル 2F

1. 活動の概要

国産材の供給能力の高まりや改正建築基準法の木材利用の推進に向けた規制の合理化等により木材・木構造の利用の可能性が高まる中、木のデザイン関係者と木材の耐久性向上関係者が相互の理解を深め、より良い木材の利用や木造建築の在り方等を広く普及するために、3名の講師による基調講演とトークセッションを行った。

基調講演は日本を代表する若手建築家による「木の住宅・木のデザイン」を、木材の耐久性研究者2名による「木材の特徴と耐久性の向上の未来」をテーマに行われ、トークセッションは「木のデザインと耐久性向上の未来」をテーマに討論され大いに盛り上がった。

2. 活動の成果

- (1) 実際の建築の上では密接な関係がありながら、これまで接点の少なかった木のデザイン関係者と木材の耐久性関係者が共同でシンポジウムを開催することで、木の空間や木造住宅の設計コンセプト、最新の科学的な知見に基づく保存処理木材等について相互理解が進んだ。
- (2) 木材の利用拡大を推進していくためには、建築設計者と木材関係者の相互理解と連携が不可欠であり、このような観点から異業種による共同のシンポジウムは極めて有効である。今後ともこうしたシンポジウムを開催してまいりたい。

3. 参加者の声

- ・木材の維持管理の重要性について理解できた。
- ・建築デザイナーの木に対する考え方、設計手法も大変参考になった。

実績報告とりまとめ表

実施時期		月日	計	備考
事業量 又は 事業内容	シンポジウムの開催	3月19日		
参加者数	設計・建築関係	73人	73人	
	木材関係	47人	47人	
	マスコミ	4人	4人	
	計	124人	124人	
実施場所		東京都渋谷区神泉町22-2 神泉風来ビル3F 神泉風来講堂		

木の壁が支える強く・美しく・安らぐ木造住宅普及と 技術者育成の取り組み ～壁－1グランプリ～

壁－1グランプリ実行委員会

〒113-8657 東京都文京区弥生 1-1-1

1. 活動の概要

本事業“壁－1グランプリ”の活動は、木造建築物の耐震性の要である「耐力壁」の設計競技である。その主たる目的は、本事業を通じた木造建築業界の人材教育や研究の発展である。

本年度は、9月に競技会を行い、学生団体（東京大学・東京理科大学・法政大学・四国職能大・東北能開大・日本建築専門学校・ポラス技術訓練校）及びハウスメーカー・金物メーカー（三井ホーム・アキュラホーム・シネジック）など合計13団体の参加があった。

また、審査員として、業界の第一人者である東京大学名誉教授安藤直人氏・建築家安原幹氏（SALHAUS）・構造家名和研二氏（なわけんジム）を招き、講評いただいた。

大会は2018/9/15～17に、ものづくり大学で行い、9/15・16で予選、17日に本戦を行った。

予選では各団体が設計した耐力壁について、単体の状態で土台を固定した状態で桁を引張り、その変形量が30mmに達するまで加力を行った。その時の荷重値の上位8チームを選抜し本戦を行った。

本戦は、2つの耐力壁を並べ、土台を固定した状態で桁を引張り、合計の変形量が450mmに達するまで加力を行い、それまでに破壊した耐力壁を敗退、破壊しなかった耐力壁を勝利とするトーナメント大会を行った。その結果に応じて、総合優勝・トーナメント優勝及び各部門賞の表彰を行い、本年度の総合優勝はチーム匠（アキュラグループ+東京大学木質材料学研究室+篠原商店）、トーナメント優勝は三井ホームGTとなった。

また、上記の大会について、2019/5/18～19の東京大学五月祭でパネル展示を行い、一般の方に向けた報告を行った。

2. 活動の成果

本事業は、木造建築業界をこれから支えていく学生にとって、プロの技術力を直接目にし、交流するよい機会になったように思える。また、これまでになかったアイデア・コンセプトを持つ耐力壁も登場し、よい技術の研鑽の場になったと言える。次年度以降も継続して大会を開催し、木造建築技術の更なる貢献につなげていくように考えている。

3. 参加者の声

- ・様々な団体と交流できた。
- ・木質構造の設計に対して非常に有意義な議論ができた。
- ・今後も継続して開催してほしい。
- ・ルールが分かりづらかった。

- ・もっと駅の近くで開催してほしい。

実績報告とりまとめ表

実施時期		月日	月日	月日	計	備考
事業量 又は 事業内容	壁-1 グランプリ	2018年 9月15日	2018年 9月16日	2018年 9月16日	延べ人数	
参加者数	県内	20人	20人	20人	60人	
	県外	50人	50人	130人	230人	
	計	70人	70人	150人	290人	
実施場所		ものづくり大学 埼玉県行田市				

実施時期		月日	月日	計	備考
事業量 又は 事業内容	壁-1 グランプリ 報告会	2019年 5月18日	2019年 5月19日	延べ人数	
参加者数	県内	250人	250人	500人	
	県外	250人	250人	500人	
	計	500人	500人	1000人	
実施場所		東京大学 東京都文京区			

「水が繋ぐ地域と世代」促進事業

(一社) 全国森の循環推進協議会

〒 221-0056 神奈川県横浜市神奈川区金港町 6-18 アーバンスクウェアⅡ 1階

1. 活動の概要

本事業は、下流域の学童スイマーを主な対象に、「森と水の祭り」を開催し、上流の水源地保全の重要性を学ぶ体験学習参加者の表彰式典及び間伐材を中心とした木製品に触れる展示会を組み合わせた複合的普及啓発事業である。

2. 活動の成果

上流部の水源地保全体験学習へ参加（または今後参加予定）の学童及び家族に式典へ参加して頂く事で、水源地保全の学習効果をさらに高め、上流部からの出展者による木材クラフト体験を通じた上下流交流、木製SLの乗車体験等から水源地保全と保全を目的とした木材利用について「見て、触れて、遊んで、学ぶ」ことを身近なものとして体感し、それを伝える事で参加者のみならず家族や仲間とも間接的に共有してもらう事が出来た。

3. 参加者の声

- ・子ども達が自分で作った木の椅子や笛を家でも楽しんでいます。仕事で行けなかった父親にもいろんな話をしていました。テレビ番組で林業について考えさせられたところだったので森の働きや水の大切さを知り楽しむ事が出来るイベントでした。また参加したいです。(親子参加)
- ・こどもたちが大人はしないような自由な発想で、一緒にお話ししながら作成する事が出来有意義な時間となりました。(間伐材木工クラフト出展者)

実績報告とりまとめ表

実施時期	月日	計	備考
事業量 又は 事業内容	第2回 森と水の祭り	3月21日	1回
参加者数	県内 県外 計	493人 36人 529人	493人 36人 529人
実施場所	神奈川県 横浜市中区		

木造文化遺産補修用材の持続的な確保について ～文化財所有者側と森林所有者、伝統建築関係者との連携を考える～

(一社)文化遺産を未来につなぐ森づくり会議

〒214-0005 神奈川県川崎市多摩区寺尾台1丁目9番11

1. 活動の概要

当会は、文化財として現存する木造建造物を後世につなぐ為の文化財補修用材の確保を目的とする。それに関する知見を深め、その確保の必要性を広く一般市民に訴えることを目的として発足した。現実の山や林業が未来につながるためには一般の市民にも山の重要性や木材需要をより広く喚起しなければならない。

については、寺や神社の本山が多く集まる京都にて、直接文化財所有者と問題を共有することを目的として円卓会議開催を呼びかけた。[明日の京都 文化遺産プラットフォーム]という京都の文化継承を願う著名人や団体によって幅広い活動を展開している団体との共催を得て、実行することが出来た。

2. 活動の成果

国宝級の文化財建築物の補修用材は、国産材を使用しなければならないが、目の詰まった大径・長尺材をいかに確保して行くか、多くの問題を抱えている。天然材の入手は困難になりつつあり、補修材は、修理される部材と「同樹種」「同技術」「同品等」という鉄則もある。

今回、京都近郊でも猛威を振った台風の話で会議が始まった。その台風被害の話から山側と文化財所有者側との連携が必要な事、補修用材の定義をどうするべきか、何の為に文化財を守らなければいけないのか、など根源的な問いも発せられた。

今後の社会に、私たちの生き方や、森との共生の在り方、文化財をどうとらえ、未来につなげて行くか、啓発のための活動も続けて行かなければならない。森林所有者と文化財所有者、伝統建築に関わる方々や行政、一般市民とも、より連携し、木造建築の復活や維持保全に取り組んで行かなければならない。近畿中国森林局の方々が参加されたことも有意義なことであった。地域材の利用・山村資源の有効活用や寺社建築材など用材として何百年も持続する木材の価値、及び森林の公益的機能の増進に係る普及活動も継続して行かなければならないことを確認した。ぜひ、二回目につなげ、掘り下げたい。

3. 参加者の声

オブザーバーとして参加された方々からの感想。違う職種で別々に活動している人たちが、出会い、観察し、意見交換し合うことで、お互いが啓発し合うことが有るのだ、と理解した。

実績報告とりまとめ表

実施時期	平成30年12月9日		計
事業	第1回円卓会議		
参加者数	県内	40人	40人
	県外	30人	30人
	計	70人	70人
実施場所	京都二条 立命館大学朱雀キャンパス		

命の水を育む銀杏峰を癒しの森に

里山銀杏峰を愛する会

〒912-0045 福井県大野市若杉町 1502-3

1. 活動の概要

市民の70%以上が、銀杏峰を含む屏風山脈からの地下水で生活している。小雑木間伐、刈り払い整備（笹原重点刈り払い）で、光合成及び風通し良くなり雑草増殖（亜高山帯お花）し、冬季に枯れ、微生物や茸菌類等の働きで、腐葉土増え、荒廃を防ぎ保水力有る山が育ち、富栄養の水が流れ、河川、海の生き物も育ち、四季の彩りから児童達の感性を育む森作り。

2. 活動の成果

児童達と里山周回時、山の大切さ、偉大さ、水の美味しさ、小鳥、植物等を愛で、森が人間に必要性を伝え、手入れが何故必要か、夏休み親子連れ自然観察会で、児童達の五感を磨けるよう、森林サポーターと共に学ぶ。昨年のバードコール作りは好評戴く。

約沿面距離16km作業林道含む、登山道刈り払い、倒木ステップ敷設整備を続けながら、県内絶滅危惧種「オヤマツグ」重点保護の成果も有り、現在18箇所以上で育み昨年は150個花開く。

山頂極楽平「大野市自然遺産根曲り疎林帯」お花畑を、福井国体に向け概ね完成ですが、より安全な高地トレコース丁寧整備後一般に開放。

3. 参加者の声

30年1月から、冬季限定スキルUP参加者の皆様、殆どが広大な大雪原の霧氷、モンスター等に驚愕。再度登りたい等と、個人で雪山を楽しむ方が相当に増え、事故等の心配も有る。

山開き参加された方、平野部では田植等が始まり、汗ばむ初夏なのに、山頂平の大雪田上を時折流れる風が、火照った身に心地よく、願掛けお札の火入れ、ブナ林の萌黄に歓声を上げ、都会で失われた四季を全身で満喫、足の踏み場もないほどの、山野草他タムシバ等、樹木花に、銀杏峰の自然を改めて再認識されました。

登山道整備、登山道に横たわる、間伐材木利用し、チェンソー及び刈り払い機の扱い方、安全講習会（自身フェルトサポーター）を開き、機械の危険と便利さを学び、ステップ敷設、水勾配配慮、刈り払い機扱い注意点を、自身も慢心せず皆様と共に学ぶ。

森フェス IN ぎふ山県

NPO法人 山県楽しいプロジェクト
〒501-2105 岐阜県山県市高富 1238

1. 活動の概要

これまで市内でばらばらに活動していた自然活動、子育て支援、家づくり体験、環境保全などのNPOが集結して、初めて市内において「森フェス IN 山県」として合同イベントを開催した。

こうして団体が集まってイベントを行うことで、森林環境教育に関する啓もう活動としてより広く、より大きな影響を与えることが出来ると考え、各団体から構成する実行委員会を結成して取り組むこととした。

具体的内容としては、子どもたちが入場した後、「家づくりの体験（木工等体験）」や「環境保全に関するウォークラリー」、乳幼児対象の「森のおさんぽ」や木のおもちゃで遊ぶ「木育ひろば」などを設置することで、親と多年代の子らで楽しみながら自然に触れる機会、体験のできる合同イベントを行うことが出来た。

2. 活動の成果

一つ一つの団体の活動は素晴らしいものがあるが、やはり年に数回しか各団体活動していないので、そのスケールも小さく、団体らの活動もお互いに何をしてるかなども知らないでいた。こうして活動を合同で行うことで、お互いの活動をそれぞれの団体の参加者や関係者に知ってもらうことができた。特に将来にわたって、子どもたちが地域でこんな自然体験型のイベントがあった。ということを経験にとどめてもらえるようなイベントができたと感じている。今後も継続して開催できるよう検討していきたい。

3. 参加者の声

- ・楽しかったからまた体験したい
- ・たくさんブースがあり、たくさん体験ができました。
- ・木のおもちゃであそんだりして、また森フェスにいきたいです。
- ・森や虫、自然にあらためてふれあえる良い機会をありがとう。
- ・山登りがたのしかったです。など。

実績報告とりまとめ表

実施時期	1年5月12日	計	備考
事業量 又は 事業内容	山森フェス IN 山県 2019		
参加者数	県内	400人	400人
	県外	0人	0人
	計	400人	400人
実施場所	岐阜県山県市		

「表現の森で遊ぶ」五感で森を感じるプログラム

特定非営利活動法人 まあむ

〒501-0512 岐阜県揖斐郡大野町上秋 946-10

1. 活動の概要

目的：森で五感を使った体験活動を行い、森と親しみながら健康な心と体を育む。子どもの主体的な活動を見守り、生きる力を育てる。森林の多面的機能を学び、自然環境への興味関心をもつ。

内容：夏休みの1日を利用した小学生の体験学習「こころとまり～表現の森で遊ぶ～」

地域の森林セラピーロードを活用し、小学生が森林セラピー体験をしました。

昼食は地元の食材、自然のもの（ジビエ）も使い、共同で作りました。

午後は、森の中で造形や演奏などの表現活動を行いました。

活動終了後、報告書を作成し、森での過ごし方の提案や自然体験の効用を伝え、家族でも森に行くきっかけにしてもらおう。参加者に配るほか、管理棟や地域のイベントで設置

2. 活動の成果

当日の子どもたちの様子：山道を足の裏で感じ、目で障害物がないか確認し、香りで植物を感じ、他の生き物が近くにいないか聴き、自然のものを食べる（今回は鹿肉や猪肉）。一日だけでしたが子供達は生き生きしていたように思います。どんどん自分たちで遊びを見つけ、危ないか確認して行動していました。もりもりご飯を食べ、自分の気持ちを素直に相手に伝えていました。

森での楽しい思い出ができ、子ども達から「また森に行きたい」という声があがりました。今後も継続的に、子どもと森をつなぐことで、自然への興味関心を育てたいと考えています。

3. 参加者の声

子ども達：カレーが美味しかった。工作が楽しかった。森に歩いていくのが良かった。山に登るのが良かった。

保護者さんより：帰宅後、じゃが芋とリンゴはこれから私が剥くからね！と言ってくれた。子どもが「今度、森を案内したい」と言ってくれた。とにかく生き生きとしている姿が印象的で、こんなのは初めてでした。

実績報告とりまとめ表

実施時期	8月30日	9月28日	計	備考
事業量又は 事業内容	こころとまり～表現の森で 遊ぶ～	活動報告書作成 500部		
参加者数	県内	14人	14人	
	県外	0人	0人	
	計	14人	14人	
実施場所	岐阜県 本巣市 森林セラピーロード 文殊の森			

森から始まる、みんなで作る木製遊具作り

公益社団法人 静岡県林業会議所

〒420-8601 静岡市葵区追手町9-6 静岡県庁西館9階

1. 活動の概要

活動の目的及び事業内容

日本の森林資源が充実している現在、間伐材を含め、地域材の利用及び需要拡大が大変重要な課題です。

今回取り組む事業は、地域材を活用する事や、森林の大切さ、木材の良さを都市部の親子の皆さんに知ってもらう事を目的にしています。

木製遊具の組み立てや作製を通して森づくり、製材加工、木材利用を一貫して体験するプログラムにしました。

プログラムは2回に分けて実施しました。第1回目は平成30年12月1日に掛川市森林組合管内山林で間伐実施の現場を見て、技術者5人が実際に木を伐るのを見学。さらに林内に点在する高齢木を高性能機械ファーベスタで伐採する実演を見学した。午後からは、掛川市内にある製材工場オールスタッフ㈱で木材が加工されていく工程を見学した。

2日目は平成31年1月19日 掛川市産材で作製した、木製遊具（ジャングルジム）の組み立てなど体験した。さらに木の枝で作る鉛筆づくり、マイ箸づくり、蒔きストーブの体験などを行った。

2. 活動の成果

都市部の親子の皆さんは山林の伐採現場に入ることは、まず無いので、森林が作られていく間伐などの現場で様に驚いたようでした。

さらに製材所で丸太が製品に加工されていく工程には興味をひかれた様子伺われた。木製遊具づくりでは地元産の木と触れ合う楽しさを感じた様子でした。

今回のプログラムを通して、参加者は森林が果たしている役割、森づくりの大事さが、ある程度理解できたと思われました。

3. 参加者の声

- ・参加して良かった。木に触れ合うのは楽しい。
- ・木を伐る機械がすごい！運転してみたい。
- ・ジャングルジムの組み立てをして親子で楽しめた。
- ・森をつくる大変さがをなんとなく体験できた。
- ・木を伐るおじさんが格好よい。

実績報告とりまとめ表

実施時期		平成30年 12月1日	平成31年 1月19日	計	備考
事業量 又は 事業内容		伐採現場、 木材加工施設見学	地域材を使った 木製遊具づくり		
参加者数	県内	23人	36人	59人	
	県外	0人	0人	0人	
	計	23人	36人	59人	
実施場所		静岡県掛川市大和田 320-1			

地産材を活用した木工作品の公募展

特定非営利活動法人 伊豆学研究会
〒410-2321 静岡県伊豆の国市三福 913-7

1. 活動の概要

林業を盛んにして森林管理による保全につなげるため、地産材を使って伊豆地域で活動する木工作家を中心に公募型の作品展を開催する。

特に伊豆賀茂地域は、過疎化が進行し、観光産業を生業としていたが、成り立たなくなりつつあり、豊富な森林資源を活かした職人産業を育成することにより、森林保全につながる新たな産業の創出を目指す。

2. 活動の成果

木工職人が淘汰されつつあり、現在生業として自立できている職人が減少している。そのような状況の中、地元伊豆新聞と共同企画で「一引き継ぐ一伊豆の職人」を連載し、昨年は松崎町内に職人養成の工房を開設した。今年度も伊豆新聞のご理解をいただき、公告、告知、副賞のお手伝いをいただいた。

伊豆賀茂地区は主力であった観光産業が縮小し、高齢化と過疎化が進行、若い移住者を取り込むことで新たな文化と産業の創出が必要である。木工房には、賀茂地区ばかりではなく、伊豆全域から受講生が来るようになり、南伊豆町が募集した地域起こし協力隊の雇用期間終了者が新たに木工職人として自立目指す等、一定の成果を得た。また、工房へ地元産の木材を持ち込む、あるいは相談を受けるようになり、公募展からの広まりを作ることができた。

30年度の公募展については、法人ホームページ「伊豆を知的に楽しむサイト」にもアップし、当初予定した印刷数を減らし、広報に務めた。来年度以降は、自力開催の目途がついた。

3. 参加者の声

今回は「載せるカタチ展」ということで、様々な提案があった。公募展ということで、副賞を用意し、参加者による投票を行った。今年はテーブル、イス、挽物の展示があり、テーブルに高い点が入った。

実績報告とりまとめ表

実施時期		計	備考
事業量 又は 事業内容	11月2日 ～ 11月11日	10日	
参加者数	県内	222人	松崎町内180人
	県外	58人	
	計	280人	
実施場所			

梨の木の森を楽しみ学ぶ森林環境教育

梨の木里山づくりの会

〒470-0113 愛知県日進市栄四丁目1702 メイツ日進 605

1. 活動の概要

梨の木小学校の学習林において、森の役割や生き物の営み、里山文化を通して見えてくる森と人との関わりを学び、体験することにより、森林や環境に対する認識を深める。

2. 活動の成果

総合学習では、普段は“木が多い場所”くらいの認識しかない森が、実は階層構造になっていて様々な種類の木が棲み分けて生活していることに気が付き、葉っぱの観察を通じて生き物の多様性を実感することができた。親山里山教室では、森の中に入って小さな生き物を観察したり、竹を切って竹ポックリを作って遊んだり、タケノコ掘りを親子で楽しむなど、体験を通して自然への理解が深まった。また定例活動では、枯死枝撤去や階段補修等により、学習林の安全性が高まった。

3. 参加者の声

「葉っぱのビンゴ、全部の葉っぱを見つけたよ!」、「この虫なんている名前?」、「クワガタつかまえた!」など、自然の中での体験を通して森への関心が高まり、森の素晴らしさへの理解が深まった。わが子に自然体験をさせることができ良かったとの保護者の声も多かった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7/4	7/22	12/2	4/14	5/19	定例会 月1回	計	
事業量	梨の木小学校学習林 約1ha (森林整備、体験会等) 総合学習 3.5hr × 2回 = 7.0hr 体験会 4回 × 2.5hr = 10.0hr					2hr × 12回 = 24hr	41.0hr	
参加者数	県内	90人	42人	39人	47人	75人	約7 × 12回 = 84名 県外0名	377人
	県外	0人	0人	0人	0人	0人		0人
	計	90人	42人	39人	47人	75人		377人
実施場所	日進市立梨の木小学校 (愛知県日進市折戸町梨子ノ木 28-31)							

小学校授業での森林体験学習

特定非営利活動法人 水とみどりを愛する会
〒461-8680 愛知県名古屋市東区東新町1番地

1. 活動の概要

次世代層に対する効果的な環境教育支援として、学校授業での森林体験学習を実施し、自然と人と暮らしとの関わりへの理解を深めてもらうことで、持続可能な社会の実現に寄与する。

2. 活動の成果

次世代を担う子どもたちに、森を楽しみ、森を守り、森をつくる大切さを伝えることができた。今後も森林保全を中心としたボランティア団体として活動していく。

3. 参加者の声

山の役割について知ることができた。森の楽しみの他、間伐など山や森を守っていく必要性を教えてもらった。地域の山や森を大切に守っていききたい。

実績報告とりまとめ表

実施時期	9月1日	9月7日	10月4日	10月11日	計	備考
事業量	事前研修	山岡小	大井小	神坂小		
参加者数	県内	一人	35人	59人	15人	岐阜県を「県内」とし、参加小学生の数を記載。
	県外	0人	0人	0人	0人	
	計	一人	35人	59人	15人	
実施場所	岐阜県 中津川市 「根の上高原」					

「はじめての山仕事ガイド」制作・啓発事業

一般社団法人 おいでん・さんそん
〒444-2424 愛知県豊田市足助町宮ノ後 26-2

1. 活動の概要

森林に関わることで豊かな暮らしを見出そうとする人のための入門書「はじめての山仕事ガイドブック」～森のめぐみを受けながら、地域の森をよみがえらせよう～を制作し、5月15日に出版した。

ガイドブックを通じて森づくりの担い手を増やすことで、健全な森づくりを推進し、山村地域の持続化を図る目的。また、同月28日には出版を記念した講演会を開催した。哲学者・内山節氏を講師にお招きし、「森林と社会と暮らし」～森とともに暮らす豊かさを未来へ～と題し、ご講演いただいた。

2. 活動の成果

森林が市域の7割を占める豊田市において、森林組合に限らない多彩な山仕事について紹介するガイドブックを出版することができた。

出版後2ヵ月足らずで700冊ほど頒布でき、地域の山主・林業関係者のみならず、都市部市民や山村地域へのUIターン者、近隣の森林行政などからも大きな反響をいただいている。

講演会では、内山氏より、多様な人々とともに森を再創造することの重要性について語られ、多くの共感を呼んだ。経済的価値、公益的価値以外に森林がもつ価値「暮らしの価値」について、着実に理解と関心が高まっている。これからは、都市山村住民が一体となった森づくりのモデルを構築し、全国に発信していきたい。

3. 参加者の声

ガイドブックの取材協力者で、講演会にも出席いただいた森林ボランティアの恵比根美明氏（とよたあす森・副代表）より、「内山先生より、森と人との関わりについて一即一切の言及がありました。現代の森との関わり方について深い再考を促されたと感じています。私もさらに森との関わり方について考察、実践を加え、少しでも変化・成長していきたいと思います」と、熱心な感想をいただいた。

実績報告とりまとめ表

実施時期		1月21日	5月28日	計	備考
事業量 又は 事業内容		森づくり本音の 座談会	「はじめての山仕事 ガイドブック」出 版記念講演会		
参加者数	県内	13人	160人	173人	
	県外	0人	20人	20人	
	計	13人	180人	193人	
実施場所		愛知県豊田市足助町地内			

もりであ～そぼ！

一般社団法人 森の風

〒510-1251 三重県三重郡菰野町千草 2577

1. 活動の概要

◎月2回 10:00～13:30 までの間に森の風しぜん学校及び森の風ようちえんが保全し、拠点としている森で季節を感じながら親子であそぶ。乳幼児の健康成長のために有効であるとされている自然の中であそびの場を普段自然に触れることの少ない保護者と乳幼児に提供する。保育者、先輩保護者を配置し、親も子も安心して時間を過ごす。また活動を通して、里山を含めた森林環境の大切さを感じてもらう。

2. 活動の成果

若い子育て中の保護者が幼い子どもたちと共に森の中で、心も体も開放されて過ごすことで心地良さを感じ、リフレッシュする時間になったのではないかと思う。生き物との出会いや草木を使ったあそびを通して親子がふれあい、仲間の輪が広がる場となった。手入れされた森に親しみ、あそぶことで自然環境への理解を深めるきっかけとなったことを期待したい。今後、フィールドとなるしぜん学校の環境保全に力を入れたい。また、地域の方を活動に招いて、自然と暮らす恵み、感謝、知恵、責任を共に考えられる場としたい。

3. 参加者の声

- ・森の中にはたくさんの生き物がいて、わが子とじっくり向き合いながら探検したり、あそぶことができて良かったです。
- ・家とは違う子どもの顔が見られて嬉しかったです。
- ・母と子だけでは、森であそぶのはハードルが高いので、ふらりと遊びに行けるこの会は、とてもありがたいです。

実績報告とりまとめ表

実施時期		月日	月日	計	備考
事業量 又は 事業内容	「もりであ～そぼ！」 ・子育て支援	5/22～	2/26	16日間	
参加者数	県内	人	人	160人	
	県外	人	人	0人	
	計	人	人	160人	
実施場所		三重県 菰野町			

ユネスコエコパークの森 林道ウォーキング

一般社団法人 三重県森林協会

〒514-0003 三重県津市桜橋1丁目104番地

1. 活動の概要

県民の方々に森林の持つ癒し効果等を体感していただき、森林に対する理解を深めていただくために、「ユネスコエコパークの森林道ウォーク&植樹活動」を開催し、一般公募した27名の県民の方々に参加していただきました。

植樹活動では、インストラクターの指導のもと、地域性苗木であるヤマザクラの植栽を行いました。続いて、インストラクターの案内で約10kmの林道を歩くウォーキングを行いました。インストラクターのほか県や町の職員にも同行していただき、都度、森林や自然の話、公共事業の話などをしていただきました。

2. 活動の成果

山岳救助隊長を務め、大台町の山を知り尽くしているインストラクターの話に、参加者は興味深く熱心に聞いていただき、質問なども沢山飛び交う中で、森林に対する理解をかなり深めていただいたと実感できました。また、植樹活動は初めてという方も多く、植え方や植生についての理解をいただいたと思います。

大きな手応えを感じておりますので、来年度も引き続き森林の中を歩くウォーキングを開催したいと考えています。

3. 参加者の声

イベント終了後のアンケートでは参加者全員から「良かった」との回答があり、「新しい発見があった」「自然の楽しさを感じた」「植樹した木を何年後かに見に来ようと思います」といった声をいただき、特に「インストラクターの説明がよかった」との感想を多くいただきました。

実績報告とりまとめ表

実施時期		12月8日	計	備考
事業量又は 事業内容		も町全域がユネスコエコパークに認定された大台町内での植樹活動及び林道ウォーキング		
参加者数	県内	27人	27人	
	県外	0人	0人	
	計	27人	27人	
実施場所		三重県多気郡大台町菌地内		

地域産木材利用促進普及啓発事業

特定非営利活動法人 京都森林・木材塾

〒 618-0091 京都府乙訓郡大山崎町円明寺葛原 6-25

1. 活動の概要

地域産木材利用が「人や環境にやさしく温かみがある」ことを実感してもらうため、現地見学会・講演会を開催。環境フェスティバルでは“木”の感触や香りを感じてもらった。

2. 活動の成果

(1) 「京都府庁屋上緑化」と「国の名勝・無鄰菴」現地見学会実施

日本最古の府庁旧本館（旧知事室・正庁）を見学後、屋上緑化や太陽光発電など府の先進的な取り組みを見学。「無鄰菴」は東山を背景に“三段の滝”と数寄屋建築が調和した山縣有朋の別邸で、改めて京都の木造建築・造園技術の高さを実感した。

(2) 京都環境フェスティバル 2018 に出展

京都議定書発祥の地・京都の重大イベントのひとつであり、毎年出展している。展示した能面、オルゴールを見学してもらうとともに、スギ・ヒノキの特性や府森林環境税などについてアンケートを実施。地域産木材利用の必要性を実感してもらった。

(3) 「京都の森を守り育てる」講演会開催 <演題：府森林環境税、森林バイオマス>

「府森林環境税」活用事業の内容とその効果について、府林務課長から森林整備から木材利用まで様々の事業について説明。「森林バイオマス利用の現状と課題」では、京大名誉教授から放置森林と自然災害、森林バイオマスの課題等説明。非常に勉強になった。

3. 参加者の声

「京都府庁屋上緑化」「無鄰菴」の現地見学会や「京都の森を守り育てる」講演会は、行政機関や報道機関、府民・京都市民にとって最も関心のある内容であり、参加者からは「非常に有意義」との感想があった。また、環境フェスティバルでは、スギ・ヒノキの特性や森林環境税についてのアンケートを実施。地域産木材利用の必要性を実感してもらった。

実績報告とりまとめ表

事業内容	実施日	実施場所	参加者等	摘要
京都府庁屋上緑化、無鄰菴見学	11月15日	京都市上京区・左京区	27名<マイクロバス使用>	取材：日刊木材新聞、東洋木材新聞
京都環境フェスティバル出展	12月8日 9日	京都府総合見本市会館	来場者 30,000人	地域産木材利用の必要性を実感してもらった
京都の森を守り育てる講演会	1月25日	京都木材会館（京都市中京区）	32名	取材：京都新聞、日刊木材新聞、林経新聞、東洋木材新聞

未利用バイオマス資源化と整備促進

藪の傍

〒562-0044 大阪府箕面市半町2-19-36

1. 活動の概要

【目的】

竹は有益な資源にもかかわらず、暮らしの変化に伴い需要が激減し、放置竹林化が顕著である。視点を変えた取り組みの紹介で、間伐竹の未来に目を向け、出口づくり＝需要の掘り起こしを行うことで放置竹林の整備を促進し、商品化により持続可能な活動として波及して行くことを目的とする。

【内容】

- (1) 竹の高度利用や竹工学を学び、スピーカの音響板・靴底・自動車の内装材・ボート・舗装材料・ナノセルロースとして身近で使われていることを知る契機となった。
- (2) 放置竹林の竹を間伐することで整備が進展し放置竹林との差が一目瞭然であった。繊維を取り出し、竹糸を紡ぎ、紡績し竹布を製造する工程が確立し商品化も出来ていた。その間の間伐竹から竹繊維を取り出し解繊する段階を見学した。
- (3) 炭化炉での竹炭づくりの見学を間伐竹の並べ端材で層をつくり点火する全行程を見学した。建築材料・飼料・肥料のみならず、竹の炭化熱や竹炭によるバイオマス発電の仕組みのレクチャーと環境への負荷の極めて少ない未利用バイオマスの必要性を知る貴重な機会を得た。
- (4) 建築資材として優れた特性を持つ竹を使い会場設営で公開竹茶室の制作を行い視覚化でアピールできた。京竹工芸の竹茶道具を使いお点前をし癒しの空間を楽しみ参加者に好評を博した。
- (5) タケノコ以外の食分野での活用やレシピの開発を行い、需要の拡大を図ることで放置竹林整備を促進する。暮らしに竹を取り入れ竹の葉パウダー・竹粉パウダー使用のシフォンケーキ・大福・発酵タケノコ・乾燥タケノコなど開発と試作に取り組む。

2. 活動の成果

- (1) 竹の高度利用の研究が実用化され身近なところで使われていることが講演を介して周知できた。
竹の社会的問題（放置竹林など）を専門家に活用法などをアドバイスしている「プラットホーム」社団法人京都竹カフェの活動や支援を紹介できた。
- (2) 中国の慈竹（ジチク）でしか、竹繊維や竹布の生産が出来なかったが、日本の竹から初めて竹繊維を取り出し、竹布を開発した合同会社竹繊維研究所を紹介で、間伐竹利用の新たな出口づくりの紹介ができた。
- (3) 間伐竹 25t から 5t の竹炭が生産出来、炭化熱や竹炭を利用して発電や温室の暖房も出来るという画期的な活用法を知る契機となった。
- (4) 昔は、土壁の芯に竹小舞が使われていた。土壁の減少に伴い、竹の建築材としての需要が減少した、竹小舞の新たな利用として、公開竹茶室を現場制作し空間設営にも有益であることを実証できた。
- (5) 竹の食物繊維や乳酸菌は広く知られているが、食用として手軽に使用できる微粒子化が急務であった。竹の葉微粒子パウダー化を委託し、緑のタケノコ餡や、緑の大福、緑の蒸し饅頭などを試作し商品化の目途がついた。

3. 参加者の声

- ・竹にいろいろな使い道があることが改めて分かった。
- ・良い製品を生かし、より流通させていく方法を見つけることの必要を感じた。

- ・目から鱗の未利バイオマスの用途を知り間伐竹の活用に光りが見えた。
- ・間伐竹の新たな利用で放置竹林の間伐整備が促進するのではないか。
- ・竹や間伐竹にこんなに多彩な利用方法があることを初めて知った。
- ・シンポジウムに参加して、実践団体や活動団体の皆さんと交流が持てて良かった。

実績報告とりまとめ表

実施時期		月 日	月 日	計	備 考
事業量 又は 事業内容	Part I - I (一社) 京都竹カフェ講 演会	10月28日		1	講師：藤井 透代表
	Part I -2 竹繊維研究所見学会	10月28日		1	講師：佐川永徳 理事
	Part II 高槻バイオマス粉炭研究 所見学会	11月18日	11月19日	2	講師：島田勇己 講師
	Part III シンポジウム開催	3月16日		1	講師：藤井 透 代表 佐川永徳 理事 島田勇己 所長 佐野春仁 校長 吉田公宏 学生 司会：大塚正洋
参加者数	県 内 県 外 計	県外	県内	合計	事業名
		3人	15人	18人	Part I -1
		2人	14人	16人	Part I -2
		5人	3人	8人	Part II /18
		4人	2人	6人	Part II /19
		11人	49人	50人	Part III
実施場所		Part I 京都府南丹市八木町 吉富ノ庄 南丹市吉富地域活性化センター Part II 大阪府高槻市大字田能 高槻バイオマス粉炭研究所 Part III 京都府向日市寺戸町 向日市商工観光センター			

地域の森と地域産木材の魅力を伝える「木材コーディネーター」養成事業

NPO 法人 サウンドウッズ

〒669-3631 兵庫県丹波市氷上町賀茂 72-1

1. 活動の概要

地域の森と木材に関する知識・技術をもつ人材「木材コーディネーター」を養成している。

基礎講座では、森づくりと地域産木材に関する知識・技術を習得し、森林資源の有効活用により森と消費者を直接つなぐための知見を得る機会を提供している。

また養成講座についての質問を多く寄せられるようになったため、木材コーディネーター基礎講座の説明会を開催し、講座の内容や構成を伝えることで基礎的な知識の習得が可能なことや、木材コーディネーターの役割や必要性を参加者に周知している。

これらを通じて、身近な森林や木材に対する理解について考える仕掛けを創出することで、消費者に対する「木づかい」の機会を創出する。

2. 活動の成果

木材コーディネーターが民間資格である以上、受講するとどのような効果があるのかイメージが伴わず、半年にわたる連続講座というハードルを躊躇される方にとって、今回の説明会は参加者のイメージが新たになったと考える。

説明会を開催することで、森林資源を有効活用する取り組みをどのような立ち位置で推進しているのか、またどのようなことを問題に感じていて、どのように挑んでいるのか、受講することで得られるものと、その先に見える世界が変わることについて、パネラーである修了生が語ることで、この講座の位置づけが正確に参加者に伝わったと考える。受講で得られるものを糧に切磋琢磨・創意工夫で活動されている方を世間に紹介できたことも、そのような形の支援をサウンドウッズがこれからも行っていくことについて姿勢を示すことができたのでは、と考えている。

基礎講座受講者には、森から消費者までにかかわりを持つ木材流通の全般的な基礎知識を身に付ける機会を提供した。今後は木材コーディネーターがより専門性の高い知識を習得し、地域でますます活躍していくための機会を提供することにより、受講者がそれぞれの立場で実施する木づかいと地域の持続的な森づくりの関係を意識する事業展開によって、地域の森づくりと木材利用に関わる社会的波及効果が期待できると考えている。

3. 参加者の声

- ・色々なたくさんの分野の講師の方のお話や、専門分野の取り組み方を受講できて、とても感謝しております。最終講座までボリュームたっぷりです。学ばせていただきました。
- ・座学では、木材流通全体の知識について幅広く学ぶことができました。また、業界間に存在する問題点についても把握することが出来ました。すぐに実践できるか自信はありませんが、コミュニケーションで実践を努めたいと思います。
- ・森林調査や製材、木拾いや木取りなど普段の業務では習得が難しい専門分野以外の技術についても、演習を通じて奥深さを実感しました。特に製材の実習は興味深く、もう一度受講したいです。
- ・メディア活用講座では、人に伝えることの難しさ・奥深さを痛感しました。デザインのことも文章のことも両方とも話をしてくださったのでわかりやすかったです。受け手の立場に立つ、ターゲットを明確にするということを使う言葉を選びやすくなったり、内容を決めやすくなることに気づいて、非常に納得しました。ここで得たコピーライティングスキルを活かし、木材の魅力や利用推進のための情報発信を行っていきたいです。
- ・マーケティング講座やイベント企画ワークショップ、プレゼンテーション技術習得講座を通して、自分の考えを披理してまとめる時間が多くとれ、意見を取り込める環境が良かったと考えています。今後の企画立案やプレゼンテーションに役立てたいと思います。

実績報告とりまとめ表

■「木材コーディネート基礎講座 2018 説明会」の開催

実施時期	7月21日	備考
事業	「木材コーディネート基礎講座 2018 説明会」の開催	
参加者数 (人)	兵庫県内	2人
	兵庫県外	16人
	計	18人
実施場所	大阪市	

■木材コーディネート基礎講座

		9月 22日	9月 23日	10月 13日	10月 14日	11月 3日	12月 1日	12月 15日	12月 16日	1月 12日	2月 9日	2月 10日	合計
事業		木材コーディネート基礎講座											
参加者数 (人)	兵庫県内	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	11
	兵庫県外	10	11	8	8	11	10	7	7	7	8	7	94
合計(人)		11	12	9	9	12	11	8	8	8	9	8	105
過年度受講者(人)		0	0	1	1	3	2	1	1	1	1	1	12
実施場所		大阪市、兵庫県丹波地域(丹波市・多可町)											

とみきたひつじクラブ

登美ヶ丘北中学校区地域教育協議会
〒631-0001 奈良市北登美ヶ丘 1-1-1

1. 活動の概要

中学校の敷地にひつじを放牧し、ひつじが雑草を食べる事により環境の保全が行われ、子どもの緑への関心が高まり、地域の大人の人たちの参加により、自然的に地域コミュニティが構築されつつあります。ひつじ放牧エリア隣接に「ひつじの森」を作り、子どもが森緑一杯の自然環境に興味を持ち学習できる持続可能な取組として考えています。

2. 活動の成果

ひつじを介して、自然に対する子どもの考えが経験として定着しつつあります。

「ひつじの丘」を新設し、整地から土づくり、を通じて緑の環境を考えるいい機会になりました。

この活動は地域の人たちがボランティアで応援してくれ、学校と地域の関係に良い影響を及ぼしました。

3. 参加者の声

- ・街の中心で、ヒツジの世話をしながら自然を学べるのは素晴らしい経験。小3 保護者
- ・木を植えるのに、整地から土お越しの作業が大変でしたが、木が大きくなって収穫できるのが楽しみです。中1 男子生徒
- ・雑草引きが大変でしたが、きれいになってみんなと楽しい時間を過ごせた。小6 生徒。
- ・普段入りにくい、中学校に行けていい経験になりました。小6 生徒。

実績報告とりまとめ表

実施時期		月日	月日	計	備考
事業量 又は 事業内容	「ひつじ歓迎会」	4月22日			
	「植物観察勉強会」2回開催		8月25日 10月28日		
参加者数	県内	260人	90人	350人	
	県外	40人	0人	40人	
	計	300人	90人	390人	
実施場所		奈良県 奈良市			

第14回森のようちえん全国交流フォーラム in とっとり

森のようちえん全国交流フォーラム in とっとり実行委員会
〒689-1442 鳥取県八頭郡智頭町大屋 407

1. 活動の概要

未就学児の自然体験活動として注目されている「森のようちえん」（※一年を通し日常的に自然環境の中で体験活動を行い、自主的・主体的な学びを促す活動）を全国に普及するために、関係者や関心のある方を集め、活動への理解と交流を深めると共に、中四国初の開催となる鳥取でフォーラムを開催した。また、会場となる大山周辺の自然を活かし、子連れの参加者には「森のようちえん体験会」等のプログラムを用意し、豊かな体験が行えるようにした。

2. 活動の成果

3日間で宿泊参加者含め延べ808名のご参加を頂けた。メインの2日目の分科会（30講座以上）も大変好評で、森のようちえんを中心とした「人の育ち」について学びを深めてもらえた。今までの森のようちえん全国交流フォーラムとは少し異なる視点から切り込んだ講座は、しかし、子どもの存在自体を肯定し、存在を認め合う様々な居場所について学びを深めることができた。未就学児向けの「森のようちえん体験会」や「プレーパーク」「ポニーキャンプ」など幼児・学童向け自然体験活動も行うことができ参加者の満足度は高かった。

3. 参加者の声

【11月2日について】

- ・大友さんのマジックショー、絵本、ギターやピアノを使った演奏など面白かったです。
- ・初めて最初から参加できた。失礼ながらあまり期待していなかったオープニングのパフォーマンスとナイトセッションが素晴らしくて来た甲斐があった。
- ・オープニングアクトも子どもと一緒に楽しめて、他パネルディスカッションもよかった。
- ・マジックショーも楽しいし、パネルディスカッションもまだまだ聞いてみたいなあと時間が短く感じた。
- ・オープニング、トークショー、夜の交流タイム全て貴重な経験となりました！
- ・都合により、オープニングからパネルディスカッションまでの参加でしたが、大友さんのマジックや絵本等、親子でとても楽しく観させて頂きました。5才の息子の託児があるのもありがたかったですし、親は現代の子どもを取り巻く問題や取り組みについて勉強でき、とても有意義な時間となりました。
- ・大友さんのパフォーマンス、親子で楽しめました。鳥取のように滋賀でももっと自治体と連携できたらと思いました。
- ・今回聞きたい内容の一つがオープニングのパネルディスカッションで聞いて良かった。寒かった。
- ・パネルディスカッションは、森のようちえん関係でなくても、何かを行っていかうと思った時にすごく参考になりました。デザインの統一感、デザインと便利さのあるバッグ等お見事でした。
- ・行政、民間、主催の方のトークが聞いてよかった。
- ・対談の中で行政のトップや担当の話をリアルに聞いて参考になりました！
- ・運営や無償化の話は難しかった。
- ・森のようちえん全国ネットワークの活動についての報告があって良かったです。こどもも一緒に参加できる大友さんのプログラムも、森のようちえんらしくて、よかったと思います。
- ・ナイトセッションがめちゃくちゃよかった。
- ・西野氏の講演が大変勉強になりました。
- ・体育館が寒かった。西野さんのお話とても良かったです。もっといろいろな人に聞いて欲しい。
- ・途中参加だったのですが、西野さんのお話で初日が始まって、熱い思いに自分を振り返ったり子

ども達と一緒にいることへの思いを改めて感じられました。

【11月3日について】

- どれも魅力的な講座でとても良かったです。全部聞きたかった。同じ人が何度も質問してしまい、入り込むスキがなかったのが残念でした。
- 盛りだくさんで大満足です。
- 講師の先生方が本当にすごい方ばかりでとても学びが深まりました！
- どの分科会も聞いてみたいものが多くて、でも一つしか選べないからとても歯がゆかったです。もっと半分の量から選べて、倍の時間分科会が欲しかったです。
- それぞれの分科会、すごく面白かったし吸収出来ることばかりだった。
- 新しい学びの場になって充実
- 初参加で他のセミナーも聴きたかった
- 分科会や夜の交流会で自分の悩みを相談。根拠のある理論的なアドバイスをたくさん頂き悩み⇒次に向かえそうです！！星空観察会参加できず残念！また見に来ます！
- スケジュールをタイトにしてしまったが、学びや対話がしっかりできて充実した1日だった。昼食を買いそびれたのが悲しかった。交流会がとつてもとつても楽しく、先輩方と話せて良かった。
- 著名な講師が多かったが、聞きたいと思うものが少なかった。
- 出た分科会全て Very Good です。
- 自発的な自然体験の重要性が認識できた。
- 分科会を2日と3日に分けて開催して欲しかった。もっと話をたくさん聴きたかった！3コマ以上受けたかったー！
- 分科会は毎年思うのですが、参加したいものが多くて3つに絞るのが大変です。でも大満足です。
- 分科会、どれも楽しく参加させていただきました。みんなで意見を出し、質問をし、アドバイスも頂け、これから頑張れそうです。星空観察会も良い時間でした！
- 充実していました。
- どれも聞きたい内容だった！！質問や意見交換もみんな素晴らしく積極的だった。
- 来年から現場で働く前に、どうこどもの育ちを見るか、どう関わっていくかについて、色々な話を伺い、参考になるところがたくさんあったり、新しい考えが出ることができました。
- 多彩なゲストで様々な学びを得ることができました。行けなかった分科会も魅力いっぱいでした！
- 盛りだくさん、選びきれないほど充実の分科会だった。講師選考から大変だったと思います。ありがとうございます。
- A,B,Cの分科会に参加してみて、今までとは違う、新しい考えを持つきっかけとなり、とても興味深いと感じました。
- 色々な講座が設定してあって、工夫されていると感じました。参加された方の満足度も高いのでは、と思います。
- どの分科会も講師の先生方が楽しんでされていて、私たちも楽しく参加できました。
- たくさんの方が参加してすごくいい学びになり感動しました。
- とても勉強になりました！
- どの分科会もとてもためになるものだった。
- 各森のようちえんの様子や活動が知れて良かった。
- 早朝から夜中までみっちり充実した1日でした！
- どの分科会も興味深く、また先生、参加者みんながパワフルで、森のようちえんをもっとより良いものにしていきたいという想いが感じられた。大交流会の踊りの傘がとてもかわいいなと思いました。
- 皆さん、熱心な活動をされていて、とても勉強になった。外のお祭りも、色々な食べ物があり、良かったです。ただ、もう少し飲食スペースがきちんと確保していると、より良いなと思いました。講師の方々のお話から元気をもらいました。
- 分科会もお祭りひろばも盛りだくさんで楽しめました。時間がギリギリだったので、ワークショップなどももっと参加したかったー！

- ・時間割、ちょうど良かったです。お祭りも Good！外に出られたことが良かったです。
- ・お祭りひろばも美味しくとても良かった。

【11月4日について】

- ・朝の分科会、楽しかったです。歌って、セッションして、元気になりました！ふりかえり良かったです！
- ・朝の分科会で、海外の保育（森のようちえん）について知れ、今以上に海外の保育について知っていきたくと強く思いました。
- ・盛りだくさんで大満足です。
- ・最後まで素晴らしい一日となりました♡
- ・あつという間の最終日。ちょっとさびしー！
- ・一緒に食や寝泊まりを重ね、コミュニケーションがたくさんとれてよかったです。大宴会で語りつくし、大自然でリフレッシュし、朝から学び。幸せでした。
- ・あべ弘士さんの読み聞かせ良かった。
- ・あべさんの絵本が心地よく、昨日の学びの頭が柔らかくなった気がした。
- ・あらしの夜にのこを少し聴きたかった。
- ・あべさんの講演楽しかったですが、お話をもっときけるとよりよかったなと思いました。
- ・（あべさんは）ユーモアのある方で、ワクワクしてお話を聞くことができました。
- ・あべ弘士さんのお話は、実体験もあり絵本も三冊とも各々の思いがありとても楽しかったし、感動しました。
- ・絵本作家さんに初めて出会いました。その本の読み方、思いが伝わってきて新鮮でした！
- ・あべ弘士さんの講演がおもしろかった☆
- ・あべ弘士さんの講演会、短かったですー！ふりかえりの時間、よかったです。
- ・あべ弘士さんの絵本の話がとても興味深く、楽しく聞きました。最後のふりかえりも皆さんの思いを言い合えてよかったです。
- ・ふりかえりとっても良かったです。連盟も福島を応援しようという動きをしてくれていると知り大変心強かったです。帰ったら早速関係者に連絡取ります！！
- ・ふりかえりの時間が短かったかな！しゃべる＋書くだとどちらも中途半端な感じに。ダンボール円卓は素晴らしいアイデアですね。
- ・ふりかえりの形式が忙しく大変だったが、色々な思いが伝わってきて良かった。
- ・最後のグループワークで色々な人と会話ができて良かった。
- ・初めてのえんたくんが良かったと思った。

実績報告とりまとめ表

実施時期		11月2日	11月3日	11月4日	計	備考
事業量 又は 事業内容		オープニングパフォーマンス、キッズプログラム、開会式、パネルディスカッション、森のようちえん全国ネットワーク連盟からの報告、西野博之スペシャルトーク	分科会（32講座）、星空観察会（希望者のみ	フリー分科会（9講座）、基調講演（あべ弘士、ふりかえり、閉会式		
参加者数	県内	11人	46人	13人	70人	
	県外	225人	310人	203人	738人	
	計	236人	356人	216人	808人	
実施場所		鳥取県西伯郡大山町				

とっとりからグリーンウェイブの風を！ in 倉吉

「とっとりからグリーンウェイブの風を！ in 倉吉」実行委員会
〒 682-0021 鳥取県倉吉市上井 333-33 讃郷愛林協会

1. 活動の概要

目的 里山の保全ため木を適切に使う事、地元の木材を使う現実的な方策について市民レベルで啓発活動を行う。併せて子供たちに樹木にふれあい親しみを持たせる機会を作る事。

内容 ①「おじいさんの植えた木で家を建てよう」「木育の推進のために」二つのテーマでシンポジウムを行いました。

②富良野自然塾による環境問題の学習を行いました。座学「緑の教室」と野外での「47億年・地球の道」を行った。野外授業は雨天のため小学校体育館を利用した。

③アニメ映画「木を植えた男」(ジヤン・ジウ原作、フレデリック・バック監督)を上映して植樹活動への啓もう活動をしました。④主催7団体と関連団体の活動展示と、各出展を行い私達の活動について広報に努めました。

2. 活動の成果

主催7団体の協同での事業は初めてでしたが、7団体が協力して取り組んだ事で一体感が出来た事について異口同音に良かったとの評価でした。今後について共通の課題については、又取り組んでいこうとの雰囲気も醸成できました。シンポジウムのテーマについては、木育について特に首長さんにも、ご理解得て、協力をいただける状況です。「おじいさんの植えた木で家を建てよう」についてはさらに一般への理解を広げて行くために、絵本作りの話があり現在企画を進めているところです。

3. 参加者の声

シンポジウム(観客)で分かりやすく、私達の出来る事、出来ないが知っておくべきことを含めてよく理解できた。やはり自分自身で実践してこられた事は心に残る。

主催者(映画上映)大変面白く有意義な催しになった。

ボランティア学生 イベントのボランティアは初めてだったが、楽しく又参加したい。

実績報告とりまとめ表

実施時期		3月9日	3月10日	計	備考
事業量又は 事業内容		アニメ映画上映シン ポジウム展示出展	富良野自然塾ビジッ トプログラム展示出 展		
参加者数	県内	760人	190人	950人	県外は想定
	県外	40人	10人	50人	
	計	800人	200人	1,000人	
実施場所		鳥取県倉吉市鳥取未来中心			

里山保全の普及啓発事業

NPO 法人 ^{しとり} 倭文の郷

〒709-4623 岡山県津山市桑下29-1

1. 活動の概要

津山市とその周辺地域からは、ブランド「美作ヒノキ」が産出される。また、隣接真庭市では、日本を代表するCLT企業が躍動している。しかしながら、里山では住民の高齢化、木材価格の低迷から生産意欲が失われ、荒廃が進行し、その維持管理が困難となってきている。平成30年度の津山市の統計資料によれば、木材生産等の林業活動は大幅に減少している。数年後には新たな森林税が創設され、上流・下流の住民の相互交流の必要性が益々高まってきていることから、里山の有する恩恵を情報発信するとともに、里山文化の継承や地域の活性化に資することを目的として取り組んだ。

2. 活動の成果

当ファンドの支援を受けて5回目の取り組みとなった当年度は、森林が有する機能についての啓発を中心として実施した。計10回のイベントを開催して、県内都市部から94名が参加した。小学生を対象にした昆虫探検では樹林に棲むカブトムシ、クワガタ等の昆虫に直接触れることができ、教室内の授業に加えて野外での森林教育の場を提供した。秋、冬、春、夏の野鳥観察会では渡・漂・留鳥について45種の生息を確認、生物多様性の保全観点からも継続したデータの収集ができた。特に、今回は絶滅危惧種のブッポウソウが飛来し、架設した巣箱で営巣し、繁殖したことが特筆される。森林教室等では、紅葉・新緑季の樹木観察、原木シイタケ植菌等の作業体験を通じて、森林・林業に理解を示した。5月には、令和と改元され新時代を迎えたことに伴い、上皇上皇后並びに天皇皇后陛下の国土保全活動に対する敬意と感謝を表するため、津山市所有森林に記念林を設定した。気候変動等に起因し県内では山地災害や水害により多くの犠牲者がでた。国土保全の重要性と共に、森林の大切さの啓発活動を継承して行きたい。高齢化・過疎化が進行する里山地域の活性化を促進することが継続した課題である。

3. 参加者の声

保護者・子供からクワガタやカブトムシは、量販店で買い求めることが多く、身近な場所で生息しておいることを知った。貴重な体験となった。菌床シイタケが一般化している時代ですが、原木植菌で育つシイタケの味覚・栄養はかけがえのないものである。秋に生える椎茸が楽しみ。大人と子供達は社会環境の複雑化が加速する中で、森林の多面的な機能が潤いと安らぎを提供した。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7/28 9/29	11/3、 1/19、 3/10、 6/8	3/17	4/8	2/24、	5/12	
事業内容	昆虫探検、 秋に鳴く虫 鑑賞会	野鳥観察会	森林教室	植樹と森林 散策	原木キノコ の植菌体験	御即位記念 林植樹・森林 散策	
参加者数	県内 県外	10人・9人	6人・9人・ 8人・6人	8人	9人	21人	8人
	計	19人	29人	8人	9人	21人	8人
実施場所	岡山県津山市倭文地区						

おかやま木育活動（木工・自然クラフト体験・森林環境学習）

おかやま木育クラブ

〒719-1136 岡山県総社市駅前 1-9-10-14

1. 活動の概要

木材やドングリなど山の恵みを使って行う木育活動を通じて、森林・林業の現状や森林保全、木材利用等について、広く一般の理解や関心を高めることを目的とする。

事業は、県内一円で親子などの一般を対象とした参加費無料の木育活動を行うとともに、幼稚園や子供会等の開催依頼を受けた木育出前教室を開催する。

2. 活動の成果

事業により岡山県下の11会場において、延べ1,558人が活動に参加した。

毎回、子供も保護者も一心不乱に木を触り、自然素材を使った体験に驚きや学びの感想が寄せられている。

特に幼稚園では、幼児教育としての木のふれあいや親子一緒に工夫しながら学ぶ活動が少なく、この活動が貴重な機会となっている。

3. 参加者の声

- ・ポンドで枝を立たせることができおもしろかった。（子ども）
- ・自分が作りたいものが作れて嬉しかった。（子ども）
- ・日頃の生活と木育教室とがつながっているのが嬉しかった。（保護者）
- ・園や保護者では目が向かない木々や葉など、たくさんの材料を準備していただき発想豊かな作品をつくることができ、ありがたかった。（教職員）
- ・スギとヒノキのクイズは実際に木に触れ、興味を持つことができていた。（教職員）

実績報告とりまとめ表

実施時期		月 日	月 日	計	備考
事業量 又は 事業内容	おかやま 木育活動			延べ11日 H30.7～R1.6	
参加者数	県内	人	人	人	
	県外	人	人	人	
	計	人	人	1,558人	
実施場所		岡山県 真庭市ほか10会場			

木育グランピング

木育普及委員会

〒729-6332 広島県三次市上志和地町 195-1

1. 活動の概要

【目的】毎年約3500名参加の森林公園の「森の市」に、グランピング空間を作ることで新たに都市部の参加者を呼び込み、森や木に触れる機会を創出すると共に新しい森林利用を啓発する。

【実施内容】

- ・グランピングテントを設営し、グランピング空間を作った。
会場の変更で、焚き火ができず、形だけとなってしまった。
- 入場無料で、木のスプーンづくりワークショップのみ材料代が必要で、参加者12名
- ・広島県産材の木のおもちゃをグランピングテントの中で体験してもらった。

事業予定であった、広島市森林公園（東区）が7/6の西日本豪雨災害より被災し、「森の市」の会場が広島市植物公園（佐伯区）に変更となった。そのため、森の市（広島市）自体の準備、告知がかなり遅れ、当委員会のチラシを作る時間がなくなってしまった。告知不足、会場変更により、毎年の開催時よりも来場者がかなり少なかった。

2. 活動の成果

今回は宣伝不足と会場の変更などがあったので、今まで参加したことのない人への訴求効果はうすかった。しかし、グランピングがあることで、滞在時間が長くなり、木のおもちゃや森づくり、森林利用について一般の参加者に知っていただく時間が取れた。ただ見て、こどもだけ参加させるのではなく、大人の木育にもつなげることが多少なりともできた。また、出展者（森林保全団体など）へ、イベントの魅せ方などを提案でき、それぞれの団体のPR活動の魅力度アップを考えるきっかけになった。

木育普及委員会は11月の第2回委員会より、オブザーバーとして広島県林業課、広島市農林整備課を迎え、広島県内の「木育」や森づくり、木に関わる活動を行っている団体の横の連携を進めていくために、関係団体が繋がるイベントや会議、シンポジウムなどを行っていく。また、中国地方など近隣県とも連携していくことを長期目標としている。

3. 参加者の声

参加者「グランピングがとても良かった」「ゆったりできていい。こういう空間があると森でも過ごしやすい」「子どもも楽しそうだけど、私もかなり楽しんでます」

参加他団体（10団体）のメンバーからも「とても雰囲気がよかった」「導入を検討したい」「展示以外のこともして欲しかった」との意見をもらった。

実績報告とりまとめ表

実施時期		11月4日	計	備考
事業量 又は 事業内容		木育グランピング 10時～15時 グランピング展示と木のおもちゃ 参加人数はスタンプラリー		
参加者数	県内	179人	人	
	県外	12人	人	
	計	191人	人	
実施場所		広島県広島市佐伯区倉重3丁目495 広島市植物公園		

少年少女里山マイスター養成講座

特定非営利活動法人 徳島県森の案内人ネットワーク
〒770-8055 徳島県徳島市山城町東浜傍示 6-226

1. 活動の概要

活動拠点の「山人の森」で、秘密基地作りや木登り、ロープ渡りやネイチャーゲームなど、森の中での遊びを通じて森林環境の大切さを知ってもらい、ノコギリやオノ、チェーンソーやドリルなどの道具を使った作業を行い、技術を伝承することで次代を担う感性豊かな青少年の育成を活動の目的とし、小学生を対象に計6回の講座を開催しました。6回の講座終了後、「少年少女里山マイスター修了証」を交付しました。

2. 活動の成果

「少年少女里山マイスター」は2009年から継続開催し、10年目となります。今回の講座の受講生27名を加えた修了者は10年間で288名となり、活動の大きな成果と考えます。更に、「講座に参加した子どもの成長を感じることができた」との保護者からの感想を頂いたことも成果と言えます。これからも「次代を担う青少年の育成」と言う講座の理念を念頭に置き、これからも講座を継続開催して行きたいと思えます。

3. 参加者の声

講座終了後、受講生と保護者へのアンケート及び受講生への感想文を依頼しました。受講生による各講座の評価は「4.2」以上でした。内「4.7」と一番高い評価の講座は、第6回の「きのこの植菌と野外料理（バウムクーヘン）」が挙げられています。良かったと思ったところを具体的に聞いたところ、「ピザ（野外料理）などを作ったこと」や「森の中で遊べたこと」、「友達ができただこと」などを回答の上位に挙げています。尚、講座の内容とアンケート結果などを印刷物（概要版）としてまとめました。

実績報告とりまとめ表

実施時期		月日	月日	計	備考
事業量 又は 事業内容	少年少女里山マイスター養成講座	平成30年 7月1日～	令和1年 6月30日～	6回	講座は平成30年10月～平成31年3月迄の6ヶ月間/月1回
参加者数	県内	217人	人	217人	県外参加者；自然観察指導員1名
	県外	1人	人	1人	
	計	218人	人	218人	
実施場所		徳島県徳島市入田町			

「とくしま木づかいフェア 2018」の開催

とくしま木づかい県民会議

〒770-8001 徳島県徳島市津田海岸町5番13号

1 活動の概要

県民の皆様には木材とふれあう機会を提供し、木材の良さを実感していただくことを通じて、木づかい意識を一層高めるとともに、利用の拡大を目指し「とくしま木づかいフェア2018」を開催した。

主な催しは、

- ①オープニングセレモニー
- ②木づかいアワード表彰式
- ③すぎの木ボーリング大会
- ④すぎの木の玉プール抽選会
- ⑤スタンプラリー抽選会
- ⑥DIY体験
- ⑦会員等による出展
- ⑧すぎフローリング（6m×8m）での木製遊具にふれあうスペースの提供。
- ⑨親子木工工作教室
- ⑩林業機械の展示と試乗
- ⑪木のフリーマーケット など

2 活動の成果

県内外のたくさんのお親子連れに会場いただき、子供も大人もともに木とふれあい楽しんで頂けた。このような普及啓発は継続的に実施することが重要であることから次年度以降も効果のある催しを実施し、木材のファンを増やしていきたい。

3 参加者の声

初めての試みであったすぎ製のピン・ボールによるボーリング大会や林業機械の試乗では、予想を超える反響があった。

親子で、木を使った作品の製作や遊具での遊びなど好評であった。

木に関するイベントはこれしかないので楽しみにしていたとの声も聞かれた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	10月20日・21日	備考
事業量 又は 事業内容	「とくしま木づかいフェア2018」の開催	
参加者数	県内外 計7,350人	
実施場所	徳島県板野郡板野町 あすたむらんど徳島	

とくしま木造建築学校・配信コンテンツ作成事業

とくしま木造建築学校運営協議会

〒770-0847 徳島県徳島市幸町1丁目43番地

1. 活動の概要

学校の運営に必要となるe-ラーニングの新規講座（耐震診断の普及を目的に、徳島で利用しているWeeの解説）を追加すると共に、e-ラーニングの講師が、座学として講座内容のより詳しい解説と講義を実施する「もっけんフォーラム（合計8回）」を実施することで、木造建築の良さと共に木材の持つ性能等について述べることで、地域材を有効に活用できる多くの建築技術者を養成する。

2. 活動の成果

県内で建築を志す学生や設計事務所の若手スタッフ、行政の新人職員、工務店の新入社員等、木造建築周辺の初心者、木造建築の実践的な基礎知識を習得することで木造建築と共に、地域材利用が拡大する。今後は、川上と川下を結ぶ技術者の養成と共に、今回の助成で実現した連続座学「もっけんフォーラム」を継続したいと考えている。

3. 参加者の声

e-ラーニングは、気軽にスマホでも視聴することができるので、仕事や休みでも少し時間が空くと勉強ができるので、非常に役に立っている。講座も充実して、木造を勉強したいと考えている新人や学生、現場監督からも高評価を得ている。また、もっけんフォーラムは、視聴ではわからない疑問や詳しい木材の利用について、講師の詳しい話を直接聞くことができるので、この事業も高評価を得ている。

実績報告とりまとめ表

実施時期		月日	月日	計	備考
事業内容	e-ラーニング	H30年7月1日	H31年3月31日	HPで閲覧継続	
	もっけんフォーラム	H30年8月30日	H31年3月21日	8回の開催	
参加者数	e-ラーニング	H30年7月～	再生回数	2067回	
	もっけんフォーラム	全8回	全編視聴数 参加延人数	319人 127人	
実施場所		徳島県 徳島市			

森林の公益的機能の理解を深めるためのシンポジウムと現地見学会

四国の森づくりネットワーク

〒791-0315 愛媛県東温市井内甲 915-2

1. 活動の概要

森林生態系の機能を正しく知り、それらを調和的に発揮させていくにはどうしたらよいかを市民ひとりひとりが考えていく必要があるのでそれらを考察する場を設定した。

2. 活動の成果

(1) 基調講演と討論会

森林の公益的機能を構造的に理解するために、森林生態系の機能と森林生態系のサービスの重要度の関係に関する講演、「森づくりの目指す道～森林生態系の機能と調和的発揮～」を、国民森林会議会長の藤森隆朗氏が行い、「地域林業を担う人材の育成を目指して 上浮穴高校森林環境科の取組」を愛媛県上浮穴高等学校長 藻利明久氏が行った。参加者の理解を深め、今後学校や、地域で連携して深めていくことを話し合い有意義だった。なお前日には、四国の森づくりの持続可能な森林経営について研究会を開催した。

(2) 現地見学会

近年問題になっている野生鳥獣の食料としての活かし方を学び、森林を育てるのに害があるほどに増えてしまっている野生鳥獣の一つの方策を得た。各地で、講演会、現地見学会の学びを生かした取り組みをめざしたい。

3. 参加者の声

- ・森林を長伐期で管理していく必要性が理解でき、後世に残す森林を守り育てる大切さを感じた。(50代男)
- ・ドイツの林業を学んだ高校生の今後の活躍に期待したい。(60代男)
- ・森の息吹での話を聞き、イノシシやシカの利活用について興味を持った。(20代男)

実績報告とりまとめ表

実施時期		11月2日	11月3日	11月4日	計	備考
事業量 又は 事業内容		四国の森づくり 持続可能な森林 経営についての研究会	基調講演と討論会	現地見学会		
参加者数	県内	9人	49人	9人	67人	
	県外	1人	15人	1人	17人	
	計	10人	64人	10人	84人	
実施場所		愛媛県 松山市、鬼北町、松野町				

学校林を活用した緑の少年団活動の事例発表による森林 ESD の推進と、 アラスカ写真家の講演会開催

緑の少年団愛媛県連盟

〒790-8570 愛媛県松山市一番町4丁目4-2

1. 活動の概要

○目的

- (1) 学校関係者、教育・林業担当課の市と県の職員等が一堂に会する場で、県下の緑の少年団が日頃の活動を発表することで活動を広く周知し、団同士の情報交換をすることで緑の少年団活動の活性化を図る。
- (2) ESDについて専門家から学ぶことで、今後の緑の少年団活動の充実を図る。
- (3) 普段触れる機会の無いアラスカの大自然について見て聞くことで、森林ひいては自然に対する認識を深める。

○内容

- (1) 県下の緑の少年団5団が活動発表を行った。各校の地域の特色を生かし、お茶の生産、学校林の活用、木炭や木酢液の生産と街の人への配布、林業事業者と連携体制を構築した上での授業等、特色豊かな活動を発表して頂いた。
- (2) ESDについて、専門家からワークショップ形式で学習を進めた。森林をもっと生かすためにできることを児童・生徒が自ら考え、各自の意見を発表し、ESDを身近に感じてもらうために、学習で感じたことをE・S・Dを頭文字にして表現した。
- (3) 松山市出身の松本紀生氏をゲストスピーカーとしてお招きして、氏が撮影した現地の写真と動画を上映しながらアラスカの自然についてお話し頂いた。

2. 活動の成果（今回の活動で得た成果とこれからの取組などを記述してください。）

(1) 県民への普及啓発と少年団活動の活性化

今までは緑の少年団関係者だけを参集していた本会であったが、今回は門戸を広げ、広く広報活動を行い、森林や緑の少年団を知る機会が少ないことが予想される方々にも参加していただくことで、緑の少年団活動を知って頂き、森林への理解、興味関心を引き出し、緑化思想の普及を進めた。また、各地の緑の少年団が他団の活動を知ること、自団の活動を見直し向上させる契機となった。

(2) ESDの普及

学校関係者や教育委員会職員が多く出席する場で、ESDの概要や、森林を活用したESDについて説明することで、緑の少年団活動、ひいては環境教育の発展を促す機会になった。

(3) 普段では触れる機会の無い大きなスケールの自然を知ること、知見を深め、森林や自然に関する興味関心を深めた。児童生徒が、世界の自然に目を向ける機会となった。

3. 参加者の声

- ・緑の少年団について初めて知った。自分が関わっている団体も少年団に加入するとは可能か？
- ・ESDを本校でも取り入れようとしているが、参考になった。
- ・アラスカにいつてみたい。

実績報告とりまとめ表

実施時期		月 日	計	備考
事業量 又は 事業内容	学校林を活用した緑の少年 団活動の事例発表による森 林 ESD の推進と、アラスカ 写真家の講演会開催	9 月 22 日		
参加者数	県 内	100 人	100 人	
	県 外	1 人	1 人	
	計	101 人	101 人	
実施場所		愛媛県 松山市祝谷 1 丁目 5 - 33		

五感で森に親しみ森に学ぶ乳幼児期からの体験型森林環境教育事業

ふくつ子どもステーションすてっぷ

〒811-3217 福津市中央1丁目16-6-506

1. 活動の概要

目的は、発達に応じた森林環境教育で子どもが自然の概念や共生を学んで自然感覚（他の生物や環境に配慮し自然を大切に思う感覚）を育むことを支え、持続可能な社会の担い手を育むことである。内容は、①スウェーデンの乳幼児親子を対象とした森のオープンプレスクールを参考に、2人のリーダーと隔週森に出かけ、五感で森に親しみ森に学ぶ「森の親子ひろば」を年24回開催すると共に②未就学児親子や小学生を対象に森の循環と人とのつながりを学ぶ「森のワークショップ」を計12回開催、体験を積み重ねることで豊かな自然感覚（自分とのつながりに気づき樹木や他の生物や土等を含む自然を大切に思う感覚）を育む。

2. 活動の成果

「森の親子ひろば」には948人、「森のワークショップ」には述べ310人の計1258人が参加、アンケート等から森林の循環のしくみや森が育む植物や生き物についての概念、森の役割と自分とのつながりについて子どもも大人も認識するようになったことが伺える。「自然感覚」の育みを通じての持続可能な社会の担い手づくりに寄与できた。

3. 参加者の声

- ・親子で身近な自然に出かけ、森が大好きになり、森の役割を学ぶことができた。
- ・親子でクモやチョウなど様々な生きものに五感でふれて豊かな概念が育ち、親しみを持つようになった。
- ・木や草花の役割を子どもと共に学ぶことができ、森があることで酸素ができ、また空気や水きれいにしてくれるなど、自分たちとのつながりがわかった。
- ・森になぜゴミを捨ててはいけないのか、草花を根っこから採ってはいけないかなど子どもも理解できたようだ。

実績報告とりまとめ表

実施時期	月日	月日	計	備考	
事業量 又は 事業内容	①森の親子ひろば ②森のワークショップ	①7月13日から31年6月28日まで毎月2回	②森のワークショップ7月29日から毎月1回	計36回	①森の親子ひろば24回 ②森のワークショップ12回の計36回
参加者数	県内 県外 計	948人 0人 948人	310人 0人 310人	1258人 0人 1258人	「森の親子ひろば」948人、森のワークショップ310人の計1258人
実施場所	福岡県 福津市・町				

森林と市民を結ぶ全国の集いから 10 年 福岡・九州のこれからの森づくりを考える

ふくおか森づくりネットワーク

〒 834-1222 福岡県八女市黒木町笠原 9767-4

1. 活動の概要

「第 13 回森林と市民を結ぶ全国の集い in 福岡」（平成 20 年）からの 10 余年を、豪雨による山林災害を切り口に、林業にかかわる立場から振り返り、これからの森づくりを考えることを目的とした。

シンポジウムでは、研究者が、平成 29 年北部九州豪雨災害の流木被害の背景、これからの森林づくりについて基調講演を行った。また、製材業兼森林所有者、現場作業者の 2 つの立場から、話題提供を得た。こののち参加者は、小グループで意見交換を行い、質問を書きだした。

質問には、最後のディスカッションで、基調講演者・話題提供者から回答や意見を得た。

九州の森づくり交流会では、「第 13 回森林と市民を結ぶ全国の集い」の演者より、その後の活動やこれからの展望を語られた。

2. 活動の成果

シンポジウムでは、参加者が知見を得るとともに、疑問を付箋紙で共有すること等を通じ、議論に参加し、理解を深め、相互に知り合うことができた。

交流会では、平成 20 年開催 13 回森林と市民を結ぶ全国の集い」から 10 年を経ての再会と情報交換をシンポジウム参加者とともに行うことができた。

今後も、今回のような「サロン」の運営に取り組むだろう。

3. 参加者の声

- ・広葉樹のほうが良いというわけではない、スギは悪いと思っていたけれど植えた側、育てる側の思いもあること、今まで知らなかったことばかりでした。
- ・ここで学んだ内容がどうにかしてもっと周りに浸透してほしいです。

実績報告とりまとめ表

実施時期		4月13日	4月13日	計	備考
事業量 又は 事業内容		シンポジウム	交流会		
参加者数	県内	70人	32人	102人	
	県外	6人	6人	12人	
	計	76人	38人	114人	
実施場所		福岡県福岡市博多区吉塚本町9-15 福岡県中小企業振興センター401号室			

竹林整備で高齢者に生きがいと健康を！

糸島くるくるマーケット実行委員会

〒819-1301 福岡県糸島市志摩井田原 479-1

1. 活動の概要

「ノコギリ1本でもできる竹林整備を学び、健全な里山の環境づくりと年間を通した取り組みで心も身体も健康に。」をキャッチフレーズに、実践型講習会や講座、講演会を開催。

モデル竹林を仕立てながら行う竹林整備体験会（6回）では、竹林整備に必要な装備や道具の説明や購入のポイント、道具や粉砕機の扱い方などの説明。整備をするうえで必要な基礎的知識と事例などを交えて説明をしつつ、実践的な体験。

また、枯れ竹でつくる竹炭づくり体験会（6回）は、無煙炭化器の使用に関する諸手続きや環境整備（広場や消火のための設備）についての説明と、実際に竹炭を作る作業の体験。

高齢者や女性にも取り組める竹林経営（タケノコ生産や国産メンマ、竹の加工品づくりと販売等）を学ぶ講座として、竹利活用アドバイザーの野中重之氏による竹林整備講座は、基礎編、応用編、実践編と3回シリーズで開催。基礎編では、竹の種類や性質、市場で求められているたけのこについて詳しい説明があり、応用編では、美味しいたけのこの育て方について解説。実践編では、座学の後に、台風に強く管理しやすい裏止めという手法等様々な作業の体験。

メンマづくり講座では、コミュニティ事業として始められた日高榮治氏の失敗事例も交えた即実践へ繋がる内容。試行錯誤してたどり着いたメンマづくりの行程と、様々な味付けを施した製品についての説明。

たけのこ生産者でありながら、テレビ等でも人気を集める風岡直宏氏の二日連続の講演会。初日は新規就農者が増えている糸島市にて、『農業という仕事の魅力とやりがい』というテーマで農業者としての苦労と成功、また様々な体験を通して学んだ人生感についてのお話。二日目は、本気でたけのこ生産を考えている方向けの具体的な生産と販売方法の解説。

2. 活動の成果

多くの参加者は、本業または副業として竹林整備やタケノコ・メンマ生産に繋がりたいとの目的で参加されていましたが、他にも、里山保全に関わりたい、実家の山の整備するために学びに来たというお話も多数お聞きしました。

今回の事業開催中だけでなく、終了後もお問合せや講座開催リクエストが多数寄せられ、紙面でも複数回取り上げられ、講師陣へのテレビ取材や講演依頼も増えました。

この度、糸島くるくるマーケット実行委員会竹の資源活用チームは、新たな組織を立ち上げ、地域資源活用をテーマに法人化を目指します。竹炭づくりは障がい者の方々との協働事業としての検討が進んでおり、竹林整備体験会を行った神在の竹林は、隣接するグリーンコープ遊学舎さんが中心となり、地域の方との協働で整備が進められることになりました。

3. 参加者の声

- ・竹の性質をよく知ることができ、学んだことを所有する竹林の整備にいかしていきたい。
- ・短時間で沢山の有益な情報を得ることができて有意義でした。
- ・メンマづくりによる竹害対策は一石二鳥で画期的だ。是非やってみたい。
- ・風岡さんのタケノコに対する情熱に感動しました。竹林整備にやる気が出ました。

森林と都市を繋ぐ「新・木造の家」設計コンペ

特定非営利活動法人 森林をつくろう
〒842-0202 佐賀県神埼市脊振町鹿路 585-1

1. 活動の概要

【目的及び概要】

木造住宅の提案募集や講演会を通じて、若い学生をはじめ多くの方々に、水土保全機能を有し緑豊かな森林を継承していくためには、林業や木材利用も欠かせないことを理解してもらう

【内容】

●「新・木造の家」設計コンペ

・作品募集

全国の大学などで建築を学ぶ学生を対象に、木造住宅の斬新なアイデアを募集し、優秀作品は実際に施工を前提とするプロジェクトを実施

・講演会

森林づくりや国産木材の利用につながる専門家による講演会を開催

●林業体験事業

・希望者を募り、数日間の林業体験事業を開催。資格を有した指導者のもと、下草刈りや伐採の体験のほか、森林所有者との交流会を開催

2. 活動の成果

水を蓄え空気を循環させる機能を持つ森林を、後世に継承するためには、森林が適正に手入れされ、木材が利用する環境づくりが欠かせない。今回申請した事業において、木造のことも学ぶ機会の少ない大学等で建築を学ぶ学生に対し、林業体験や森林に触れる場を提供することができた。この事業により、木材利用や林業の活性が森林保全にとって重要だということに気づいてもらい、将来彼らが設計活動を通じて、広く一般の方に対し、木材利用の重要性を投げかけてくれるのではないかと期待している。このことが、森林の手入れを促し、水土保全機能を有する緑豊かな森林形成へとつながり、ひいては山村の活性につながるのではないかと感じる事ができた。

3. 参加者の声

【設計コンペ】

- ・学生の発表は、学生らしい内容が多くてとても面白かった（一般参加者）
- ・設計コンペに合わせて林業体験などを組んでもらえるといい（学生）
- ・講師の話は、木造にあまり関心のない若い人にも興味を持てる内容で海外の人の木材利用のことにも触れていて、とても勉強になった

【林業体験】

- ・チェーンソーを持つのは初めてでとても緊張した
- ・木が倒れる瞬間の音や風に感動した
- ・このような体験に参加すれば、木材や林業に関心を持つ人は増えると思う

実績報告とりまとめ表

実施時期		10月8日 12月1日	10月21日 3月17日	計	備考
事業量 又は 事業内容		設計コンペ	林業体験		
参加者数	県内	58人	32人	90人	
	県外	262人	18人	280人	
	計	320人	50人	370人	
実施場所		佐賀県神埼市・岡山県倉敷市・福岡県那珂川市			

森と水を学ぶ面白塾

九州森林インストラクター会

〒860-0071 熊本市池亀町 19-13

1. 活動の概要

平成28年4月から平成29年3月まで毎月1回、12回のプログラムを実施する計画であったが、熊本地震の関係から、振り替え開催を努力したが11回しか開催できなかった。

一般市民を募集して毎月葉書の連絡をして実施した。プログラムの内容は、植物観察、絵手紙、草木染め、リース作りなど市民に親しみられるプログラムとし、場所は花園コミュニティ、九州森林管理局監物台樹木園など交通に便利で参加しやすい場所で実施した。

参加者には森の楽しさ気持ちよさを体験し、植物の不思議に接し、森を歩きながら森林・林業の大切さを学び、森林浴を楽しみ、参加者の健康増進に資した。

2. 活動の成果

参加者は高年から熟年も多く、外出が少なくなった人や自宅に引きこもりがちな人も参加され、健康増進に資した。プログラムはすべて別メニューであったことから、すべて参加した人もいたが、自分のメニューにあうプログラムを選びながら参加された人もいた。趣味の合う人が集まっていることから、例会は和気藹々の雰囲気が進められた。

私たちの継続的な取り組みが評価され、小学校から2件、教育委員会、公民館から委託を受ける等、活動の成果が上がっている。来年度にはNHKカルチャーからも要請があり、積極的に参加して活動を盛り上げたいと思っている

今後もプログラムの内容を検討しながら野外と室内のプログラムの調和を保ちつつ市民に親しまれるプログラムを実施したい。

3. 参加者の声

炭焼きでは温度の経過を温度計で測りながら説明したら、炭窯の中の温度が高くなるにしたがって煙の変化が出ることに不思議がられていた。大きな焚き火でフカフカの美味しい焼き芋の出来上がりに満足されていた。リース作りは、松かさやメタセコイヤの自然で採取した果実がロウで簡単に取り付けられるので、果実のてんこ盛りのリースが出来上がり悦に入っている人もおり、プログラムは賑やかに進めることができた。

自然観察会ではルーペの世界を初めて経験される人もあり、葉の構造や花の繊細な構造に驚き、感嘆の声が上がっていた。絵ハガキでは、プログラムの最後に、それぞれの絵をミニ額縁に入れての鑑賞では、自分の絵の出来上がりに自己満足の顔をされていた。

第 23 回九州森林フォーラム in 福岡市 ～森林環境税で変わる！？森林管理と森の暮らし～

NPO 法人 九州森林ネットワーク

〒 877-0311 大分県日田市上津江町川原 2810-1 株式会社トライ・ウッド内

1. 活動の概要

近年、適切な施業が実施されない森林の増加が指摘されています。そうした問題を解決するために、林野庁から「新たな森林管理システム」が提案され、2018年5月に「森林経営管理法」が成立しています。同法は、①意欲の低下している森林所有者から市町村が経営管理権を集積すること、②集積した経営権は都道府県が認定した「意欲と能力のある林業経営者」に委ねること、③林業経営が成り立たない条件の場所は市町村が直接管理を行うこと、④森林環境税を導入し、主に市町村に交付（森林環境譲与税）して直接管理費に使用することなどが特徴です。これまでの森林政策の大きな転換ともいえる改正です。

しかし、市町村の体制が不十分であるなど、多くの課題も指摘されています。森林管理や山村での暮らしに様々な影響がありそうな森林環境税の導入と課題について、広く議論することが求められています。

今回のフォーラムでは、「新たな森林管理システムと森林環境税」の本質を学び、所有者、自治体、林業者、市民（＝納税者）が地域の森林問題と森林経営管理法の課題を共有する場にしたと企画しました。基調講演は、泉英二氏（愛媛大学名誉教授（元理事・副学長）、国民森林会議提言委員長）にお願いしました。パネルディスカッションでは、市町村、森林所有者の方に参加いただき、今後の林業や森林環境の問題解決の一助にしたいと思えます。

2. 活動の成果

森林経営管理法の詳細を知らず、多くの方々に関心・興味を持って頂いた。地元の新聞社からの取材（西日本新聞）もあり、非常に盛況であった。フォーラムの中では、厳しい意見もあったが、最終的には、いかにこの制度を林業・木材産業・山間地域のために活用していくのかという事に焦点が当たった。

行政関係者（特に市町村関係者）からは、森林経営管理法の運用に関して心配の声が多く聞かれた。

厳しい林業・木材産業の環境下で、今まで一生懸命頑張ってきた山の経営を行ってきた地域や人が、報われないのではないかと意見もあり、いかに地域にあった形で、この制度を活用していくのかという課題も残った。

今後は、制度開始後、各地域・自治体がどのような形で運用しているのかを、フォーラム等を通して、地域・自治体の成功事例を横展開できるようにしていきたい。

3. 参加者の声

- ・ 県の職員として国の環境税の概要は知っていたが、市町村担当者の負担が大きく、とてもこわい制度が始まると感じていました。大学の先生、NPO、林家の方等、普段はお話する事の少ない方の話を聞いてとても勉強になりました。（30代 行政）

- ・ 森林に向き合い方について再考する必要があると考える。

長伐期の規模が全くちがっていた。

担い手における人材育成だけでなく、それをコーディネートするフォレスターの技術能力の向上が必要と考える。

そこに森林所有者への利益還元？異動のある行政ではなく、地域に森林の循環利用とコーディネートする者が必要と考える。（30代 行政）

実績報告とりまとめ表

実施時期		11月 9日	11月 10日	計	備考
事業量 又は 事業内容		フォーラム [基調講演 愛媛大学 名誉教授 泉 英二 氏]、 [事例報告 4 件]、 [パネルディスカッション]	九州木質建物構造展 セミナー、各地域（日田市、小国町、諸塚村、屋久島町）の事例展示		
参加者数	県内	49人	30人	79人	
	県外	35人	10人	45人	
	計	84人	40人	124人	
実施場所		アクロス福岡（福岡県福岡市中央区天神1丁目1-1）			

森林ボランティア体験を通じて森を知る事業

スマイリー

〒 892-0847 鹿児島県鹿児島市西千石町 7-22 カーサグランデ 301 号

1. 活動の概要

森林ボランティアとは何をするのか？なぜするのか？など知らない人が多い。森林ボランティア体験や森での体験を通じて森を守ることの大切さを知る活動とする。

- ①森の観察会
- ②間伐体験
- ③道づくり体験・遊歩道の階段づくり
- ④植樹体験
- ⑤椎茸収穫&駒打ち体験

2. 活動の成果

様々な森林ボランティアの体験を通して森や道がどのようにして守られているかを知るきっかけとなったと感じる。またその森や道づくりに参加して森の大切さを学ぶ機会にもなった。これらの子どもたちが森に対する意識をもち成長していくことが21世紀の森を守る活動へと波及していくことを期待し、今後も森林体験活動を継続していく。

3. 参加者の声

- ・森林ボランティアの仕事がよくわかった。
- ・植樹体験に参加してみて森に木があることの大切さがわかった。
- ・椎茸の収穫体験と駒打ち体験が同時に出来て楽しかった。シイタケ菌がシイタケになることが興味深かった。
- ・間伐が木を大きくするためには必要だと初めて知った。

実績報告とりまとめ表

実施時期		8月 9日	9月 1日	1月 19日	備考
事業量 又は 事業内容		森の観察会 森や川の観察	間伐体験 竹や木の間伐	椎茸収穫 椎茸の駒打ち	
参加者数	県内	25人	23人	25人	
	県外	0人	0人	0人	
	計	25人	23人	25人	
実施場所		鹿児島県鹿児島市春山町			

実施時期		2月 23日	3月 9日	計	備考
事業量 又は 事業内容		植樹体験	道づくり体験 遊歩道の階段づくり 体験		
参加者数	県内	24人	15人	112人	
	県外	0人	0人	0人	
	計	24人	15人	112人	
実施場所		鹿児島県鹿児島市春山町			

女性目線の森林体験PART II 事業

特定非営利活動法人 鹿児島ボランティアバンク
〒892-0838 鹿児島市新屋敷町16番公社ビル324

1. 活動の概要

もともと森に興味のある人だけではなく新たに森に興味をもつ人を掘り起こすことは重要であると考え、女性目線の森林体験メニューで下記の森林体験を実施する。

- ①森の昆虫観察会
- ②川辺の観察会
- ③竹を使った物づくり体験
- ④木を使った物づくり体験
- ⑤シイタケの収穫体験

2. 活動の成果

大人の参加者の半数以上は女性であった。このようなイベントでの参加率としては異例であると考えている。28年度の女性森林ボランティア隊養成事業以来続けてきたや女性目線の企画がこのような結果に結びついていると考えている。離婚率も高まり、それに伴い母子家庭世帯も増えている。今回の活動で得た成果を基に森林体験や自然体験に消極的な母子家庭の親子に対する森林体験活動なども企画・実施していきたい。

3. 参加者の声

- ・初めて昆虫観察会に参加しました。街では見えない昆虫を見つけドキドキしました。
- ・母親が子どもを連れて森林体験とかは考えられませんでした。しかし、女性目線の森林体験と言うことで参加してみたら子どもと一緒に体験できて楽しかったです。
- ・シイタケの駒を初めて見せてもらった。これがシイタケになるとは不思議だった。
- ・シイタケ収穫が楽しかった。また、来年も行きたい。
- ・親子で5回とも参加しました。楽しくて携わりやすいメニューで楽しかったです。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月21日	8月25日	10月14日	11月17日	2月16日	計	備考
事業量 又は 事業内容	森の昆虫観察会	川辺の観察会	竹の物づくり体験	木の物づくり体験	シイタケの収穫体験	計5回	
参加者数	県内	41人	32人	40人	37人	40人	計190人
	県外	0人	0人	0人	0人	0人	
	計	41人	32人	40人	37人	40人	
実施場所	鹿児島県鹿児島市春山町						

「森づくり・人づくり」事業

特定非営利活動法人 みどりの風かんかん
〒890-00144 鹿児島県鹿児島市草牟田1-1-2

1. 活動の概要

森の整備や植樹を通じて森づくりを行うとともに伐採した木を使った物づくりや体験等を通じて地域の森を知り守り続ける為の人づくりを行うことを目的とする。

- 森林整備急斜面整備3回 切り倒した木を利用したものづくり体験 ○テーブルづくり
○イスづくり その他の体験 ○炭焼きと植樹 ○門松づくり ○椎茸の駒打ち

2. 活動の成果

少しづつではあるが、リピーターも増えてきて、山の活動を心待ちにしておいでの声に励まされた。人も自然の1部であり、山はすべての始まりであることをリピーターの子も達理解してきていることが何よりもうれしかった。

地道ではあるが、これからも活動を続けていき、一人でも多くの大人や子ども達にこの体験&体感を感じて貰いたいと思っている。

3. 参加者の声

- ・山の整備が初めてだったので楽しかった。暑かったが
- ・みんなで大きなテーブルを作って、達成感があった。切り倒された木からの再生に少し感動した。
- ・丸太の椅子に切れ端を足したりして楽しかった。
- ・炭焼きは初めてだったので、わくわくした。帰りは購入した。
- ・山からの恵みの多さに考えさせられた、もっと子ども達にこの経験をさせたいと思った

実績報告とりまとめ表

実施時期	平成30年 8月19日	平成30年 9月17日	平成30年 11月25日	平成30年 12月16日	平成31年 2月17日	計	備考
参加者数	21人	27人	12人	76人	24人	136人	
実施場所	鹿児島県郡山町4215-1						

「平成 30 年度森林ボランティアの日活動 in 川内」

鹿児島県森林ボランティア連絡会

〒 892-0816 鹿児島市山下町 9-15 林業会館 4 階

1. 活動の概要

「森林ボランティアの日」の定着を図り国民総参加の森林づくりの気運を醸成するため、県内の森林ボランティア団体が一堂に会し、一般公募参加者や林業関係機関団体と連携して、薩摩川内市青山町の「中パの森」で森林整備活動を行った。

当初は、9月8日に活動を実施する予定であったが、豪雨により中止となり、改めて9月20日に開催したが、当日も時折雨が降る中での活動となった。

活動内容としては、林内に点在するカシノナガキクイムシ被害木の伐倒・処理により、被害の防止と景観整備を行うとともに、ツバキ園における遊歩道等の整備、植栽地の下刈等を行った。

2. 活動の成果

現地は薩摩川内市の郊外に位置し、以前から地元のボランティアグループが森林環境学習フィールドとして活用している。今回、林内に点在しているカシノナガキクイムシ被害木の伐倒処理と林内歩道を整備したことで、利便性と安全性が向上し、地域住民を含め更なる利活用が図られるものと期待している。また、今回新たに東屋周辺にしだれ梅を植栽した。ボランティア有志と森林所有者による維持管理体制も整っているため、近い将来、以前からあるツバキをはじめ、満開の梅の花が来訪者の目を楽しませてくれるものと期待している。

3. 参加者の声

- ・雨の中の作業となり残念であったが、林内が整備されよかった。
- ・危険なカシノナガキクイムシ被害木も除去され、森林散策や学習に最適の場所だ。今後活用させていただきたい。
- ・階段も新しく取り換えていただき、安心して散策できるようになり嬉しい。今度子供も連れて来たい。
- ・初めて森林ボランティア活動に参加した。思っていた以上に、ハードな作業が多くて驚いたが、森林ボランティアの皆さんのパワーと手際の良さにはもっと驚いた。これから自分も少しずつでも関わっていきたいと思った。

実績報告とりまとめ表

実施時期	9月20日	8/6～9/18		計	備考
事業量又は 事業内容	・記念植樹 3本 ・下刈・除間伐 3.0ha ・歩道整備 250m	・林内整備や安全対策 などの準備作業			
参加者数	県内	99人	32人	人	131人
	県外	0人	0人	人	0人
	計	99人	32人	人	131人
実施場所	鹿児島県薩摩川内市青山町				

森を身近に感じる体験プログラム

おやゆび姫

〒 899-2705 鹿児島市直木町 4807-1

1. 活動の概要

森から受ける恩恵はきれいな空気や水だけではありません。私たちが生活するうえで必要な商品にも竹や木は多く使われています。座学や体験を通じて森の必要性を学びます。

2. 活動の成果

座学では今まで知らなかった知識の驚きや発見。様々な事を学ぶことが出来ました。物づくり体験は、それぞれ個性溢れる作品が出来上がっていました。日頃作らないものを手づくりする楽しさ、喜び。普段交流のない人と交流するいい機会になりましたし、色々な人達と触れ合う事で生まれた感性であったり、多方面において有意義な時間を過ごせたように思います。また次はこれをしてみたいなどの声もあがりましたので、次は是非そちらも参考に取り組みたいかと思いません。

3. 参加者の声

なかなかじっくりと考える事の無い問題を改めて見つめ直す、そして共に考えるという貴重な時間を過ごさせて頂いたと有り難いお言葉を頂きました。普段購入すれば済む物も、自らの手で制作する事で、愛着が湧き、大切にしたくなる。そしてまた何か作りたい、人にも教えたい。物づくりの楽しさを知るいいきっかけだった。と沢山のお喜びの声を頂きました。またこのようなイベントがある際には是非参加したいと多く声があがりました。

実績報告とりまとめ表

実施時期		8月30日	9月22日	11月24日
事業量 又は 事業内容		(座学) 竹林の現状と課題 (体験) 竹を使った物づくり	(座学) 森林の役割 (体験) 木材を使った物づくり	(座学) カーボンオフセットについて (体験) 松ぼっくりを使った物づくり
参加者数	県内	27人	28人	34人
	県外	0人	0人	0人
	計	27人	28人	434人
実施場所		鹿児島県鹿児島市直木町		

実施時期		12月22日	2月23日	計	備考
事業量 又は 事業内容		(座学) 川の水の秘密 (体験) 門松づくり	(座学) 森の恵み (体験) シイタケの駒打ち		
参加者数	県内	46人	32人	167人	
	県外	0人	0人	0人	
	計	46人	32人	167人	
実施場所		鹿児島県鹿児島市直木町			

こどものけんちくがっこう

NPO 法人 こどものけんちくがっこう
〒 899-2701 鹿児島市石谷町 3624-9

1. 活動の概要

こどものけんちくがっこうは、小学3年生から中学生まで約40名の生徒（2018年度）を対象に、森林から木材、木造建築に関する座学や実習を織り交ぜた授業を月に2回行なっている。

本公募事業では、各種イベントに出展し、来場者を対象とした公開講座（自由参加、無料）を開催することで、森や木に纏わる活動を広く紹介した。さらに、けんちくがっこうに通う生徒に限らず、“ものづくり”を通して地域材について、またそれを用いた地域づくりについて、子供達が体験的に学べる機会を提供することを目的とした。

事業期間内に4つの活動を行なった（実績報告とりまとめ表参照）。木材を用いた建設作業や、建築に関する公開講座・工作ワークショップ、森林や木材に関する公開講座により、森林環境や木材利用の重要性の啓発を行なった。

2. 活動の成果

活動全体で、約520名の参加者を得た。また、参加したイベントは地元のテレビや新聞などでも紹介され、広く関心を得た。今回の活動を通して、多くの市民が森や木に関心を持つ反面、それらに具体的に触れる機会が日常的には少なく、興味と行動のつながりに距離があると感じられた。こどものけんちくがっこうでは、令和元年度も約50名の生徒が森から建築まで、実践的に学んでいるが、とにかく活動を継続し、学びの機会を提供し続けることが重要だと再認識した。今後も地方自治体や関連産業など地域社会との結びつきを強めながら、教育を展開していきたい。

3. 参加者の声

実際にもものに触れながら学ぶスタイルが大きな反響を得た。大人に対する同種の授業を開講してほしいとの意見も多数寄せられた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	月日	計	備考
事業量 又は 事業内容	1) 夏季特別授業	1) 8月25日-26日	1) 2日間
	2) かごしま住まいと建築展：公開講座	2) 10月19日-21日	2) 3日間
	3) げいじゅつたいけん	3) 3月24日	3) 1日
	4) サイエンスカフェかごしま：公開講座	4) 5月25日	4) 1日
参加者数	県内	約520人	約520人
	県外	0人	0人
	計	約520人	約520人
実施場所	鹿児島県 鹿児島市		

調 査 研 究

森で行う園外保育と外部講師の実施する森林環境教育の連携に関する調査

一般社団法人 全国森林レクリエーション協会

〒112-0004 東京都文京区後楽 1-7-12 林友ビル6階

1. 調査の目的

教育効果が期待される森で行う園外保育を促進するため、森林インストラクター等の外部講師との連携に必要な要件や手法について調査、検討を行い手引書を作成する。

具体的には、「森のようちえん」の活動をどのような場所で、どのような目的を持ち、どのような指導をすることで、幼児にどのような学びが生まれてくるのか、実例を踏まえながら取りまとめ、外部講師のための手引きを作成する。

2. 調査の概要

- (1) 「幼稚園教育要領」における「森のようちえん」位置づけの整理を行った。
- (2) 日常の保育活動を森の中で行っている「森のようちえん」の事例を取りまとめるとともに、「森のようちえん」でのどのような指導により、どのような学びが生まれているのかを事例として取りまとめた。
- (3) 「森のようちえん」で活動するために必要な安全管理、指導方法等について整理した。

3. 普及教材「森林インストラクターが森のようちえんで活動するための基礎知識」の作成

森林インストラクター等の外部講師が「森のようちえん」のような森で行う園外保育を行う場合の参考として、「森のようちえん」として活動している団体の事例と「森のようちえん」での活動により幼児にどのような学びが生まれているのかをアクティブ・ラーニングの基礎となっている事例、サイエンス・プロセス・スキルとしてみた場合の事例を取りまとめるとともに、安全管理、指導の種及び言葉がけの事例など指導に必要な知識等を整理し示した。

教材の内容は次のとおりである。

- (1) 「森のようちえん」とは 幼稚園教育要領とは
- (2) 「森のようちえん」辞せ園事例
 - ①空と森のようちえん あいうえお
 - ②NPO 法人 ぴっばらの森（森のようちえんぴっばら）
 - ③キトウシこどもの森（通称キトキト）
 - ④森のようちえん 森のたね
- (3) 学びその1 アクティブ・ラーニング
 - ①カタツムリの採取作成
 - ②がけ登り
- (4) 学びその2 サイエンス・プロセス・スキル
 - ①観察スキル 五感を利用して観察するスキル
 - ②分類スキル 動植物の特徴からグループ化するスキル
 - ③測定スキル 自然で観察したものを測定するスキル
 - ④コミュニケーションスキル 仲間と話し合ったり、発見したりすることを通して、コミュニケーションをはかることのできるスキル
 - ⑤予測スキル 観察から得た情報を用い予測するスキル
 - ⑥推論スキル 観察に基づいて結論を出したりするスキル
- (5) 安全管理
 - ①危険な植物
ウルシ イラクサの仲間 キョウチクトウ その他
 - ②危険な動物

クマ ハチ その他

(6) 指導のたね

①木の実

ドングリ コブシ 雨降り

②落ち葉遊び

③昆虫採集

④カエル

⑤葉っぱ

⑥この花の名前なあに？

⑦雨降り

(7) 気付きを促す言葉かけの事例

①オニグルミ

②カムフラージュ

③クマ

④カタクリ

⑤アカタテハ

⑥はじける種

再造林の確実な実施に向けた苗木生産面からの検討 —熊本県を事例に—

一般財団法人 林業経済研究所

〒113-0034 東京都文京区湯島 1-12-6 高関ビル 3F

【課題】

わが国の森林面積の約4割の1,000万ha余を占める人工林においては、2017年3月末現在でその半数が一般的な伐期である50年生を超えており、今後主伐の増加が見込まれる。

資源の循環利用を進めるには主伐後の再造林が求められ、そのためには再造林用苗木の安定確保が求められる。

本調査は、苗木の安定確保が重要な課題である九州（横田ら2016）において、素材生産の盛んな熊本県を事例に、生産管理論の視点（安村・立花2016、安村・立花・斉藤2019）から苗木生産工程のボトルネックを把握して、苗木生産拡大策を提示することを課題とする。

【方法】

調査は聞き取り調査を基本とした。調査は熊本県庁森林整備課造林間伐班と熊本県樹苗協同組合（以下、県苗組）をまず対象として、熊本県の林業及び苗木生産に関する概要のほか、県苗組組合員である苗木生産業者の個別情報を把握した。

ここでコンテナ苗生産が拡大していることを確認したことから、コンテナ苗生産も手がける組合員10社（手がけようとする1社を含む）を対象に、経営の概要と作業暦や生産性に関する実態を把握した。

【熊本県の概要】

素材生産量（2016年、956千 m^3 ）、造林面積（2016年、982ha）ともに近年増加傾向にある。造林コスト低減のため、主伐と植栽の一貫作業システムが推進されている。民有林造林面積における一貫作業の割合は15%を占めている。今後35%にすることを目指している。

こうした一貫作業システムではコンテナ苗が使用される。露地苗とコンテナ苗をあわせた苗木生産量の変動幅は大きい。2016年の苗木生産量は3,910千本で前年から2割ほど生産増となった。樹種別にはスギ2,017千本、ヒノキ553千本、その他（クヌギ等）849千本の上位3種で全体の89%を占める。

コンテナ苗の年間生産量は増加傾向にある。森林環境保全整備事業のうち植栽にかかる補助金額の推移は、苗木生産量と同様に変動の幅が大きい。補助金額は民有林造林面積を規定する大きな要因の一つであると推測されるが、この5年間を見る限り両者の関連性は高くない。

2016年現在の組合員数は36である。2010年にはじめてコンテナ苗生産を手がける組合員が現れ、現在は全体の25%となる9社がコンテナ苗を生産している。組合員の生産状況から推計されるコンテナ苗の生産量割合は28%となっている。

また、苗木の規格や単価は県苗組で定めている。2018年現在、露地苗の標準単価はスギ、ヒノキともに69円、コンテナ苗は130円と設定され、コンテナ苗はスギ、ヒノキとともに露地苗の1.9倍の単価となっている。

【苗木生産業者10社概要】

林業用苗木生産を専業とするものは少数派で、農業など他の事業との兼業が多い。それでも主たる収入が林業用苗木生産となっている組合員が多数を占める。

経営者の年代は60代が中心となっている。後継者の決まっているものが5社で、残りの5社は無あるいは未定である。無あるいは未定とした5社には生産規模が大規模、中規模の組合員も含まれており、仮に廃業となった場合、熊本県の苗木需給はかなり逼迫する。

生産量に占めるコンテナ苗の割合はさまざまだが、大規模の組合員では最大3割であり、生産量の5割以上がコンテナ苗になっている組合員は中規模もしくは小規模である。このことから、コンテナ苗の生産設備を整えることは簡単ではないと推測できる。

10社のうち労働力不足感を覚えないのは4社で、将来的あるいは部分的な不安を含めると、不足感を覚える組合員が過半を占める。

生産拡大に最も重要なのは労働力、という意見が複数聞かれた。作業暦を見ると、コンテナ苗の導入により、畑への穂挿し、出荷、幼苗のコンテナへの移植の実施時期が従来と比べて広がった。これにより必要労働力の平準化が図られた。

ただし、労働生産性について見ると、比較できる項目すべてにおいて露地苗よりもコンテナ苗の生産性が低い。複数の業者で聞かれた「コンテナ苗の導入により必要労働力が増えた」という意見を裏付けるものである。

工程間の違いに着目すると、スギにおいては採穂、コンテナ移植、コンテナからの苗木の抜取（出荷工程の一部）が、ヒノキにおいてはコンテナ移植の生産性が低いことが確認でき、これらの作業がボトルネックになっている。

【苗木生産の拡大策】

今回調査したコンテナ苗を手がける10社においても後継者の未定もしくは無のところがあった。

熊本県によると露地苗のみを手がける組合員は特に高齢で、後継者がいないという状況が顕著とのことであり、調査対象をさらに広げると後継者未定あるいは無という割合は高まることが考えられる。廃業が起こりうることを考慮すると、苗木生産量を維持することすら簡単ではない。

今回得られた知見から次の苗木生産の維持拡大策が考えられる。

(ア) コンテナ苗生産に関する技術習得機会の提供と標準マニュアルの整備：新規参入とその定着を促すためにも技術研修会の開催、標準的な技術マニュアルの整備が望まれる。十分に技術を習得したと考える業者にとっても自分の作業暦や技術を見直すことになるため、マニュアル整備の効果は未習得者だけにとどまらない。

(イ) 生産性の向上、四季を通じた労務の平準化による労働力の確保：生産工程の中で生産性の低い、ボトルネック（採穂、移植、抜取の3工程）を優先的に改善することが求められる。小さい穂木の採穂量は大きい穂木の1.7～2.9倍になる（姫野早和2018）ので、小さい穂木でも十分とされるコンテナ苗向けには、小さい穂木を採穂することは労働力確保対策として検討の価値がある。移植や抜取では機械化が対策として考えられる。

(ウ) 苗木価格の設定：熊本県におけるコンテナ苗価格は九州で最も安い。コンテナ苗の価格設定水準及び露地苗との価格差次第では、コンテナ苗の生産が伸び悩み、県の計画通りに進行しないことになる。コンテナ苗の普及を目指すには、コンテナ苗の価格を下げることで、露地苗の価格のみを上げることは慎重になる必要がある。

(エ) 大企業の撤退と中小規模業者の廃業リスクの比較検討：大手企業に対しては一般的に撤退（などの企業の方針変更）のリスクが懸念され、その参入が歓迎されにくい一方で、今回明らかになったように、中小規模の業者においては廃業のリスクがつかまとう。大手企業の撤退と中小企業の廃業リスクを比較検討しておくことが重要となる。

※申請当初は熊本県と宮崎県を事例にすることを考えていたが、予算制約により熊本県一県に絞って調査を実施したため、申請時とタイトルが変更になっている。

「働き方改革実行計画」に合わせた、森林空間を活用したメンタルヘルス対策推進の仕組みづくり・プログラム開発・効果検証

木村理砂（Momo 統合医療研究所）
〒162-0816 東京都新宿区白金町 1-2-1-406

1. 事業の目的及び概要

「働き方改革実行計画」への「森林空間を活用した保養活動」の記載を踏まえ、企業等と連携したメンタルヘルス対策の森林セラピー等の推進の仕組みづくり・効果検証などを行う。

2. 本年度の実施内容

(1) 医療関係者と医療保険者が連携した推進の仕組み・体制づくり

平成30年度は、以下を主に行った。

- ・全国健康保険協会への説明とともに、モニター体験を依頼、参加
- ・企業産業医、保健師、人事担当者にモニター体験を依頼、参加
- ・国土緑化推進機構と連携した集客のしくみづくり構想を検討

今後、自然環境での保養を推進するにあたり、労働者自身や企業がその有用性を理解すること、労働者が保養のための休暇取得ができる環境づくりを行うこと、企業や健保組合が健康増進プログラムとして位置づけができる（費用補助・負担を含めて）システムとすること、などが望まれる。

(2) 体系的なプログラムの開発

- ・開発プログラム：森林セラピー・森林浴とマインドフルネス認知療法の原理に基づくマインドフルネス学習を複合したプログラム（宿泊型）—メンタルヘルスセルフケアプログラムと、生活習慣病 特定保健指導プログラムの2種類を開発した。
- ・開発期間：2018年7月～2019年5月
- ・検討事項：プログラム内容、実施者、対象者、実施場所、実施人数、効果評価アウトカム等
- ・メンバー：北里大学大学院医療系研究科産業精神保健学教室と慶応大学精神神経科教室、看護医療学部に関係する医師、心理士、看護師6名により検討を行った。

(3) 効果検証

	長野県信濃町	静岡県朝霧高原	長野県木曾赤沢
実施時期	2019年5月18～19日	2019年6月1～2日	2019年6月15～16日
実施内容	メンタルヘルス対策プログラム	メンタルヘルス対策プログラム	生活習慣病対策プログラム
対応者	森林メディカルトレーナー 高力一浩氏他	朝霧高原診療所、日月倶楽部 院長 山本竜隆先生	長野県立木曾病院名誉院長 久米田茂喜先生
参加者	女性7名	女性6名	男性5名、女性2名

【プログラム内容】

森林セラピーや自然環境に関するレクチャー、マインドフルネスに関するレクチャー、森林セラピー／森林浴、マインドフルネスの練習（レーズンエクササイズ、食べる瞑想、歩く瞑想、ボディスキャン、瞑想など）により構成した。生活習慣病プログラムにおいては、上記をやや短縮して行うとともに、はらすまダイエットの手法を取り入れた生活習慣病予防に関する参加型レクチャー、健康目標の設定を加えた。

【結果】

- ・自律神経測定において、瞑想後や森林セラピー後に交感神経の活性度の指標である LF/HF 値の低

下、つまり、よりリラックスしている状態になる傾向がみられた。

- ・気分状態尺度である Profile of Mood Status 2 において、ネガティブ感情の軽減とポジティブ感情の向上がみられた。メンタルヘルスプログラムでは、怒り—敵意、混乱、疲労、緊張—不安といったネガティブ感情の軽減と、活気、友好といったポジティブ感情の向上においてプログラム前後の平均得点、平均 T 得点の両方とも有意差を認めた ($p < 0.01$)。
- ・主観的健康状態を Visual Analog Scale を用いてプログラム実施前後に測定した。元気、やる気、集中力、リラックス、活力、自信、思いやり、幸福度、心の穏やかさなどにおいて得点の向上を認め、緊張、疲労状態は軽減していた。メンタルヘルスプログラムではその差は有意であった ($p < 0.05$)。
- ・プログラム前後で人生満足度尺度、マインドフルネス尺度 (Five Facet Mindfulness Questionnaire) 得点の上昇傾向を認めた。メンタルヘルスプログラムでは人生満足度得点は有意差を認めた ($p < 0.01$)。

【考察と今後の課題】

上述の結果は、森林セラピーや自然環境での保養滞在の効果、マインドフルネスの効果として先行研究によって示されている結果と一致している。

参加者の感想から森林セラピー・森林浴を行うとともにマインドフルネスを学ぶことは、より知識面より森林セラピーの心身への効果に対する理解を深め、また、体感面より森林セラピーの効用、特に五感を開くことを相乗的に高めることが推測される。また、森林環境の中ではマインドフルな状態になりやすく、マインドフルネスを体感として体験しやすいことも推測される。また、自然とのつながりを感じ、本来の自身の生き方や生活・仕事の仕方、時間の使い方、人との関わり方などについても振り返るきっかけとなった参加者が多くみられた。

2019 年度には本プログラムの追跡調査として、メンタルヘルスプログラムにおいてはプログラム後 8 週間の自己学習とフォローアップセッションの実施、生活習慣病プログラムにおいてはプログラム後 90 日間の体重測定・健康目標の実践とフォローアップの実施を行う予定である。また、今年度の実施結果をもとにプログラムの改善をし、その効果検証も行う予定である。

中小林業地と都市側国産材需要層とのマッチングに関する調査研究

認定 NPO 法人 FoE Japan

〒173-0037 東京都板橋区小茂根 1-21-9-2F

第1章 調査研究事業の目的及び概要

【目的】

中小林業地と、都市側で国産材利用を希望しているが入手困難と感じている層との障壁について、林地訪問および聞き取りを中心に把握し、解消&マッチングすることを目指す。

【背景】

FoE Japan では 2002 年より環境社会に配慮した木材「フェアウッド」の普及啓発、利用促進に取り組んでいる。2015 年からは主に国産材の利用、調達、市場開拓等に高い関心を寄せる層が集う「フェアウッド研究部会」を月次で開催（これまで 40 回開催（2019 年 8 月現在））し、都市側の“国産材”関心層ネットワークとして維持・運営している。

※現在会員数は 130 名。大手住宅、ゼネコン、家具、建築設計、その他業種など多様な業種から参加を得ている。

【問題意識】

フェアウッド研究部会に集う企業の悩みは「国産材の調達は容易ではない」。必要量が限定的であったり、品質、樹種についてリクエストがあったり、“ストーリーのある木材”を所望していたり、とさまざまである。近年は各地で進むバイオマス発電所建設の影響のせいか、原木の材木利用と資源利用とが競合していることにより、都市側からは一層調達が難しくなっている、との声もある。

他方、熱心に林業経営に取り組む中小林業地は少なくないものの、彼らはその森林資源の“出口戦略”に苦慮していると考えられる。

【事業内容】

本事業では、熱心に林業経営に取り組む中小林業地を訪問し、林業経営者、山林所有者、木材加工事業者（またはバイオマス発電事業者）、自治体関係者などへの聞き取りをし、彼らが直面している問題、課題を把握するとともに、都市側から挙げられる要望等についてどの程度対応可能なのか、また彼らから都市側への要望はどのようなものか、を把握することで、彼らの“出口戦略”に寄与、または側面支援をすることを目指す。

【調査研究対象地】

北海道、山形県、東京都、神奈川県、宮崎県を対象に調査研究を実施した。

第2章 調査研究結果

本調査研究において、調査を実施した地域や会合等は以下のとおりである。

表1： 調査研究実施概要

実施日	訪問地域等	備考
2018年 9月19～23日	北海道旭川市、広尾町、大樹町周辺 (訪問箇所) ・旭川林産協同組合主催銘木市(見学のみ) ・NPO法人森林再生ネットワーク北海道(もりねっと)経営管理森林(旭川市) ・(株)北海道ポットラック訪問(旭川市) ・北海道上川総合振興局訪問、道有林視察(旭川市周辺) ・史春林業(株)経営管理森林(大樹町、広尾町)	参加： 三柴、佐々木、 成田
11月14日	(情報収集：東京都) ・(有)テラス社との意見交換	参加：三柴
2019年 1月12日	千葉県大多喜町 ・「房総自伐型林業推進協議会」設立イベント～房総の未来をひらく自伐型林業(参加のみ)	参加：三柴、那須
2月22日	(情報収集：埼玉県) ・NPO法人西川・森の市場との意見交換	参加：三柴、佐々木
4月17日	(情報収集：北海道) ・(株)北海道ポットラック社との意見交換	参加：三柴、佐々木
5月16日	東京都青梅市 ・中島林業 経営管理森林視察	参加：三柴、成田
6月17～18日	山形県酒田市、新庄市 ・サミット酒田パワー(株)視察 ・(株)北越マテリアル酒田工場、新庄工場、原料調達山林(広葉樹林)の一部を視察	参加：三柴、那須
6月20～21日	宮崎県宮崎市周辺 ・宮崎県盗伐被害者の会との意見交換 ・宮崎市内盗伐現場視察(計4箇所)	参加：三柴
6月30日	神奈川県湯河原町周辺 ・Bioフォレストーション(株)所有森林視察	参加：三柴

第3章 まとめ

今回の調査研究では、中小林業地と都市側国産材需要層との具体的なマッチングには至らず、その可能性を検討するにとどまった。他方で各地の森林地域を訪問し、林業経営者に限定することなく、多様な業種に従事する人々と意見を交わすことで各地の課題のみならず、現状の日本全体の課題も見えてきた。

その上で、今回の調査研究の目的である“マッチング”について、まったく可能性がないというわけではなく、その実現に向けた幾つかの条件のようなものもぼんやりと見えてきたことは大きな成果だったと感じている。その条件のようなものを以下に整理する。

まず、ストーリーのある高価格帯での国産材利用に関しては、自伐林家のネットワークに期待をしたい。少量ながら良材を市場を介することなく立木契約等によって、林家への手残りを確保し、且つ川下で国産材利用を望む事業者に対しても現予算の中で対応できる可能性を残すことができる。また全国各地の自伐林家の生産量(ポテンシャル)を統一したデータベース化することができれば、少しずつ市場とのつながりも見えてくるものと思われる。近年、森林・林業界でもEコマースの可能性などについて議論されるケースも見られるため、そうした取り組みに期待したい。

また、複数の自伐林家をまとめて、量のリクエストにも応えられる可能性もあるものと考えられる。しかしながら、その「まとめ役」を誰が担ってくれるのか、自治体職員が望ましいのだが、その職

員のやる気と能力をどう向上させるのか、それも課題として残るところである。

しかし手間をかければ低コスト化は不可能ではなく、その調整の「手間」を公の団体が負担する、つまりは自治体職員の業務として負担してもらう、ということであれば、実現可能性は決して低くないと考える。

表現は一般的ではあるものの、林地に関する情報をいかに市場が使いやすいように整理して、提供できるか、全国各地の自治体や森林組合に分散しているであろう情報をいかにして整理することができるのか、それこそが「国産材」で大規模化をせずとも市場のニーズに対応できる可能性のあるものなのではないかと思われる。

いずれにしても、本調査研究によって得られた情報等は今後の NGO 活動に有意義に活用できるものであり、存分に活用していくとともに、継続して他の地域の状況についても調査研究を実施していくことが重要である。

「中等教育における森林ESD推進のための 環境教育指導者ネットワークづくりに関する調査研究」

特定非営利活動法人 国際理解教育センター

〒114-0023 東京都北区滝野川1-93-5 コスモ西巣鴨105

要 約

本報告書は、中等教育における森林ESD推進のための環境教育指導者ネットワークづくりについての調査報告書である。

調査者である国際理解教育センターは1989年の設立以降、内外の国際理解教育、開発教育、環境教育、人権教育などさまざまな教育の情報を発信するほか、米国の環境教育プログラム Project Learning Tree (PLT) の日本事務局として環境教育指導者養成を推進している。その30年におよぶ取り組みのなかで、学校教育における中等教育段階で環境教育の推進が遅れているという課題に直面し続けてきた。そこで、中等教育における森林ESDの環境教育指導者のネットワークを推進するには何がバリアとなっているのか、そのバリアはどのようにして克服できるのかを探るための調査を行うこととした。

本調査でおこなったのは、(1) 森林ESDや環境教育の指導者ネットワーク構築の課題を探るために、学校教育関係者で森林教育を地域で進めている関係者へのインタビュー、(2) PLTの指導者養成研修を積極的におこなっているPLTファシリテーターへのアンケート調査、そしてそれをふまえて、(3) 中高の生徒や大学生にPLTの指導をおこなっているPLTファシリテーターとのワークショップである。そこから出てきた数々の課題を国際理解教育センターが過去の環境教育の調査でまとめた人材、資金、プログラム、情報、ネットワーク、評価という構造で整理した。

何が森林ESD独自の課題なのかをつきつめていくと、ESD推進の課題、中等教育変革の課題と重なる内容が多く出てきた。中等教育での森林ESD推進が、ESDや中等教育の推進の課題解決になるよう考える可能性が見えてきたということである。

森林ESDで独自といえるのは、森林や里山という場があることである。したがって、森林ESD推進の課題解決は以下の2点である。

- (1) 森林教育、森林保全活動などをESDとして質的に高めるための方策
- (2) 森林ESDの「場」を確保する仕組み

ESDは端的に言えば「価値観」と「コンピテンシー」のグローバル・スタンダードである。しかしこれらの視点が森林環境教育の指導者の共通基盤にまだなっていない。森林ESD推進のためには、指導者自身も含めたあらゆる教育機会、あらゆる対象に対して「未来を生きるための価値観とコンピテンシー」を育てる、ESDteachusALL (Education for Sustainable Development teach us Active Life-long Learning) を徹底することが必要である。そのために、国際的なESDの潮流の中から参考にできるSDGsの関連、教科書への対応のほか各地でESD的視点をもって活動している環境教育指導者の実践をまとめてもらった。

「場」の確保については、森林や里山を教育資源として継続的に活かすには教育関係者だけでは解決できない構造的な課題も多い。本調査で調査したなかでは、河川や水辺など公共の場を活用している実践の方が継続性が高かった。

いままであまり進んでいなかった森林管理の関係者と森林ESD関係者との交流を進めるほか、森林や里山を大学や学校法人が不動産として取得する以外の道が、継続的な場の確保のために開かれるべきである。

「持続可能な地域づくりにおける幼児を対象とした 森林環境教育の意義と役割に関する研究」

公益財団法人キープ協会／都留文科大学 増田直広
〒408-0031 山梨県北杜市長坂町小荒間540

1. 研究概要

1-1. 研究目的

森のようちえんに代表される幼児を対象とした森林環境教育が、持続可能な地域づくりにおいて、どのような意義と役割を持つのか、保育者や保護者への調査を通して検証する。

1-2. 期待される成果

- (1) 持続可能な地域づくりが促進される
- (2) 幼児を対象とした森林環境教育が促進される

1-3. 調査方法

- (1) 文献研究 (7～3月)
- (2) 現地調査 (7～3月)
認可幼稚園・保育園／森のようちえん／子育て支援センター／自然学校／実践者、研究者
- (3) 関連学会等参加 (8月、5月)
- (4) まとめ (4～6月)

2. まとめ

5-1. 持続可能な地域づくりにおける幼児を対象とした森林環境教育の意義と役割

(1) 幼児を対象とした森林環境教育の意義

近年保育や幼児教育に自然体験活動が取り入れられている背景には2つの側面がある。1つめは、幼児の育ちや成長のために保育や幼児教育に活かしていくというもので、直接体験を通して子どもの自己肯定感や生きる力を育もうとする活動である。2つめは、持続可能な社会の担い手を育てていく環境教育としての側面である。

文献や実践事例を俯瞰すると、前者のみもしくは前者に比重が置かれている傾向にある。この分野の自然体験活動が注目されているからこそ、2つの側面を両輪とすることで、幼児期における森林環境教育やその取り組みを通じた持続可能な地域づくりが促進されると考える。

(2) 地域資源を活かした学びを通して地域への理解を深める

高度経済成長期以降、日本の農山漁村（中山間地域）および都市部には過疎化や人口集中に起因する様々な問題が発生している。小田切（2009）は、中山間地域（農山漁村）における諸問題を整理すると、①人の空洞化（人口減少）、②土地の空洞化（土地の荒廃）、③むらの空洞化（村落機能の脆弱化）の3つの空洞化に起因している述べており、そこからさらに深層で本質的な④誇りの空洞化が進んでいることを指摘している。これら4つの空洞化は中山間地域における問題とされているが、一部は都市部にも見られており、特に誇りの空洞化は、中山間地域や都市部問わず日本各地で大きな問題になりつつあると言える。

幼児を対象とした森林環境教育では、自然資源や文化資源、人的資源など多様な地域資源を活用していくことになる。幼児は地域資源を通して地域を見ることになり、そのことを重ねていくことで地域への理解を深めていくことになる。地域への理解は、地域への誇りにつながり、誇りの空洞

化を抑止力となると考えられる。

(3) 持続可能な地域づくりへの貢献

筆者は、持続可能な地域づくりを「環境教育や ESD の要素を持った内発的な地域づくり」と定義している。本研究では「幼児を対象にした森林環境教育は持続可能な地域づくりに貢献できる」という仮説に基づいて調査を行ったが、以下のことから上記仮説は証明できるものとする。

今回の調査では、持続可能な社会実現のための 3 要素である①経済的な貢献（経済開発）、②社会的な貢献（社会開発）、③環境的な貢献（環境保全）から事例を考察した。

①経済的な貢献（経済開発）

- ・園があることが移住につながっている
- ・園で雇用を生み出している
- ・ふるさと納税の寄附対象となっている
- ・地域の食材や業者を使うことで地域にお金が落ちている など

②社会的な貢献（社会開発）

- ・多様な子育て環境作りにつながっている
- ・親同士のつながり作りにつながっている
- ・園の活動に参加することが地域住民の生きがいとなっている
- ・お祭りなど文化資源を活用することが、地域の文化継承につながっている など

③環境的な貢献（環境保全）

- ・地域の美化活動が行われている
- ・使用するフィールドの環境保全活動が行われている
- ・保護者が地域の農家の支援をすることで、農業景観維持につながっている
- ・環境保全金が導入されている など

5-2. 他地域で展開するためのポイント

(1) 地域資源を把握する

幼児を対象とした森林環境教育を推進していくためには、まず地域資源に目を向けていく。自然資源（森、川、海、動植物など）や文化資源（寺社、教育施設、第一次産業、伝統産業など）人的資源（住民、環境教育関連団体、歴史上の人物など）など多様に捉えることが必要であるが、特に重要になるのが人的資源である。自然に詳しい人、文化に詳しい人とつながることで、多様な資源を知ることができるからである。後述するコーディネーターとも人的資源と言える。

それら資源はマップ化したりリスト化したりすると、担当者が変わった際にも活動を継続することができる。これを「見える化」と呼んでいる。加えて、地域資源と幼児とのつながりを作ることも重要である。これを「つなぐ化」と呼んでいる。「見える化」と「つなぐ化」のためには、しくみ（教育、プログラム）や組織、施設（学校、研究所、環境教育関連施設など）があることが必要であり、これらも地域資源として捉えることが必要である。

(2) コーディネーターとの協働

資源を「見える化」し、「つなぐ化」するためには、地域資源や環境教育に精通したコーディネーターとの存在が重要となる。各園や個別の活動にコーディネーターを設置することは難しいが、地域内のコーディネーター的な役割を果たせる人材と協働することで、森林環境教育を推進することができる。今回の調査では、以下の人材がコーディネーターとなり得ることが分かった。

- ・行政職員
- ・公民館の主事
- ・外部指導者
- ・地域内の環境教育関連団体 など

上記以外にも、地域資源を教材や研究の対象としている小中高等学校の教員や大学の研究者、

博物館の学芸員、近年では地域おこし協力隊もコーディネーターとなり得るだろう。さらには地域に詳しい住民、保育や教育に関心を持つ保護者との協働も可能である。

(3) 地域資源の活用と保全をつなげる

今回の調査を通して、幼児を対象とした森林環境教育は、地域資源を活用すると同時に持続可能な地域づくりに貢献できることがわかった。ただし、保育者や指導者がそのことを意識しないことにはその効果は高まらないだろう。

環境教育には、「in/about/for」の考え方があり、特に保全につながる「for」を促す環境教育が求められている。保育者や指導者がこの視点に着目することで、地域資源の活用と保全をつなげることができると思う。

2019 全国木の駅センサス 調査結果要約

兄弟木の駅会議 代表 丹羽健司

〒456-0023 名古屋市熱田区六野 2-7-19-201

2009年12月に岐阜県恵那市で始まった木の駅プロジェクトは、その後鳥取県、愛知県はじめ全国に広がった。今では青森県から熊本県まで広がり、その数は80とも90とも言われている。その普及にあたって私たちは「兄弟木の駅会議」と称して、先行木の駅が後発木の駅をあたかも兄が弟たちを見守るように、弟が兄たちを真似て育つように連携組織を構築してきた。2012年以降は毎年木の駅サミットや木の駅ブロック会議を開催して、互いの情報交換と交流を通じて課題解決を図ってきた。

そこで、木の駅プロジェクト発足10周年を契機に全国の木の駅の実態を詳らかにし、個別の木の駅と木の駅全体が抱える課題を明らかにするため本調査を企画した。

【1】 調査の概要

(1) 調査目的

全国の木の駅の実態把握と課題解明のため

(2) 調査方法

①調査対象

これまで開催してきた木の駅サミットやブロック会議、木の駅ポータルサイトなどに参加したことのある木の駅及びそれらと類した活動を継続している団体。

②調査期間

2018年7月から2019年6月

③調査の流れ

イ. 母集団整備

A：木の駅ポータルサイト、木の駅サミット、ブロック会議参画団体

B：各種情報及びWEB検索

ロ. 調査手法

a：個別直接ヒアリング…アポ取り後訪問して

b：稼働確認…現在稼働の有無、地域通貨等のメール・電話による内容確認

c：地域通貨については、留め置き郵送もしくはメール返送依頼

d：会議での全体ヒアリング

ハ. 実施体制

丹羽健司（兄弟木の駅会議代表）

泉留維（専修大学経済学部教授）

中里裕美（明治大学情報コミュニケーション学部准教授）

ニ. 調査内容

a：ヒアリング…①安全対策②運営③地域づくり

b：メール・郵送…①基礎データ②地域通貨

④経過

2018年7月：母集団整備開始

12月：第7回木の駅サミット開催（広島）

2019年2月：伐木死亡事故発生、近辺のヒアリング開始

5～6月：遠隔地の直接ヒアリング訪問

*直接面談ヒアリング…44か所

⑤結果報告

当初報告会を5～6月に計画していたが、2月に岐阜県恵那市の木の駅メンバー（木の駅活動中ではなかったが）の伐木中の死亡事故があり、ヒアリング内容や規模を見直した。その結果、9月開催予定の第8回木の駅サミット（岐阜県高山市）での報告を持ってかえることとした。

2 中間報告

(1) 対象定義

母集団整備とヒアリングを進めるにつれて、自称他称にかかわらずいわゆる「木の駅」の定義が必要となった。

兄弟木の駅会議として、原則的な木の駅の条件は以下の3点と言える。

- ①実行委員会など自治的な運営をしている。
- ②地域通貨を自主発行している。
- ③間伐促進など森林整備や地域振興に寄与している。

しかし実態的には、①については行政やNPO主導もやむなし、②については地域商品券もやむなし（現金支払い・振込は対象外）、として進めた。

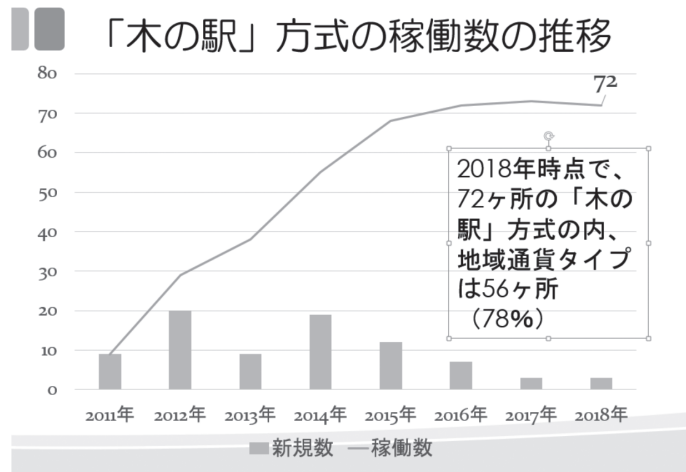
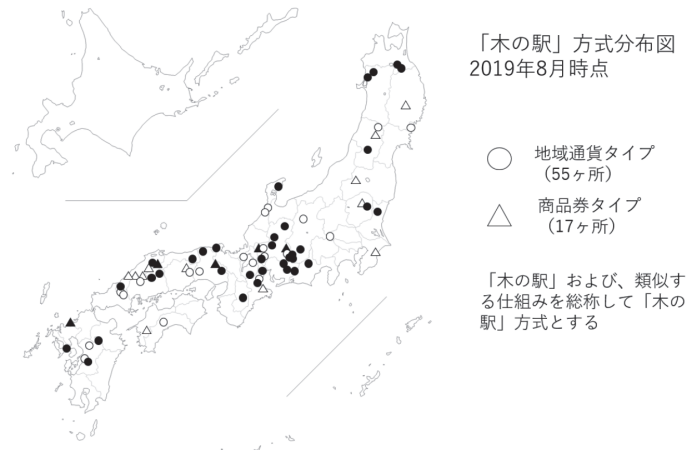
その結果、今回対象となる地域・団体は72件となり、そのうち有効回答は40件（8月末現在）となった。

(2) 分析結果

- ①安全対策…事故は約10%の駅で発生、安全講習は約80%で実施。しかし、保険加入と共にほとんどが任意参加。
- ②運営…寄り合い頻度の減少に伴い行政頼りと形骸化の傾向がある。
- ③地域づくり…寄り合いの頻度が高いほど多様な展開が広がる傾向。共同搬出会方式が増加し活性化にも有効。
- ④稼働数…団体数は漸増も行政主導型が増加。
- ⑤出荷数量…全国で約9000トン、未・無回答を含めると推定約1.5万トン。
- ⑥地域通貨…商品券化・現金化が進んでいる未・無回答を含めると推定約8000万円。

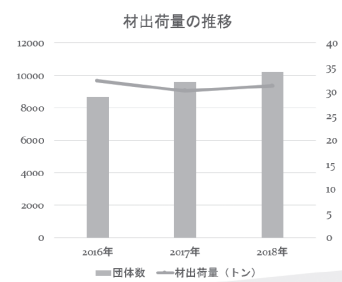
(3) まとめ

今回の木の駅センサスによって全国に木の駅タイプの団体・地域がどこにどれだけあるかがほぼ把握できた。さらに出荷者数・商店数・出荷量などの基礎データや内容、抱える課題や活動の



材出荷量の推移

- 材出荷量について
 - 地域通貨タイプの団体において、年間約9000トンの出荷
 - 最大出荷量は1099トン、最小出荷量は18トン（2018年）
 - 材出荷量の中央値は178.5トン（2018年）
 - 平均出荷量は漸減している



創意工夫がおおよそ明らかになった。

特に懸念していた作業事故の発生は想定よりも少なかったことにやや安堵した。しかし、事故予防のための研修や保険への対策の弱さは今後に大きな課題を残した。

各地で新しく木の駅が発足する一方で、地域通貨から商品券や現金化の動き、会議等の寄り合いの頻度の低下に伴う自治力の劣化・形骸化は進んでいる。メンバーの高齢化と固定化という悩みは尽きない。そこで共同搬出会が自然発生的にはじまりその課題を解決しつつある。

また、チップや燃料にするだけでは切ないという声に、12月の広島木の駅サミットで提起された額田木の駅における枝打ち高級材のフェアトレード実験、高山市木の駅での地域通貨活用の取り組みは、地域活性化に連動し今後の木の駅の活動に大きな希望をもたらした。6月の岐阜会議では死亡事故の悲しみを共有した。

今回の木の駅センサスは、10年間の木の駅の集大成とも言える。9月の第8回木の駅サミットでの発表とディスカッションを通して今後の発展につなげていきたい。

森林環境教育プログラムの開発に係る調査研究

公益社団法人 島根県緑化推進委員会

〒690-0886 島根県松江市母衣町55番地 島根県林業会館内

1 目的

島根県内の小中学校に「森林環境教育」が授業の一環として取り入れられ、「緑の少年団」の結団に結びつくよう、啓発活動や啓発資料作成を行う。また、幼児期における森林環境教育の推進に向けた検討を行う。

2 実施内容

(1) 森林等を活用した体験活動の充実に yönelik 調査研究

「緑の少年団」未結団校に対し、体験型の森林環境教育である「出前講座」の試行事業を実施し、「森林等を活用したE S Dの推進に向けた検討会」において、その評価検討に併せ、今後の取組方向等について調査研究を行った。

ア 検討会の開催状況

①開催回数 1回

②調査研究内容

- ・「出前講座試行事業」についての評価検討
- ・「出前講座試行事業」の継続の検討
- ・「出前講座」実施校の増加に向けた働きかけの検討

③検討結果

- ・「出前講座試行事業」について、効果が高いと思われるため、次年度も継続実施する。
- ・学校教員に対し、「出前講座」実施に向けたわかりやすい啓発資料の作成を行う。

イ 出前講座試行事業の実施

- ・緑の少年団未結団校4校への出前講座の試行を実施し、2校が新規結団となった。

ウ 啓発資料の作成

「身近な自然に触れ合える出前講座」を700部作成し、県内全小中学校に配付した。

(2) 幼児期における森林環境教育の推進に向けた調査研究

近年、幼児期における森林等の自然環境を活用した教育や保育の実践事例が増加していることから、小中学校における緑の少年団活動につながるような幼児期での森林環境教育の実施に向け、「幼児期における森林環境教育の推進に向けた検討会」を設置し、調査研究を行った。

ア 検討会の開催状況

①開催回数 3回

②調査研究内容

- ・県内外の取組事例の調査
- ・幼児期における森林環境教育の推進方策

③検討結果

- ・県等との連携により、幼稚園、保育園に対する森林環境教育に係る研修の実施や的確な情報の提供が必要である。
- ・園庭や園周辺の森林等の環境整備が必要である。

3 平成31年度の取組方向

(1) 森林等を活用した焼酎が校での体験活動の充実に yönelik 検討

平成30年度に作成した「出前講座」パンフレットを活用し、体験型の森林環境教育である「出前講座」の実施について緑の少年団への働きかけを強化する。

また、「出前講座試行事業」を継続することにより、緑の少年団を結団していない小中学校に対し、結団の働きかけを行う。

これらの取り組みを評価検討するための検討会を継続設置する。

(2) 幼児期における森林環境教育の推進に向けた検討

幼稚園、保育園職員向けの研修会開催に向け、県教育委員会、健康福祉部等との連携を進める。

また、幼稚園、保育園での森林環境教育の実施に向け、さらに検討を進めるため、検討会を継続設置する。

適切な再造林のための下刈り省力化研究事業

諸県の下刈りを楽にする会

〒 885-0055 宮崎県都城市甲鈴町 5085

1. 事業実績

事業の目的及び概要	宮崎県は、本格的な再造林時期にあるが、諸県地域は宮崎県内で最も再造林率が低い。その原因は、再造林したくても植林・下刈りをする林業作業者が減少していることである。 このため、既存の農林業機械を改良し下刈りを省力化と下刈り作業の過酷さを低減に寄与する。
事業実施状況	都城森林組合と宮崎中央森林組合、西諸地区森林組合及び（株）農業キングが主体となり、合同かつ自力で、平成30年6月に宮崎県の林業普及指導員も交えて、改良前の管理機で実証試験を実施した。 その結果を基に、管理機の草刈り高を高くするとともに、走行性を向上できるように改良した。 改良が終えた9月に、県林業普及指導員を交えて改良管理機での実証試験を会員全員で実施した。 その後、3組合が女性、初心者、熟練者などに現場で作業してもらい、さらなる改良点を検証するとともに、傾斜・繁茂度別の1日当たりの功定を調査した。 調査結果としては、傾斜15度以下であれば草刈り機（ビーバー）の2倍程度は、下刈が可能であることが分かった。また、森林では切り株などがあるため、刈り高は15cm以上が良いことも分かった。
実施場所	宮崎市、都城市、小林市の民有林
参加人員	実施主体30人、行政12人
事業の実施による波及効果	下刈り作業は、ビーバーでないといけないという固定観念を払拭することの足掛かりになるとともに、畦用の自走式草刈機や牧草などを刈り取るモアについても、自力で試験した。 また、県職員も調査や実証試験に参加したことから、他の事業体への波及も予想以上にできた。

要 旨

1 研究の必要性等

宮崎県内において地形が比較的穏やかな大淀川流域は、宮崎県内でも皆伐・再造林が先行しているが、極一部の素材生産業者以外は、再造林、下刈、除伐などを実施しないことから、再造林や下刈等の保育施業は森林組合が担っていることもあって、大淀川流域の再造林率は50%前後と県平均を大きく下回っている。

再造林面積を倍増させ、下刈を6年間実施すると下刈面積は6倍になることから、再造林率を向上させるには、下刈の省力化が不可欠となっている。

2 省力化・軽作業化が可能な機種

(1) 林業分野

竹伐採用のブッシュチョッパー、重機用ハンマーモア

(2) その他分野

畦刈用の手押し式草刈り機、牧草刈用モア、農業用管理機（小型耕運機）、河川敷など用のリモコン式草刈り機

3 実証試験用の機種を選定結果

選定機種：農業用管理機（小型耕運機）

理由：価格が30万円程度ものからあり、刈り幅も広く、傾斜が20°程度までは林業でも使用可能であること。さらに、自走式であり操作も容易であるため。

4 管理機の改良の内容

前方車輪を19cmから32cmに大きくし、刈り高を高くできるようにした。また、前方車輪の位置を30cm前に出し、操作の安全性を高めた。

5 改良管理機の実証試験結果

(1) 傾斜、技能等による下刈実施面積

	傾斜	繁茂状況	伐根	技能	日面積	作業員
宮崎中央森林組合	5～15	密	有	中	15a～20a	一人親方、65歳以上
西諸地区森林組合	5～10	中	有	上	27a～43a	直営作業員
都城森林組合	0～15	密	有	下	18a～20a	女性作業員

(2) 結果

傾斜が15度未満であれば、作業員の技能を問わず下刈機（ビーバー）より日当たりの実施面積は、2～3倍は可能である。高さが20cm以上ある伐根や石は、乗り越えることができないので、迂回が必要である。

女性や高齢者は、操作練習をある程度実施する必要がある。傾斜が20度以上の個所は、横移動すると横転の可能性がある。

学校・地方自治体等による森林環境教育の実施体制に関する調査

代表者 奥山洋一郎（鹿児島大学農学系）

〒890-0065 鹿児島市郡元1-21-24 鹿児島大学

はじめに

学校教育の中で森林環境教育を実施するにあたって、学校が継続的に取り組む体制が取れるかどうか大きな鍵となる。また、地方自治体等の学校外の主体がどのように協力できるのか、この点も重要である。

学校外の主体としては、林業団体（森林組合、林業事業体等）、都道府県（林務部局、地方事務所等）、市町村（教育委員会、林務部局）、地域団体（入会林管理団体、町内会、自治会等）、ボランティア団体等が考えられる。これらの主体がどのような体制で協力しているのか、また相談・仲介する窓口はどうかになっているのか。

本研究では、森林環境教育を実施するフィールドの管理、利用に焦点を当てて、特に、多くの児童・生徒にとってもっとも身近な存在である「学校林」の利用に着目した。最初に学校林現況調査のデータを利用しながら、学校林の利用を規定する要因についていくつかの要素との間の関連を考える。

利用しやすい学校林とはどのような森林なのか、それは自然条件だけではなく社会条件も関わる問題である。

森林環境教育実施を規定する要因

森林教育を実施するにはフィールドである学校林の管理、プログラムの実施にあたって学校外の主体との連携が重要であることが明らかとなった。しかし、学校が学外の主体と連携を取るのとは簡単ではない。そこで、学外主体と連携を取るための何らかの相談・仲介窓口の存在が必要となる。支援・連携があるからと言って、必ずしも全ての学校林が利用されているわけでない。ただ、支援・連携の内容は利用だけではなく、整備・維持管理についても支援が必要である。現在は学校林の利用がなくても、将来利用する機会があった時に安全に活動できる状態に維持していくことは重要である。そのためにも、学校と学外主体と結びつけるための相談・仲介窓口の効果は高く、学校と地域、林業団体の継続的な連携が可能となる方法を考えていくべきである。

森林環境教育実施体制の事例

<国有林>

国有林では森林官教育のフィールドとして「遊々の森」を展開している。同制度においては、じっさいに「遊々の森」を利用する活動実施者と、森林管理署等と協定を取り交わす協定締結者が必ずしも一致している必要がない。そのため、協定締結者がコーディネータ役となって多数の団体・個人に「遊々の森」を利用させるということも可能であり、状況におうじて様々なかたちの実施体制を組めるようになっていく点が特徴的で、森林管理署等による支援体制の構築が重要となる。

石狩地域森林ふれあい推進センター（北海道森林管理局）は北海道森林管理局庁舎内に存在しており、北海道最大の都市である札幌市及び周辺地域の住民に対して、森林教育の機会を提供している。札幌市の水源林である定山溪国有林において地元の小中学校と森林官教育活動を実施していた。同活動は年間5回にわたって実施されるもので、専門家による指導（ソフト）と国有林の場の提供（ハード）と手厚い支援が実施されていた。

<地縁団体>

岩手県盛岡市では、小学校・中学校の3校が合同で地縁団体と連携した学校林活動を実施してい

た。複数学校が合同で支援主体と共同するのは全国でも珍しい。3校は合同で学校林での作業「学校林を育てる会」を毎年9月に開催している。代表は以前の小学校PTA会長であり、事務局を各学校の持ち回りで担っている。活動に参加しているのは、各小学校の児童生徒・教職員、保護者、盛岡市、土地所有者などである。なお、学校林の所有者は、旧入会林野の管理組織を株式会社化した組織で、盛岡市東部に350haの森林を所有している。盛岡市と分収林契約を結ぶ形で、学校が利用できるようにしている。学校林設置は地域に学校ができたので学校の基本財産、教育に利用できるようにと団体の役員が市に提案して、数年がかりで実現させたものである。

<ボランティア団体>

札幌市が管理する森林を「小鳥の村」として、学校が自由に利用できる学校林としている。その利用にあたって、森林ボランティア団体が全面的に協力していた。同校はボランティア団体の協力を得て活発な森林環境教育を展開しているが、(1)熊の出没による安全管理の問題、(2)ボランティア団体のメンバーの高齢化、が課題となっており、これらを解決するための方策を検討する必要がある。学校側からは、国有林野・都道府県の林務部署のOBを紹介する制度や国がボランティア団体を支援する制度の充実が要望された。

おわりに

事例調査では、国有林の遊々の森、ふれあいセンターの支援活動、地縁団体との連携、ボランティア団体との協力により森林環境教育を実施する可能性を考察した。各事例共に、学校が行う森林環境教育に対して、森林・林業に関わる側が継続的な支援を行うことで、教育活動の実施を可能としていた。森林環境教育は学校が単独で実施するには安全管理も含めて専門性が要求されるため、このような学外主体との関係を広げていくことが重要となる。今後の研究課題として、市町村が主体となった事例についてさらに情報を集める必要がある。森林環境譲与税の導入等もあり、今後は市町村林政の役割が重要となっていくと予想されるので、継続して情報収集を続けていきたい。

表一3 対象者の概要
(母集団整備時とヒアリング結果混在)

	n=74		
	平均	最少	最大
年齢	42	22	54
就業年数	22	4	31
林業就業年数	13	4	31
現事業所年数	11	1	27
他産業年数	9	0	26
地元(%)	25	-	-

表一4 手持ち調査シートの項目

氏名、年齢、同居家族、林業就業歴、出身地、経歴、住居、職場入りのきっかけ、賃金形態、機械、消耗品の扱い、雨降り作業、技術習得法、教えるワザ、保有資格、保有機械、自己実現とは、森林組合の任務、行政に一言、中堅離脱者の推測動機、中堅離脱への共感、離脱防止策、やめたいと思った瞬間、やってよかったと思った瞬間、きこり祭り等の交流

活動基盤整備

尚綱の森を創る「里山再生プロジェクト」

学校法人 尚綱学院

〒981-1295 宮城県名取市ゆりが丘4-10-1

1. 活動の概要

学校法人尚綱学院はキャンパス周囲の山を地域社会全員の公共財とし、約20万㎡の森を5区画(A～Eゾーン)に分け、5年周期で恒常的に整備し、「尚綱の森」として再生させるプロジェクトを2016年4月に立ち上げました。里山化し、地域社会の人々が日常的にそこに立ち入ることによって、自然を身体と心で体験しながら、「自然との共生」の素晴らしさを感じ、地域社会が豊かなものになることを目的としています。

現在、「森でコミュニケーションしよう」を活動コンセプトに、NPOや市民ボランティア、地域住民、学生・生徒や教職員など、参加者のみなさまと共にアイデアや意見を話し合い、森づくりを通じた参加者同士の交流・コミュニケーションを大事にしながら、毎月第2土曜日の定例活動(A～Eゾーンの森林整備、広場づくりなど)を行っています。

2. 活動の成果

＜今回の活動で得た成果＞

今回の助成金を活用させていただき、安全な整備活動の実施に向けたアドバイザー費用および保険費用、勉強会の開催や、広報の充実に向けた年間活動リーフレットの作成など活動の基盤整備をすることができた。

具体的には、活動を広く知ってもらうことと参加者を増やすための広報を自分たちで担えるよう講師を招いた勉強会を実施し、活動の見せ方を検討した結果、活動場所である里山の生き物を紹介するポスターを作成した。

今後、紹介内容を充実させ図鑑を作成する計画である。また、より主体的に学生を関わらせるよう役割分担を工夫したり、ワークショップを通して学生や一般参加者の意見交換を促したりした。まだまだ立ち上げたばかりのプロジェクトであるため、引き続き次年度も安全管理体制の強化と活動内容を充実させるための基盤整備、広報体制の強化を行っていききたい。

＜これからの取り組み＞

切った木や枝など(バイオマス)の利活用を考えたり、森の散策を楽しめるような工夫(植物や散策路の案内作成、見晴らし台の作成など)をしたり、ツリークライミングなどのアクティビティの実施を計画しています。これらの森の楽しみ方を参加者で考え実施していくことだけでなく、この活動の影響を参加者の視点で観察していきます。さらに、里山整備が動植物に与える影響や、森林微気象への影響を学術的な視点で調査研究していくことにしています。

3. 参加者の声

活動に参加し始めて1年になります。夏は汗だくになって蚊に刺されへトへトになりますが、森の中の涼しさや心地よさを感じることができ、植物の生命力を実感します。プロジェクトに参加していて一番楽しいことは、活動中に生きものを見つけることです。尚綱の森には様々な生きものが生息していて、森を整備しているとカエルや大きなナメクジ、ヘビの赤ちゃんに手に収まるぐらいの可愛いネズミなどが見付き、その度にびっくりさせられます。そして何より、こうした生きものたちが生息する環境を自分たちが整えているのだと実感することができ、毎月の活動がより一層楽しいものとなっています。冬は寒さにめげることもありますが、昼食に外で食べる芋煮はとてもおいしく、春の芽吹きや秋の実りなど、四季を感じながら今まで知らなかったことを1年を通して楽しくたくさん学ぶことができました。この楽しさを後輩や地域の人たちにも伝え、参加者を増やしていきたいと思います。(環境構想学科学生・2年生)

実績報告とりまとめ表 (2018年7月～2019年6月)

実施時期	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	合計	
事業内容	整備活動①	20	—	19	13	20	15	—	14	17	24	18	—	160人
	整備活動②	10	—	7	9	9	6	—	7	10	—	12	13	83人
	勉強会 報告会	—	—	—	—	—	—	—	—	6	—	—	—	6人
	体験会	—	—	—	45	—	—	—	—	—	—	—	—	45人
合計													294人	
実施場所	宮城県名取市ゆりが丘 4-10-1													

留学生と日本の大学生を対象とした森林環境教育プログラム

特定非営利活動法人 Peace Field Japan

〒101-0051 千代田区神田神保町 1-40 豊明ビル 301

1. 活動の概要

外国人留学生と日本人大学生が、森林保全活動と森林を含む里山地域の文化や直面している課題にふれる体験を通して、森林の価値と大切さを学び、森林や里山地域の環境保護のためにできることを考え、実践するきっかけを作ることを目的とし、11月17-18日の二日間、山梨県小菅村において体験ツアーを行った。

1日目は、ガイドツアーの形で集落を歩き、里山の暮らしが周囲の森林と密接につながっていることや課題に直面している状況を実際に見た後、里芋の収穫体験を行なった。また、日本の森林の現状と森林保全のあり方、里山地域の価値や課題についての講義を行った。森林の定義、機能、役割、保全の仕方、また、里山地域の文化的意義、過疎化への取り組みなど、日本の森林や中山間地についての知識を得た。

2日目は、森林の除伐作業を行い、森林保全活動の必要性、方法を学ぶと共に、予定していた範囲の森の手入れ作業を完了できた。森の手入れが大変な作業であるということを実感できた。郷土料理作り体験では、地域の環境と密接にかかわっている地元の伝統食ほうとうについて学び、ほうとうに入っている野菜が、森の落ち葉を利用した腐葉土で育てられたものであること、森の木を使って栽培されたしいたけや、森で採られたきのこであることなども村の方から説明いただき、里山の森の恵みのありがたさを感じることができた。また、間伐材を使い、箸作りを体験し、間伐材を利用することが森を守ることにつながることを学んだ。

最後に、二日間の体験から学んだこと、その学びを今後どう活かしていきたいか共有した。

2. 活動の成果

留学生と日本の学生が、日本の森林と里山地域についての基礎的な知識を得ることができたと同時に、手入れが必要な森で除伐作業を体験することで、人の生活を支えている森を守ることが必要であり、それが水資源を守ることにもつながっていることを学んだ。

参加した留学生の数人は、森林工学や農業を専攻しており、自国の森林や農業の状況について専門的知識があることから、意見交換では、それぞれの国の状況についても共有され、深い議論につながった。また、参加後に、早速奥多摩での森林管理作業ボランティアに参加しており、今回の体験が、実際の森林保全に関わるきっかけとなった。

野菜作りの様子を見せていただいたり、実際に収穫作業もさせていただいたことで、村の方々の自然への感謝の気持ちや、思いを感じることができた。自分が森林管理作業や畑仕事を体験したからこそ、その大変さも実感し、自分の日々の生活を見直したいという声も多かった。また、持続可能性という視点での考察もされ、森林がある過疎地域にいかに関わりを持つか、という“持続可能な観光”の必要性も議論もされた。

今回体験しなかったことをさらに体験したいと、指導いただいた村の講師の連絡先を聞く留学生もおり、継続した関わりを持つきっかけにもなった。森や里山の環境を守る取り組みに貢献する学生たちが増えることを期待したい。国内外の若い世代に、里山の暮らしや森にふれ、考えてもらい、次につながる機会を提供することができたのは、大きな成果だったといえる。

3. 参加者の声

- ・ 森の手入れが大切なことを学んだ。土砂災害や獣害を防ぐためにも、森林を健康な状態に保たなければならない。とても大変な作業なので、過疎化が進む地域では難しい。木を切って利用することで、日本の森が健康になると知ったので、木のモノを使っていきたいと思う。
- ・ 普段、森に入る機会はなかったが、数時間作業をただけでも疲れてしまい、森の維持管理がい

かに大変なものかがわかった。若い人が多く関わる必要があると思うので、どのように若者を呼べるのか考えていきたい。

- ・自分が飲んでいる水が小菅村の森から流れてくるものだと知り、村の人たちが水を守っている取り組みが印象に残った。
- ・日本の森林を取り巻く状況は、アマゾンの熱帯雨林の状況と違うことを知った。
- ・普段都会では感じられない自然を感じたり、田舎ならではの美味しい野菜を食べたりし、初めて気づくことが多かった。
- ・今回学んだことは、日本だけではなく、フランスでも起きているので、自分のこと化して考える必要があると思った。

実績報告とりまとめ表

実施時期		11月17日	11月18日	計	備考
事業量 又は 事業内容		集落オリエンテーリング 森林・里山講座	森林保全活動 郷土料理作り体験 間伐材を使った箸作り体験		
参加者数	県内	0人	0人	0人	
	県外	33人	33人	66人	
	計	33人	33人	66人	
実施場所		山梨県小菅村			

「子ども樹木博士」実施団体の拡大・ネットワーク化の推進

子ども樹木博士認定活動推進協議会

〒112-0004 東京都文京区後楽 1-7-12 林友ビル 6 階
(一社) 全国森林レクリエーション協会内

1 活動の概要

子ども樹木博士認定活動の実施団体の拡大等により「子ども樹木博士」活動の一層の推進を図るため、本活動の実施状況や実施団体のデータの取りまとめ、教材や認定証等の配布・提供、機関誌の発行・配布、インストラクターの紹介、交流会の実施、ホームページの更新等を行った。

2 活動の状況・成果

(1) 子ども樹木博士認定活動の実施状況

実施団体からの報告から、延べの実施回数・参加者数は35回・約8百人、地域ごとでは16都道府県、27団体による実施となっている。

(2) 子ども樹木博士認定活動の実施団体

平成12年度以降に実施報告のあった団体等は、累計で44都道府県・331団体となっている。

(3) 認定証等の配布・インストラクターの紹介等

認定証や樹木ガイド、その他の参考資料を配付するとともに、インストラクターの紹介等を行った。(認定証の配布：約876枚、樹木ガイドの配布：195冊)

(4) 「みどりとふれあうフェスティバル」に出展

平成30年5月11日(土)から12日(日)に東京都の日比谷公園で開催された「みどりとふれあうフェスティバル」に交流会を兼ねて出展した。来場者を対象に子ども樹木博士認定活動を実施した。この他、ブースに立ち寄った多くの来場者に対し、子ども樹木博士認定活動のプログラムを紹介した。

(5) 機関誌の発行・配布、ホームページの充実等

機関誌「子ども樹木博士ニュース」を年4回(9/1・12/1・3/1・6/1)発行(1回当たり約850～900部)し、会員や実施団体、都道府県、森林管理局・署、関係団体等に配布するとともに、ホームページの更新等を行った。

(6) 新たな実施団体の掘り起こし

ホームページや情報誌「子ども樹木博士ニュース」などを通じて照会のあった団体や資料請求のあった団体等に対して、冊子「認定活動の進め方」、パンフレット「子ども樹木博士のすすめ」などを配布し、実施団体の拡大に努めた。

「森から学ぶ」森林を活用した環境教育（森林 ESD）の推進

公益財団法人 Save Earth Foundation
〒144-0043 東京都大田区羽田 1-1-3

1. 活動の概要

当法人(SEF)が長野県東御市と保全協定を結んでいる市有林「東御の森」(溪畔林/里山)を活用し、森林 ESD 推進を目的とする森林環境イベントとして、生物多様性や森林機能について学ぶ自然観察会を計 3 回実施。5 月・10 月は森の散策、2 月は東御市中央公民館において、スライドによる森の生きもの紹介の他、顕微鏡による種子(タネ)の観察を企画、いずれも生き物同士や森の環境とのつながりへの理解を促すようこころがけた。また森内を流れる所沢川河畔を活用し、市内で幼児の里山体験活動を実施している団体と連携し、幼児・親子を対象とした体験プログラムを今年度新たに試行した。

※ 2019 年 5 月実施のイベントは、グリーンウェイブ 2019 にも参加登録した。

2. 活動の成果

東御市民等が、楽しく交流しながら生物多様性や森林生態系について学ぶ機会を提供した。配布資料やスライド資料に森内で撮影した写真を使用したり、クイズ形式を試みるなど、幼児でも興味を持てるような工夫をした。企画が定着しつつあり、今後も東御市(農林課)、自然活動を実施する団体、市内で幼児対象の里山探検事業を実施する団体等と連携し、市民の森林・緑・水に対する理解を深めるための普及啓発に繋がるプログラムを提供する。

3. 参加者の声

- ・子供にとって、様々な年代の市民の方と関わったり一緒に学べることは、とても良い機会だと思います。騒がしくなってしまった時もあるかと思いますが、貴重な時間をありがとうございました。森を自然を、楽しんで大切にしたいと思います。
- ・「東御の森」について、地元の私たちが知らない。もっと知る努力をして、遊んでいきたい。
(参加者のアンケートより)

実績報告とりまとめ表

実施時期	9月9日	10月20日	2月22日	5月19日	計	備考
事業内容	幼児親子おさんぽ会	第1回観察会	第2回座学	第3回観察会	4回実施	
参加者数	県内	29人	19人	25人	17人	90人
	県外	0人	0人	0人	0人	0人
	計	29人	19人	25人	17人	90人
実施場所	長野県東御市					

学生と地域住民の両方を対象とした総合的な環境学習・ESDのフィールドとしての「ソフィアの森」の整備

上智大学大学院 地球環境研究科
〒102-8554 東京都千代田区紀尾井町 7-1

1. 活動の概要

助成を頂き自然観察を行なっている地域のNPOと協働して、大学院生が協働で実施するフィールドを整備させ自然観察イベントを実施した。現在までの活動を進化させ、大学院生のみならず地域の子供達や地域住民の環境意識の啓発に貢献できるような場への発展を目指すと共に歩道や広場の整備などを継続している。

2. 活動の成果

上智大学大学院生、教員、環境専門家、地域NPO、森林管理署職員、森林組合職員と共同で、自然生態系の観察、生物多様性の増進活動、森林体験活動など総合的な環境学習・ESDを目指しフィールドの整備を長野県軽井沢町浅間山国有林で行った。具体的には、歩道・広場の整備、森の観察昆虫生息調査、地域のNPOとの協働による自然観察イベントの実施、森林保全の教育活動などを行った。

3. 参加者の声

参加した上智大学大学院地球環境研究科の留学生からは日本の森林を体験する貴重な機会となったと共に、森林保全について授業で教わっている内容を実際の森林で学ぶ機会にもなったという声が聞かれた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	10月27日	5月24日	計	備考
事業内容	森の整備、自然観察、専門家による講義、自然と環境に関する調査	森の観察、動植物の生息調査、専門家による現地講義		これ以外にもソフィアの森において小規模の活動を行なっている。
参加者数	県内 県外 計	15人 25人 40人	20人 25人 45人	35人 50人 85人
実施場所	長野県軽井沢町（浅間山国有林）			

木と森の子育て実践とその支援を担う KIZUKI ママ・パパの養成

NPO 法人木づかい子育てネットワーク

〒142-0064 東京都品川区旗の台 6-4-19

1. 事業実施期間

平成 30 年 7 月 1 日～令和元年 6 月 30 日

2. 事業計画

(1) 概要

1) 木と森の子育てプログラム作成委員会の設置

森のようちえん実践者など、自然保育のスペシャリストを招聘し、農林公園内におけるプログラム開発、実践、基盤整備の在り方について 3 回開催し、申請者を含めた 6 名の委員会で効果的な実践に向けた検討を行いました。

そこでの検討をもとに、保育関係者がプログラムを行うときに指針とする、木育指導者養成資料「木と森で遊びこむ 保育における木育実践の視点と保育計画」を作成し、保育者がどのように支援するか、木育の活動をより面白くするための働きかけの視点などを示しました。

- ・実施日及び開催場所：4 月 25 日 浦和市 埼玉県木材協会「Woods ON」にて
- 5 月 26 日 深谷市 農林公園研修室にて
- 6 月 13 日 飯能市 きまま工房・木楽里にて



- ・検討内容を取りまとめた「木と森で遊びこむ木育の実践」(A4/ 12 ページ)を作成。今後これらを使って保育関係者への普及活動を行う

2) 木と森の子育て体験イベント

埼玉県農林公園内において、1 日体験型の木育イベントを開催しました。農林公園内のさまざまな施設、設備に加え、ものづくり、おもちゃ体験などのコンテンツを活用したプログラムを、子育て世代の不父母を対象に実践します。

イベントは農林公園が実施する「農林公園まつり」と併催し、効果的な動員を図ることができました。また、実施にあたっては木育の専門家を招聘し、より魅力的で、教育的な取り組みとなるよう心がけました。

ただ会場とした農林公園の木育ひろばがオープンして間もなかったこともあり、室内での木育体験の可能性を探る必要があったため、今年度は室内でのイベントがメインとなりました。自然保育者を招聘しての屋外イベントは次年度への課題となりました。

- ・実施日：8 月 4、5 日、9 月 22、23 日、10 月 13、14 日、11 月 3、4 日
- ・実施時間：9:00～17:00
- ・来場者数：約 1200 名
- ・木のジャングルジム「くむんだー」体験者数：255 名、

●木と森の子育て体験イベント実施状況



3) ボランティア養成講座 (KIZUKI ママ・パパ養成セミナー)

木と森の子育て体験イベントと同時に、農林公園における森のようちえん活動に協力して下さるボランティアの養成講座を開催しました。自然保育の意義と公園内の施設の効果的な利用方法を理解したボランティアの養成は、森づくり、木づかいの普及にもつながるものです。今回は、近隣で子育て支援を行う団体にも声をかけ、木育についての知識を持っていただくことにより、より積極的な子供たちへの木育のかかわりを働きかけることができました。

- ・実施日：8/4、9/22、10/13
- ・実施時間：10:00～12:00
- ・参加者数：23名

●ボランティア養成講座



冒険の森再活プロジェクト

認定NPO法人 えんがわ

〒 923-1111 石川県能美市泉台町中 218

1. 活動概要

等法人は、地域の高齢化及び日常生活困難な人たちを助けるための法人であります。その延長線上で、1988年に寺井町が整備し冒険の森が、11年も前から整備されておらず雑草、樹木が生い茂り、近年は荒れ放題になった公園を蘇る事業であります。実績状況は写真参考にしてください。

2. 活動成果

ハーブについては成長せず失敗に終わりました。雑草が強く土も適正でなかった様でありました。しかし山紅葉は順調に生育しております。

整備が進むに揺れて高齢者の散歩するのが増加しております。子供たちは当初の予定より利用者が少ない結果となっております。今後とも整備を中心に作業を進めます。

3. 参加者の声

参加者数では107名参加してありますが、2/3の人達は、当法人のボランティアスタッフと登録された人たちであり、一般市民の参加者が少なく、これから市民の人達に根気よく働きかけたいと思います。

実績報告とりまとめ表（2018年7月～2019年6月）

実施時期		4月	5月	6月	8月	10月	1月	計	備考
事業量 又は 事業内容	木の伐採、草刈り	4人		4人	4人	4人		16人	
	大木の伐採		42人					42人	
	山紅葉植え			8人				8人	
	ハーブ茶植え						5人	5人	
	草刈清掃(2019年 3月、6月)							16人	
	年間見守り							20人	
事業者数	県内	4人	42人	12人	4人	4人	5人	107人	
	計	4人	42人	12人	4人	4人	5人	107人	
実施場所		石川県能美市泉台町 冒険の森							

うじゅうの森 子育て・森育て 東屋プロジェクト

NPO 法人 子育て支援センター ちびっこはうす

〒407-0015 山梨県韮崎市若宮 1-2-50 韮崎市民交流センター ニコリ3F
 韮崎市子育て支援センター にはちび 内

1. 活動の概要

親子で森の手入れ・整備を体験する。その中で、将来的に東屋を作ることを念頭に置き、そのプロセスである、①木を倒す（伐倒）⇒ ②倒した木を材にする（製材）⇒ ③材で物を作る（今回はベンチ・作業台兼椅子）、という過程を体験し、森林利用の一連の流れを知り、森の木がどのような形で自分たちの生活に関わっているのかを学ぶ。また、枝打ち作業で必要な木登り（クライミング）を体験する。

一連の活動を通じて、親子が森に足を運ぶ機会を増やし、地域の森林環境に対する理解を深め、環境教育・環境保全の重要性に対する意識を高めるきっかけを作ることを目的とする。

2. 活動の成果

各回とも単発参加も受け入れたが、実際には活動初回から連続して参加してくれた親子が多く、一連の作業の流れを体験してもらうことが出来た。子どもたちも、森が身近な物になり、積極的に活動に参加するようになった。大人もそんな子どもたちの姿を見て、より良い森林環境を次世代に受け継いでいく事が大切であり、そのための森の手入れや整備の必要性を感じている様だった。今回の意識付けをきっかけとして、今後も多くの親子が継続的に森の手入れや整備に関われる環境を提供しながら、「子育て・森育て」のフィールドを整備していきたい。

3. 参加者の声

- ・森の木を倒し、製材し、それが物になるまでには多くの手がかかっていることが実際に体験してよくわかった。これからは、木でできている物を見たらその事を思い出して、大切に使いたい。
- ・木を伐ると言っても、伐った後の森のことを考えてどの木を伐る、どの木を残す、と考えているんだと知った（間伐に関して）。森の手入れの大切さはそこなんだなと思った。
- ・森林を守るということは「木を伐らない」「手を入れない」いうことではなく、適切に「手を入れる」ことで環境を整えることが必要なんだと知った。

実績報告とりまとめ表

実施時期		11月16日	12月23日	1月13日	2月3日	3月31日	4月21日
事業量 又は 事業内容	伐倒 製材 製作 クライ ミング	8組	6組	①12組	②6組	①4組	②8組
参加者数	県内	41人	24人	46人	21人	8人	16人
	県外	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	計	41人	24人	46人	21人	8人	16人
実施場所		山梨県韮崎市藤井町南下條字坂上 770. 777, 780					

伐木造材の安全講習会と森林資源活用のしくみを考えるワークショップ

特定非営利活動法人 まめつてえ鬼無里
〒381-4301 長野市鬼無里 1657

1. 伐木造材安全講習会の実施

開催時期：平成30年11月23日（金）～25日（日）の3日間

講師にフォレストデザイン代表の余頃友康氏（森林インストラクター、林業技士、林業作業士、森林整備業務専門技術者）を要請し、労働安全基準衛生規則第36条第8号に準拠した安全講習会を実施した。受講者は20名。



チェーンソーの目たて



チェーンソーの基本の使い方



丸太にて受け口、追い口練習



山林での伐倒講習



山林での伐倒講習



チルホールによるかかり木の処理

2. 森林資源活用のしくみを考えるワークショップ

開催時期：平成30年7月19日、12月23日 平成31年3月24日の3回実施

最終日の3月24日は薪の原木の買取り受け入れを実施。約5立米の原木が集まった。



**身近な森や里山など地域の自然環境を活用した
「森のようちえん にじっこ」を立ち上げ運営する。
森林 ESD の講座、指導者養成講座の実施**

森と自然の楽校 きいわ
〒391-0213 茅野市豊平 7915

1. 活動の概要

- ・自然環境と関わり、子どもたちが興味の世界を広げ、工夫する力や考える力を育む。子どもがまんなかにある地域コミュニティ作り。
- ・NEAL リーダー等指導者講座の実施。
- ・市民参加の森育・木育を学ぶ ESD 講座を開催し、活動の啓発や支え手を増やす。
- ・運営に当たってリスク対応など含めチームビルディング講座を実施する。

2. 活動の成果

- ・子どもたちにとって森は豊かな遊び場であり体験の場になることを「森のようちえん」の立ち上げを通して取り組んだ。NEAL リーダー養成講座や ESD の講座に森林づくりをされている方にも参加いただき、森や自然を生かすという視点を共有することができた。身近な森や自然環境を意識して暮らすことこそが活動の核、長い目で活動を続けていきたい。

3. 参加者の声

- ・身近に自然環境はあるが入ってはいけなかったり、大人が関心がなかったりすることで、子どもたちにとって自然体験の機会は少なくなってしまう。直接体験することでしか学べないことがあるので、森を生かすこと、その担い手の一人になっていきたい。
- ・NEAL リーダーは以前から興味があり、受講することができ有意義だった。

実績報告とりまとめ表

実施時期		4月7日～ 3月16日	1月19日	2月2日	3月2日～ 3日	3月30日	計
事業量 又は 事業内容		森のようちえん事業	チームビルディング	チームビルディング	NEAL リーダー 養成講座	森林 ESD 講座	
参加者数	県内	延べ 800 人	13 人	13 人	17 人	20 人	863 人
	県外	0 人	0 人	0 人	1 人	0 人	人
	計	延べ 800 人	10 人	10 人	15 人	10 人	人
実施場所		長野県 茅野市・町					

ぎふ森のようちえんリレー交流会

ぎふ森のようちえんリレー交流会実行委員会
いび森のようちえん こだぬき
〒503-2318 岐阜県安八郡神戸町瀬古 210

1. 活動の概要

県内の実践団体が連携し、研修と各団体の強みを活かした相互学習を通して成長し、2年後の「森のようちえん全国フォーラム」開催に向けて気運醸成とネットワーク拡大を図る。

2. 活動の成果

県内の団体が助け合い、講座を開催したことで、団体同士のつながりがより深まり、今後も支えあい、交流したいと考えました。また、全国フォーラム開催を契機に、県内での自然体験活動への理解を深め、各団体も発展・成長したいという思いが強くなり、2019年3月に「ぎふ 遊びと育ちネットワーク」を設立するに至りました。

今後も、森のようちえん実践者を中心とした自然体験活動や子どもの主体性を大切にした遊び場づくりに関わる人達の輪を広げ、そのつながりを通じて、子どもたちの遊びと育ちを支えて行きたいと考えています。

3. 参加者の声

- 他の園の様子、保護者の思い入れや関り方、経験談など知りたい情報が満載で、とてもためになりました。
- 今までリスクマネジメントについてぼやっとしていたものが、講座を受けて何をすればよいか明確になった。
- リスクマネジメントがとっても大事だと思っていたところタイムリーだった。
- 視点が身体からの気づきで、目からウロコでした。
- いっぱい笑って、共感して、心にしみた。笑いあり涙あり、本当に幸せな気持ちになった。
- 森のようちえんに関して興味が深まった。どうして森にでかけるのか、という深い視点で森のようちえんをとらえることができた。

実績報告とりまとめ表

実施時期		11月30日	12月17日	12月18日
事業量 又は 事業内容		「公開保育&交流会」 午前は、森のようちえんを実際に見学。午後は2団体の事例発表と保護者も交えた交流をした。	「野外体験活動によるリスクマネジメント基礎講座」 野外体験活動において必要なリスクマネジメントの知識を学び、現場で実践するためのノウハウを学ぶ。	「リスクマネジメント上級講座」 『安全管理マニュアルを作成する』というゴールに向けて、多くのリスクに気付く、気付いたリスクを共有する等の方法を学び、現場の事故予防だけでなく、子どもの成長発達にもつなげていくか、といった保育や教育の土台となる安全管理のスキルを学ぶ。
参加者数	県内 県外 計	20人 6人 26人	19人 21人 40人	13人 2人 15人
実施場所		岐阜県揖斐郡揖斐川町	岐阜県可児市	岐阜県多治見市
実施時期		11月25日	2月24日	3月9日
事業量 又は 事業内容		「灰谷孝さん講演会」 第1部『子どもの発達と環境の関係性』 第2部『体と心を育てる外遊びや行動と、それぞれの発達のサイン』というテーマで講演会を行った。	「柴田愛子さん講演会」 『子どもの育ち応援しよう～心に寄り添う保育からみえてくるもの～』という内容で、30年以上保育に携わってきた柴田さんを招いて講演会を行った。	「小西貴士さんスライドショー」 午前中に東白川村の雑木林を散策。 午後からは、森の案内人で写真家の小西さんを招き「子どもという自然～森と子どもと学びをどう結んでいくのか～」について講演会を行った。
参加者数	県内 県外 計	28人 7人 35人	87人 12人 99人	36人 0人 36人
実施場所		岐阜県大垣市	岐阜県美濃市	岐阜県加茂郡東白川村

村おこし活動を支援・協働し、森林ボランティアのリーダー養成を図る

奈良県森林ボランティア連絡協議会

〒630-8301 奈良市高畑町1116-6 (公財) 奈良県緑化推進協会内

1. 活動の概要

目的は奈良県曾爾村では「高齢化・過疎化」が進み、森林や里山、地域の自然・環境の荒廃が急激に進行し危機的状況を呈している。「漆の植栽」を通じて村おこし・地域の活性化に取り組んでいる地域の方々等と協働し、森林ボランティアリーダーの養成を図ることである。主な活動は以下のとおりです。

- ①民家裏山の竹が繁殖した人工林の間伐及び竹の伐採②村道沿いの危険な竹林の間伐とその活用③漆復興拠点施設裏山へ柚子を植樹④漆工房見学を始め村おこし事業（焼酎工房、MTBコース等）の視察

2. 活動の成果

- ・民家裏山の所有者が高齢で手入れ不足の森林の桧、竹の伐採をしたことで、景観の回復と自然災害の軽減を図った。
- ・伐採した竹をチップにして植栽地に撒いて草マルチに利用したり、人工林の間伐材搬出を研修し、森林資源の利活用の仕方を学んだ。
- ・地元の方々や林業者から森林作業の指導を受け森林ボランティアリーダーとしての森林活動に対する心構え、知識、技術及び安全について学んだ。
- ・山村と都市住民がこの活動を通して交流を深めて、絆が築かれことで、村おこしに協力するのに大切な双方を結びつける橋渡し役になることを学んだ。

3. 参加者の声

- ・他団体、地元の方々と共同作業を通じ交流を深められた。(70台男性)
- ・プロの指導で安全・確実な方法で太い桧をチェーンソーで伐倒、大迫力でした(50台男性)
- ・昼食・休憩に利用した漆復興拠点施設「ねんりん舎」はギャラリーや薪ストーブがあり素敵な空間でした(20台女性)
- ・簡易ロープウインチによる間伐材搬出は安全性が高く、非力な私でもできた(60台女性)
- ・曾爾村の村おこし事業では若い力である地域おこし協力隊の存在は大きい(40台男性)
- ・協働して植樹した柚子の成長が楽しみ、また訪れたい(70台男性)

実績報告とりまとめ表

実施時期		3月16日	3月17日	計	備考
事業量 又は 事業内容	間伐及び搬出本数	20本		20本	桧、杉40年生
	竹伐採本数	70本		70本	孟宗竹
	植樹本数	10本		10本	柚子
	竹チップ活用量	100kg		100kg	草マルチ材
		搬出実習 講演会	漆工房見学 村おこし事業視察		
参加者数	県内	32人	24人	56人	
	県外	0人	0人	0人	
	計	32人	24人	56人	
実施場所		奈良県 宇陀郡 曾爾村			

森林環境教育推進拠点整備事業

特定非営利活動法人 もりのこえん
〒753-0061 山口市朝倉町 7-65-3

1. 活動の概要

拠点としている山を整備し、持続可能な社会づくりに向け問題解決に必要な能力、態度を身に付けることを目的とした森林環境教育を推進していく場所として整備発展させる。

2. 活動の成果

- ・ 毎回会の最初に、自然の中でのふるまい方をお伝えし、他の場所でも自然環境に負荷をかけない態度を伝えることが出来た。
- ・ 年間を通じて活動することが出来、里山の四季の中での作業や恵みを知ることが出来た。
- ・ 25世帯という小さな集落に、年間延べ284名（助成対象期間内では185名）の方に足を運んでいただき、上天花町の自然を堪能してもらうことが出来た。
- ・ 10年近く放置されていた山林や田畑の整備が進み、市民や子ども達が安全に里山を楽しめる環境づくりが進んだ。
- ・ この事業を実施し、様々な人が上天花町を訪れたことで、近隣の住民の方が耕作放棄地の草刈りや整地を自主的に行い、景観の美化や防災が進んだ。

3. 参加者の声

- ・ 土や火と触れ合うことができて楽しかったです。・ 毒のある植物のお話もためになりました。
- ・ 自然の中で季節の物を楽しくいただくのはとっても幸せな時間でした。
- ・ 畑作りからの作業は初めてで、作業の大変さに驚きました。鎌や鍬などを使うのも初めてで、親子でとても貴重な体験ができて楽しかったです。
- ・ 暑い中にも関わらず、子どもたちが作業を続けているのを見て、普段と違う一面を見ることができました。・ 落花生の生態を知りビックリです。・ 収穫体験等もできてとても楽しかった。
- ・ 子どもが普段より自ら積極的に動いていました。薪割り、火起こしなどの料理が特に気に入ったようです。
- ・ いつもご飯の食べる量が少ない子どもたちがもりもり食べていました。
- ・ 山の中に思った以上にゴミがたくさんあって、分かってはいたけどビックリしました。でも、子どもたちが意欲的に楽しみながらゴミ拾いしていて、やる気になりました。
- ・ ふきのとうがおいしかった。シイタケがどうやって作られるのか初めて知った。
- ・ どの作業も子どもが自分からやろうとする姿が印象的でした。自然からの学び、子ども同士の学びがとても良いと思います。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7/16	8/26	10/21	11/25	12/16	1/14	2/24	3/21	計	備考
事業量 又は 事業内容	ルーサン ブタプロ ジェクト (地域の 清掃)	大根の種 まき&そ うめん流 し	落花生& 芋ほり・ れんげ、 菜の花の 種まき	ゆずもぎ &玉ねぎ の苗植 え・ゆず ジュース づくり	竹林整備 &門松作 り	丸太の椅 子作り& 間伐作業	しいたけ のほだぎ づくり	遊歩道づ くり&た けぼうき づくり& ジャガイ モ植え		
参加者計	15人	19人	30人	13人	10人	33人	35人	30人	185人	県外 なし

徳島県森林づくりリーダー養成講座

とくしま森林づくり県民会議

〒770-8570 徳島県徳島市万代町1-1

1. 活動の概要

県民、企業・団体等の森林づくり活動に対して関心が高まり、活動の支援を行うため、県内に公募し、新たに森林づくりの指導者（森林づくりリーダー）を養成（認定）する講座を実施した。

さらに、これまでに森林づくりリーダーの認定者に対して、スキルアップ及び森林づくり活動の幅を広げるためのスキルアップ講座も実施した。

2. 活動の成果

(1) 森林づくりリーダー養成講座

9月1日から1月26日にかけて、基本講座11回を実施した。

受講生9名のうち、全員が認定基準（講座受講の7割受講）を満たし、平成30年度「徳島県森林づくりリーダー」として認定された。

今後は、養成した森林づくりリーダー資格者名簿を作成し、県内の学校関係や野外活動施設等に送付し、森林づくりリーダーとして活動を行う。

(2) 森林づくりリーダーステップアップ講座

2月6日、17日、24日の3日間、より専門性の高い講座を実施し、リーダー既認定者の11名がスキルアップを図った。

3. 参加者の声

- ・興味のあることばかりで面白く楽しく学べた。これを機会に今後の活動に生かしたい。
- ・とても将来のためになった、楽しかった。
- ・森の中で元気に充実した時間を過ごせた。今後も森林とかかわりたい。
- ・より身近に森林を感じるようになった。
- ・「気づき」が多くあった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	： 平成30年9月1日 ～ 平成31年1月26日	計11日（基本講座）
	： 平成31年2月6日 ～ 平成31年2月24日	計3日（スキルアップ講座）
事業量	： 基本講座11回 スキルアップ講座3回	
参加者	： 県内8名 県外1名 計9名（リーダー養成講座：認定者数9名） 県内10名 県外1名 計11名（ステップアップ講座）	
実施場所	： 徳島県 名西郡神山町、勝浦郡上勝町、徳島市入田町、美馬市美馬町	

平成 30 年度 森林ボランティアリーダー養成講座

情報交流館ネットワーク

〒 782-0078 高知県香美市土佐山田町大平 80

1. 活動の概要

森林環境学習や自然体験活動の指導者の養成及び、森林ボランティアとして森林整備の第一線で活躍するリーダーを養成するとともに、木育や木使いなど木材利用を通して、森に親しみを持ち、森林環境の重要性を普及啓発することの出来る人材を育成する。そしてこの事業で生まれた森林ボランティアリーダーのネットワークを活かし国民参加の森づくり運動を推進することを目的としています。

2. 活動の成果

新たな取り組みとして、短期の講座を多く開催し、7講座全20回を行い、沢山の人の関わりを持ちつながらる機会を作りました。その結果、前年は28名だった受講生も66名と倍増することができました。森づくりや森林環境の重要性、森と人との関わりを伝えていくことで、森林ボランティアリーダーとして活躍する人材をひとりでも多く養成することを狙いとして実施しました。修了後に森林ボランティア団体に入会するなどの動きもあり、高齢化などから弱体している団体の若返りや循環、存続にも寄与し、これらの人材がそれぞれの地域や団体で活躍することで、SDGsの貢献に波及してくと考えます。

3. 参加者の声

- ・無事に終わることができて良かった。チェーンソーの取り扱いについて知識は身についたが、今後経験を重ねていきたい。安全第一で作業することを忘れずに行う。
- ・とても良い経験ができた。すばらしい時間を過ごせた。木と話せるようになった。
- ・スギなどの人工林が多い県下で人々と調和のとれた森づくりの可能性について勉強になった。
- ・山から木を切り出すことが良い経験となった。木の重さ、曲がり方、根のはり方など知らないことばかりだった。

実績報告とりまとめ表

実施時期		平成30年8月19日から平成31年3月10日まで								
事業内容	回数	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
森づくり	8回	8名	8名	6名	9名	7名	5名	6名	6名	55人
森づくりの基本	1回		18名							18人
里山スワッグ作り	1回				11名					11人
木のさじづくり	1回					7名				7人
グリーンウッドワーク	4回					7名 延べ28				28人
木工クラフト講座	2回						6名	6名		12人
炭づくり講座	2回						5名	7名		12人
計		8名	26名	6名	20名	42名	16名	19名	6名	143人
実施場所		高知県香美市土佐山田町大平80番地 高知県立森林研修センター情報交流館、森林総合センター内自然体験ゾーン、協定林								

市民参加型の森林環境保護活動の指導者養成とネットワーク構築

きらめ樹 Oita

〒 879-5101 由布市湯布院町塚原 40-53

1. 活動の概要

2. 活動の成果

- (1) 森のお話会、人工林の手入れ（選木・皮むき、間伐）の指導ための研修実施（1泊2日）
- (2) 間伐材を利用したワークショップ開催の指導（ハチの巣箱づくり）を開催することにより、人工林のお手入れやイベント開催できる方が、12名誕生した。福岡・佐賀・大分・宮崎という九州広域内。今後、このメンバーが主催して実施していく。

また、新たな主催者を養成するために、イベントを開催。実践をすることで、より深く学び、伝えたいこと、伝え方、安全面などを含めて経験を積むことが出来ました。

3. 参加者の声

森林学習は、学校であるけれど、実践型の体験ができて、親子共々、楽しみながら学習が出来た。今の現状・国内・国外の森や自然の現実が分かった。

また、今の自分でもできることが分かった。実践します。

実績報告とりまとめ表

実施時期		8月4日～7日	8月14日	3月12日	計	備考
事業量 又は 事業内容		リーダー養成講座	森林体験学習 (子供向け講師)	蜂巣箱作り WS(講師養成目的)		
参加者数	県内	19人	21人	15人	51人	
	県外	10人	3人	4人	17人	
	計	29人	24人	19人	68人	
実施場所		大分県由布市湯布院町 / 挟間町				

宮崎県みどりの少年団総合研修大会

宮崎県みどりの少年団連盟
〒880-0804 宮崎市宮田町 10-28

1. 活動の概要

(1) 宮崎県みどりの少年団総合研修大会

緑の少年団活動の発表や野外活動等を通じて相互交流を図ることにより、みどりや森林の重要性について理解を深め、自然を敬愛する情操豊かな青少年を育成するため、県下の緑の少年団と育成会が一堂に会し、みどりの少年団活動発表会、演し物披露、木工教室を実施した。

(2) 全国緑の少年団活動発表大会への派遣

総合研修大会の活動発表会において、優秀なみどりの少年団を、今後の活動の充実を図るため、全国緑の少年団活動発表大会に派遣した。

2. 活動の成果

(1) 宮崎県みどりの少年団総合研修大会

活動発表会では、各少年団の特色ある取り組みの情報交換の場になった。また、各団の演し物は他団との積極的な交流が図られ、総合研修大会を和やかにし一体感を醸し出した。

県産材を使った木工製作（ペン立て）は、育成会の方とともに参加するなど、集団活動の実践や親子の密接な絆づくりの場ともなった。

(2) 全国緑の少年団活動発表大会

全国緑の少年団活動発表大会に派遣し、活動のあり方や発表方法など見識を深めた。

3. 参加者の声

(1) 宮崎県みどりの少年団総合研修大会

- ・今年、新燃岳の噴火活動の影響で、例年行っている「ひなもり台県民ふれあいの森」が安全性の観点から変更となり、一日の開催となった。
- ・活動発表会は、各少年団の取り組み状況がわかり今後の活動の参考となった。
- ・各団の演し物では、各団趣向をこらした流行のダンスや太鼓等が披露され、他の団員も一緒になって踊りだすなどの場面もあり、交流の輪が深まった。

(2) 全国緑の少年団活動発表大会への派遣

- ・自然を学ぶだけでなく体験することが大事だと感じた。郷土を愛する気持ちが生まれた。

実績報告とりまとめ表

実施時期		7月21日(土)	11月17日(土)	計	備考
事業量 又は 事業内容		参加少年団数 6 団 活動発表会 3 団 各団演し物 4 団 木工製作 100 セット	全国緑の少年団活動発表大会への派遣 東大宮小みどりの少年団	2 回	
参加者数	県内のみ	少年団員 75 名 育成者指導者 68 名 スタッフ 23 名 計 166 名	少年団 2 名 育成会等 3 名 計 5 名	171 人	
実施場所		宮崎市高岡交流センター	八王子市南大沢文化会館		

座学と体験を通じた子どもリーダー養成事業

特定非営利活動法人 たんぽぽ

〒 892-0842 鹿児島市新屋敷町 16 公社ビル 324

1. 活動の概要

多くの子ども達に森の大切さ・楽しさを伝えていくためには、同じ目線で見れる・伝えられるリーダーの養成が必要である。座学や実践・体験などにより森を深く知る事業とする。

内容：○座学（2回）

○実践・体験（3回）

森林ボランティアの活動

間伐体験

森の楽しみ方について

森のアスレチック体験

シイタケの駒打ち体験

2. 活動の成果

子ども達に森の大切さ・楽しさを伝えていくためには、同じ目線で見れる・伝えられるリーダーの養成を目指したが、ほぼ全員が全5回の参加となり、子どもたちの動向を興味深く見守っていた。その姿には今回参加したリーダーを目指す人たちの強い意欲が感じられた。

今回の活動を一過性の活動として終わらせることなく参加した人たちと連携を取りながらお互いリーダーとしての資質を高めるためにイベント等を実施していきたい。

3. 参加者の声

- ・森のアスレチック体験が楽しくて時間が来ても帰りたくなかった。
- ・森の中のアスレチックを初めて体験した。ターザンロープが怖かったが一度やったらとても楽しく何回もやった。
間伐体験って何なのかわからなかったが話を聞いて実践して間伐の必要性を感じた。
- ・改めて子どもたちの遊ぶ姿を見ていると子どもの特性とか子どもの喜ぶ遊びや危険な行動等がわかった。

実績報告とりまとめ表

実施時期		8月4日	8月21日	9月15日	備考
事業量 又は 事業内容		座学 森林ボランティア の活動	座学 森の楽しみ方につ いて	体験 間伐体験	
参加者数	県内	32人	31人	42人	
	県外	人	人	人	
	計	39人	31人	42人	
実施場所		鹿児島県鹿児島市春山町			

実施時期		10月20日	1月26日	計	備考
事業量 又は 事業内容		体験 森のアスレチック 体験	体験 シイタケの 駒打ち体験		
参加者数	県内	31人	36人	179人	
	県外	人	人	人	
	計	31人	36人	179人	
実施場所		鹿児島県鹿児島市春山町			

国際交流

国際セミナー「森林減少ゼロと SDGs- 実現に向けての課題と取組み」 及び NGO, 企業、専門家会合の開催

一般財団法人 地球・人間環境フォーラム

〒111-0051 東京都台東区蔵前 3-17-3 蔵前インテリジェントビル 8F

1. 活動の概要

海外の森林資源（木材・紙、パーム油等）に頼る日本が、森林減少ゼロに向けて何をすべきかを考えることを目的に、海外ゲストを招いて国際セミナー「森林減少ゼロと SDGs- 実現に向けての課題と取組み」及び NGO 等との会合を開催しました。

2. 活動の成果

国際セミナーには企業を中心に 66 名が参加し、会合は 1 回目 8 名、2 回目 10 名が参加しました。森林減少ゼロを実現するためのツールである高炭素貯蔵アプローチ（HSCA）について学び、森林減少ゼロに向けた世界と日本の取組みや、CDP による投資家向けに企業の気候変動・森林減少への取組み情報を提供する働きかけなどについて理解を深め、議論を行いました。

今回 HSCA について日本で紹介するのは初めてでしたが、多くの企業関係者、NGO や研究者と情報を共有することができました。

森林減少ゼロへの取組みは、今後さらに重要になると考えられるため、現場視察の機会を設け、海外の森林資源に依存する日本の企業の具体的な取組みに結び付けることができるよう、情報発信、議論、学びの機会を作っていく方針です。

3. 参加者の声

- ・内容がわかりやすかった。勉強になった
- ・森林減少ゼロに向けて取り組むべき理由となる情報を得られた
- ・現実的な手法に関する情報だった
- ・森林減少ゼロはまだ遠いことを認識した
- ・具体的なアプローチが聞けて良かったが一企業が取り組むにはハードルが高い
- ・協働により進める方向性に共感を持てた

実績報告とりまとめ表

実施時期		2月3日	3月14日	3月15日	備考
事業量 又は 事業内容		ディスカッション 第1回	国際セミナー開催	ディスカッション 第2回	
参加者数	計	8人	66人	10人	
実施場所	東京都渋谷区、東京都千代田区				

平成30年度「緑と水の森林ファンド」公募事業 実行簿

普及啓発事業 73件

番号	申請者	事業名	都道府県	採択額 (千円)	実行額 (千円)	備考
A1	NPO法人 こどもサポートふらの	「森のようちえん」啓発及び森林公園活性化事業	北海道 (新規)	350	242	
A2	第4回 全国木のまちサミット実行委員会	第4回全国木のまちサミット2018 in つべつ	北海道	850	850	
A3	青森県緑の少幼年団連盟	少年・少女グループへの緑を通じた環境教育推進事業	青森	500	500	
A4	沖館地域緑の募金推進協力会	眺望山自然休養林を活用した健康増進活動	青森 (新規)	200	200	
A5	岩手県立 大野高等学校	里山整備に若い力を～全校マツタケ山づくり～	岩手	400	326	
A6	大野木工生産グループ	～森のめぐみ・子どもたちへのメッセージ～「ど んぐりからうつわまで」出前講座開設事業	岩手	900	900	
A7	「かえでの木」絵本づくりプロジェクト	～かえでの木の命を伝える～「かえでの木物語 絵本」作成事業	岩手	550	550	
A8	特定非営利活動法人 水守の郷・七ヶ宿	SDGs 水源の森でアクション！～水づくりは未 来づくり～	宮城	400	400	
A9	NPO法人 SCR	自然にふれよう	宮城	300	300	
A10	ガールスカウト 山形県連盟	フォレストサポート・2018	山形	200	200	
A11	一般社団法人 岳温泉観光協会	地元保育園、小学生を含むファミリー向け森遊 びプログラム	福島	700	202	
A12	子育てネットワーク ままもり	木のおもちゃ広場の開催	茨城	800	800	
A13	特定非営利活動法人 やみぞの森	地域材による木工技術の普及と木材利用の拡大 事業	茨城	850	850	
A14	特定非営利活動法人 オオタカ保護基金	サシバの里の「野遊びようちえん」	栃木	250	250	
A15	ぐんま山と森林推進協議会	森に親しむ啓発活動	群馬	350	350	
A16	ぐんま森林インストラクター会	森はともだち 楽しくまなぼう 森友 楽校	群馬	400	400	
A17	NPO法人 ジョイライフさやま	環境の未来と夢を子供たちとともに	埼玉	450	450	
A18	木の家ネット・埼玉	匠の技の実感体験による木育・森育の面的拡大 事業	埼玉	650	649	
A19	特定非営利活動法人 観照ボランティア協会	子どもと森・緑・水をつなぐための環境教育リ ーダー養成講座(第3回)	千葉	400	400	
A20	一般社団法人 全国林業改良普及協会	森林整備の推進に向けた効果的な普及啓発促進 事業	東京	450	358	
A21	一般社団法人 緑の循環認証会議	森林認証材の普及・拡大と持続可能な森林経営 の実現	東京	800	800	
A22	一般社団法人 産業環境管理協会	森林の環境保全機能等を巡る国内外の動向に関 する啓蒙普及活動	東京	700	700	
A23	International Society of Nature and Forest Medicine (INFOM)	医師と歩く森林セラピーロード	東京	1,000	1,000	
A24	特定非営利活動法人 森のライフスタイル研究 所	八王子市の保育園で行う八王子産材を使ったお 箸作りを通じた森林環境教育	東京	350	350	
A25	特定非営利活動法人 森づくりフォーラム	森林ボランティアの新規参加の促進と指導者層 の育成事業	東京	900	900	
A26	「森づくり政策」市民研究会	森林社会学会創設のための連続講座運営 事業	東京	800	800	
A27	一般社団法人 TOBUSA	木で作って木を知るプログラム	東京	1,000	1,000	
A28	認定NPO法人 JUON NETWORK	森づくり体験プログラム「森林の楽校(もりの がっこう)」2018・2019	東京	600	0	未提出

A29	特定非営利活動法人 こがねい環境ネットワーク	都市部における若者による森林環境教育の実践	東京	550	550	
A30	木と建築で創造する共生社会実践研究会	地域に根ざした木の建築研修会	東京	700	677	
A31	一般社団法人 木のいえ一番振興協会	「木のいえデザイン×耐久性シンポジウム」の開催	東京	1,000	988	
A32	特定非営利活動法人 森林復興支援	地域住民による東山風景林の季節ごとのPR情報整理と観光情報としての発信	東京(新規)	550	0	辞退
A33	壁-1 グランプリ実行委員会	木の壁が支える強く・美しく・安らぐ木造住宅普及と技術者育成の取り組み～壁-1 グランプリ～	東京(新規)	750	750	
A34	一般社団法人 全国森の循環推進協議会	「水が繋ぐ地域と世代」促進事業	神奈川	1,000	1,000	
A35	一般社団法人 文化遺産を未来につなぐ森づくり会議	木造文化遺産補修用材の持続的な確保について～文化財所有者側と森林所有者、伝統建築関係者との連携を考える～	神奈川	700	700	
A36	里山銀杏峰を愛する会	命の水を育む銀杏峰を癒しの森に	福井(新規)	300	300	
A37	特定非営利活動法人 山県楽しいプロジェクト	森フェスINぎふ山県の開催	岐阜(新規)	400	400	
A38	特定非営利活動法人 まあむ	「表現の森で遊ぶ」五感で森を感じるプログラム	岐阜	300	270	
A39	公益社団法人 静岡県林業会議所	森から始まる、みんなで作る木製遊具作り	静岡	550	550	
A40	特定非営利活動法人 伊豆学研究会	地産材を活用した木工作品の公募展	静岡	600	427	
A41	梨の木里山づくりの会	梨の木の森を楽しむ学ぶ森林環境教育	愛知	250	250	
A42	特定非営利活動法人 水とみどりを愛する会	小学校授業での森林体験学習	愛知	550	439	
A43	特定非営利活動法人 もりの学舎自然学校	幼児親子自然体験【もりのいきものさんぽ】	愛知	400	0	未提出
A44	一般社団法人 おいでん・さんそん	「はじめての山仕事ガイド」制作・啓発事業	愛知	350	350	
A45	一般社団法人 森の風	もりであ～そぼ!	三重	300	300	
A46	三重県クッパ協会	木にふれて遊ぶ「クッパ」による森林ESD・木育の推進	三重	200	0	未提出
A47	一般社団法人 三重県森林協会	ユネスコエコパークの森 林道ウォーキング	三重	200	200	
A48	特定非営利活動法人 京都森林・木材塾	地域産木材利用促進啓発事業	京都	250	250	
A49	藪の傍	未利用バイオマス資源化と整備促進	大阪	500	500	
A50	NPO 法人 サウンドウッズ	地域の森と地域産木材の魅力を伝える「木材コーディネーター」養成事業	兵庫	850	850	
A51	登美ヶ丘北中学校区地域教育協議会	とみきたひつじクラブ	奈良	600	600	
A52	森のようちえん全国交流フォーラム in とっとり実行委員会	第14回森のようちえん全国交流フォーラム in とっとり	鳥取	1,000	1,000	
A53	「とっとりからグリーンウェイブの風を! in 倉吉」実行委員会	「とっとりからグリーンウェイブの風を! in 倉吉」	鳥取	700	700	
A54	NPO 法人 倭文の郷	里山保全の普及啓発	岡山	450	450	
A55	おかやま木育クラブ	おかやま木育活動(木工・自然クラフト体験・森林環境学習)	岡山	500	500	
A56	木育普及委員会	木育グランピング	広島	600	600	
A57	特定非営利活動法人 徳島県森の案内人ネットワーク	少年少女里山マイスター養成講座	徳島	600	600	
A58	とくしま木づかい県民会議	「とくしま木づかいフェア 2018」の開催	徳島	750	750	
A59	とくしま木造建築学校運営協議会	とくしま木造建築学校・配信コンテンツ作成事業	徳島(新規)	450	450	
A60	四国の森づくりネットワーク	森林の公益的機能の理解を深めるためのシンポジウムと現地見学会	愛媛(新規)	700	700	

A61	緑の少年団愛媛県連盟	学校林を活用した緑の少年団活動の事例発表による森林ESDの推進と、アラスカ写真家の講演会開催	愛媛(新規)	400	400
A62	ふくつ子どもステーション すてっぷ	五感で森に親しみ森に学ぶ乳幼児期からの体験型森林環境教育事業	福岡	700	700
A63	ふくおか森づくりネットワーク	森林と市民を結ぶ全国の集いから10年 福岡・九州のこれからの森林づくりを考える	福岡	650	649
A64	糸島くるくるマーケット実行委員会	竹林整備で高齢者に生きがいと健康を!	福岡(新規)	650	650
A65	特定非営利活動法人 森林をつくろう	森林と都市を繋ぐ「新・木造の家」設計コンペ	佐賀(新規)	800	800
A66	九州森林インストラクター会	森と水を学ぶ面白塾	熊本	300	298
A67	NPO法人九州森林ネットワーク	第23回九州森林フォーラム in 福岡市～森林環境税で変わる!? 森林管理と森の暮らし～	大分	650	613
A68	スマイリー	森林ボランティア体験を通じて森を知る事業	鹿児島	500	500
A69	特定非営利活動法人 鹿児島ボランティアバンク	女性目線の森林体験PART II事業	鹿児島	500	500
A70	特定非営利活動法人 みどりの風かんかん	森づくり・人づくり事業	鹿児島	500	500
A71	鹿児島県森林ボランティア連絡会	「平成30年度森林ボランティアの日活動 in 川内」	鹿児島	800	800
A72	おやゆび姫	森を身近に感じる体験プログラム	鹿児島(新規)	550	550
A73	こどものけんちくがっこう	NPO法人こどものけんちくがっこう	鹿児島(新規)	500	500

小計 73件

41,200 38,289

調査研究事業 10件

番号	事業名	申請者	都道府県	採択額(千円)	実行額(千円)	備考
B1	一般社団法人 全国森林レクリエーション協会	森で行う園外保育と外部講師の実施する森林環境教育の連携に関する調査	東京	900	900	
B2	一般財団法人 林業経済研究所	再造林の確実な実施に向けた苗木生産面からの検討-熊本県を事例に-	東京	800	800	
B3	Momo 統合医療研究所	「働き方改革実行計画」に合わせた、森林空間を活用したメンタルヘルス対策推進の仕組みづくり・プログラム開発・効果検証	東京	700	700	
B4	認定NPO法人 FoE Japan	中小林業地と都市側国産材需要層とのマッチングに関する調査研究	東京	550	357	
B5	特定非営利活動法人 国際理解教育センター	中等教育における森林ESD推進のための環境教育指導者ネットワークづくりに関する調査研究	東京(新規)	750	451	
B6	公益財団法人 キープ協会 / 都留文科大学	「持続可能な地域づくりにおける幼児を対象とした森林環境教育の意義と役割に関する研究」	山梨	200	200	
B7	兄弟木の駅会議	2019 全国木の駅センサス 調査結果要約	愛知	500	500	
B8	公益社団法人 島根県緑化推進委員会	森林環境教育プログラムの開発に係る調査研究	島根	1,000	1,000	
B9	諸県の下刈りを楽にする会	適切な再造林のための下刈り省力化研究事業	宮崎	500	500	
B10	奥山 洋一郎 (鹿児島大学農学系)	学校・地方自治体等による森林環境教育の実施体制に関する研究	鹿児島	700	700	

小計 10件

6,600 6,550

活動基盤整備事業 19 件

番号	事業名	申請者	都道府県	採択額 (千円)	実行額 (千円)	備考
C1	大沼マイルストーン 22	国際ボランティアと地域住民による森林保全活動と、「SDGs15」推進事業	北海道	300	0	未提出
C2	学校法人 尚綱学院	尚綱の森を創る「里山再生プロジェクト」	宮城	450	450	
C3	特定非営利活動法人 Peace Field Japan	留学生と日本の大学生を対象とした森林環境教育プログラム	東京	250	250	
C4	子ども樹木博士認定活動推進協議会	「子ども樹木博士」実施団体の拡大・ネットワーク化の推進	東京	900	900	
C5	公益財団法人 Save Earth Foundation	「森から学ぶ」森林を活用した環境教育(森林ESD)の推進	東京	600	560	
C6	上智大学大学院 地球環境研究科	学生と地域住民の両方を対象とした総合的な環境学習・ESDのフィールドとしての「ソフィアの森」の整備	東京	400	369	
C7	NPO 法人 木づかい子育てネットワーク	木と森の子育て実践とその支援を担う KIZUKI ママ・パパの養成	東京 (新規)	800	800	
C8	認定 NPO 法人 えんがわ	冒険の森再生プロジェクト	石川 (新規)	400	233	
C9	NPO 法人 子育て支援センター ちびっこはうす	うじゅうの森 子育て・森育て 東屋プロジェクト	山梨 (新規)	300	300	
C10	NPO 法人 やまぼうし自然学校	地域・企業・NPO 等と学校が連携した「信州型森林 ESD」地域推進体制の構築事業 VOL2	長野	400	0	未提出
C11	特定特別非営利法人 まめつてえ鬼無里	伐木造材の安全講習会と森林資源活用のしくみを考えるワークショップ	長野 (新規)	750	750	
C12	森と自然の楽校 きいわ	身近な森や里山など地域の自然環境を活用した「森のようちえん にっこ」を立ち上げ運営する。森林 ESD の講座、指導者養成講座の実施	長野 (新規)	350	350	
C13	ぎふ森のようちえんリレー交流会実行委員会 び森のようちえん こだぬき	ぎふ森のようちえんリレー交流会	岐阜	650	650	
C14	奈良県森林ボランティア連絡協議会	村おこし活動を支援・協働し、森林ボランティアのリーダー養成を図る	奈良	450	349	
C15	特定非営利活動法人 もりのこえん	森林環境教育推進拠点整備事業	山口 (新規)	400	400	
C16	とくしま森林づくり県民会議	徳島県森林づくりリーダー養成講座	徳島	650	650	
C17	情報交流館ネットワーク	平成 30 年度 森林ボランティアリーダー養成講座	高知	600	598	
C18	きめら樹 Oita	市民参加型の森林環境保護活動の指導者養成とネットワーク構築	大分 (新規)	750	465	
C19	宮崎県みどりの少年団連盟	宮崎県みどりの少年団総合研修大会	宮崎 (新規)	700	643	
C20	特定非営利活動法人 たんぼぼ	座学と体験を通じた子どもリーダー養成事業	鹿児島 (新規)	500	500	

小計 20 件

10,600 9,700

国際交流事業 2 件

番号	事業名	申請者	都道府県	採択額 (千円)	実行額 (千円)	備考
D1	一般財団法人 地球・人間環境フォーラム	国際セミナー「森林減少ゼロと SDGs 一実現に向けての課題と取組み」及び NGO、企業、専門家会合の開催	東京	900	900	
D2	特定非営利活動法人 NICE (日本国際ワークキャンプセンター)	地球温暖化を防ぐ、世界森林ボランティア・産学官民サミット	東京	700	0	未提出

小計 2 件

1,600 900

平成 30 年度

「 緑と水の森林ファンド 」

公募事業募集要領

公益社団法人 国土緑化推進機構

〒102-0093 東京都千代田区平河町 2-7-4 砂防会館別館（B棟5F）

TEL 03-3262-8457 FAX 03-3264-3974

平成30年度「緑と水の森林ファンド」公募事業募集要領

はじめに

社会環境の変化に伴い、国民の森林・みどりに対する関心はますます高まっており、具体的な「国民参加の森林づくり運動」を一層推進することが課題となっています。

平成24年12月「国際森林デー」の制定、平成25年11月「国連持続可能な開発のための教育10年（ESD）」世界会議等の意義を念頭に、森林の重要性に対する理解の推進を図るとともに、森の幼稚園など新たな森林の利用や森林環境教育の推進を具体的に図っていくことが重要となっています。さらに、東日本大震災では海岸林が多大な被害を受け森林復興への支援が引き続き求められています。

このような中、公益社団法人国土緑化推進機構では、「緑と水の森林ファンド」の基本課題である森林資源の整備及びこれらを通じた水資源のかん養や森林の利用等に関する総合的な調査研究、普及啓発、基盤整備等の推進を図るため、幅広い民間団体の参加による国民運動として展開することを目的に、「緑と水の森林ファンド」公募事業を実施します。

以下に定める事項に基づき申請して下さい。

〔重点項目の設定〕

「緑と水の森林ファンド」公募事業による助成は、以下の重点項目に沿った4分野（普及啓発、調査研究、活動基盤の整備、国際交流）の事業に対し、重点的に助成を行うこととします。

《重点項目》

- 1 「森林環境教育（森のようちえんを含む）」、「震災復興支援」、「地域材の利用」、「地球温暖化防止と森林」、「森林と水」、「森林の利用」等の課題にポイントを置いた総合的・効率的な普及啓発
- 2 地域材の利用促進等山村資源の有効活用等による山村地域の活性化
- 3 リーダーの養成等の森林ボランティア活動支援
- 4 学校林活動の推進など森林環境教育（森のようちえんを含む）等による次世代の育成
- 5 森林の公益的機能、木質バイオマス、森林環境教育等に関する普及啓発・調査研究

〔1〕助成対象者

(1)民間の非営利団体（次の①又は②のいずれかに該当する団体や地域の自主的な活動組織）

①「特定非営利活動促進法」（平成10年法律第7号）に基づく特定非営利活動法人

②以下の要件を満たす団体等

ア 規約等により適正な運営が行われることが確実であると認められること。規約等には、名称、事務所、会員、役員の構成、事業運営、会計年度等について規定されていること。

イ 営利を目的としないこと。

(2)非営利の法人

(3)個人（調査研究に限る。）

〔2〕助成対象事業

1 普及啓発

(1) 森林・緑・水に対する国民の認識を深めるための普及啓発

(2) 青少年を対象とする森林ESDの推進（森のようちえんを含む）など森林環境教育の促進

- (3) 森林づくり活動や森林の総合的利用を通じた山村地域の活性化・地域づくり運動の推進
- (4) 地域材の利用・木材需要の拡大、古紙利用推進に関する普及啓発

2 調査研究

- (1) 森林の保全・公益的機能の増進等に関する調査研究
- (2) 青少年を対象とする森林ESDの推進（森のようちえんを含む）など森林環境教育に関する調査研究
- (3) 学校林や学校周辺林の教育的活用のための調査研究
- (4) 地域材・山村資源の有効活用等山村地域活性化に関する調査研究

3 活動基盤の整備

- (1) 森林ESD（森のようちえんを含む）など森林を活用した環境教育等の青少年の育成に関するもの
- (2) 森林ボランティアリーダーの養成・ネットワーク構築等
- (3) 森林づくり活動を通じた農山村と都市住民等との交流促進

4 国際交流

- (1) 国内で開催される森林に関する国際会議への支援
- (2) 森林・林業に関する海外との情報交換

ただし、上記〔1〕、〔2〕に該当するものであっても次の各号に該当する場合は、助成の対象となりません。

- ① 専ら特定の事業者の利益のために行われるもの
- ② 他の団体等への資金の助成等を内容とするもの
- ③ 事業が申請者の負担において行うべきものと認められるもの
- ④ 事業内容が一般に広く波及効果があると認められないもの
- ⑤ 事業が自主的・組織的な活動と認められず、適切に完遂できると認められないもの

〔3〕事業期間

平成30年7月1日から平成31年6月30日まで

〔4〕助成対象経費

（1）助成の対象となる経費は、次のとおりです。

項 目	区 分	摘 要
講師・指導者・学識経験者への謝金等	謝 金 等	外部からの招請者に限る。 （旅費：実費、宿泊費：ビジネスホテル程度。）
調 査 研 究 費	労 賃 等	外部の技術者等（旅費実費・宿泊費ビジネス）
会 場 費	借 上 料	設営費を含む。
事 務 費	用 品 費	
	印 刷 費	報告書・パンフ・チラシの作成
	通 信 費	
資 材 費	そ の 他	
	器具・用具代	購入（事業実施に必要な簡易なもの）、借上げ
	受入れ施設費	公共施設等を宿舍として一括借上げる場合の宿泊費
森林づくり活動等のボランティア活動	交 通 費	事業場所最寄り（公共交通の最終地点）の集合・解散場所から事業場所までの交通実費（チャーター料等）
	保 険 料	ボランティア等傷害保険料

(2) 助成の対象とならないもの

①食糧等飲食費。

②汎用性があり資産の形成につながる資材の購入。

③森林ボランティア活動の ア 労賃

イ ホテル、旅館、厚生施設等の宿泊費

ウ 居住地から事業場所最寄り（公共交通の最終地点）の集合・解散場所までの交通費

[5] 助成金の限度

団体100万円、個人70万円

[6] 応募方法（助成申請書の提出）

申請者は、[様式1]「緑と水の森林ファンド」公募事業助成申請書を（公社）国土緑化推進機構へ提出して下さい。

[送付先] 公益社団法人 国土緑化推進機構 基金業務部あて

〒102-0093 東京都千代田区平河町 2-7-4 砂防会館別館（B棟 5F）

TEL 03-3262-8457 FAX 03-3264-3974

[7] 募集期間

平成30年2月15日から平成30年3月31日まで（消印有効）とします。

[8] 助成申請書に対する採択・不採択の決定及び通知

助成申請書に対する採択・不採択については、森林ファンド業務検討会及び森林ファンド運営審議会の審議並びに当機構の理事会を経て決定します。

また、助成金額は、その適正な交付を行うため、当機構理事長が当該助成申請書を審査して決定し、7月上旬申請者に[様式2]により通知します。

[9] 実績報告書等の提出

事業採択を受けた申請者は、事業の開始前に「別紙1」のスケジュール表を提出して下さい。

また、事業完了（助成決定通知から1年以内）後2ヶ月以内に[様式3]の「緑と水の森林ファンド」公募事業実績報告書と「別紙2：報告要旨」を当機構に提出して下さい。なお、[別紙2：報告要旨]は、報告集として取りまとめ公表致しますので、電子データでの提出もお願いする予定です。

[10] 領収書の添付

実績報告書の提出に当たっては、同報告書の2決算報告(2)の支出欄の森林ファンド助成金支出内訳の決算額に対する領収書（明細書を含む。）を添付して下さい。

[11] 助成金の交付

(1) 助成金の交付は、事業実績報告書を助成申請書の事業計画等に即して審査を行い、適当と認められた経費を確定し、その旨を通知した後、指定の口座に送金します。

(2) 事業着手後に助成金の一部が必要な場合は、助成交付決定額の1/2以内の額を[様式4]により、概算請求をすることができます。

「緑と水の森林ファンド」公募事業 報告集 Vol. 10

令和2年2月発行

発行 公益社団法人 国土緑化推進機構

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-7-4 砂防会館別館

TEL.03-6362-8457 FAX.03-3264-3974

電子メールアドレス : info@green.or.jp

URL : <http://www.green.or.jp>



緑と水の森林ファンド



第4回全国木の町サミット 2018inつべつ 第4回 全国木の町サミット実行委員会(北海道)